

大学における自校教育の導入実施と
大学評価への活用に関する研究

(課題番号 20600002)

平成 20～22 年度科学研究費補助金
基盤研究 (C) 研究成果報告書

平成 23 年 3 月

研究代表者 大川 一毅 (岩手大学・准教授)

〈 は し が き 〉

研究報告書の発行にあたって

研究の目的

本研究は、大学で実施される「自校教育」について、全国大学における実施状況を調査し、その結果をふまえながら「全学共通教育」等の授業科目・教育プログラムとしての意義と課題を考察することを目的とした。これにあわせ、「自校教育」の成果を大学評価指標として活用することについても検証した。

本冊子は、研究目的にしたがって実施したアンケート調査結果、及びこれをふまえた各大学シラバスの検証、並びに自校教育に関する大学機関別認証評価での評価結果を確認し、これらを取りまとめたものである。

研究の着想経緯

① 「自校教育」について

大学における「自校教育」とは、「大学の理念、目的、組織、沿革、人物、教育・研究の現況など、自校（自学）に関わる特性を教育題材として実施する一連の教育・学習活動」である。

自校教育が積極的に導入・実施された背景には、①大学設置基準の大綱化に伴う教養教育の多様化要請、②大学理念・目的の明確化・周知の必要性、③「大学間競争時代」に対応した在校生・教職員・卒業生の愛校心・連帯意識の涵養、④「評価者」としての学生の自学認識の促進、などが考えられる。

また、学生が体験や問題意識を共有できる「大学」が学習テーマであることにより、自校教育授業は「主題別授業科目」としても適している。

② 研究の着想経緯

研究対象として「自校教育」を着想したのは、大学評価業務に関わるなかで、自学の理念や教育目的について、これを全学的に周知することの必要性とその難しさに直面したことにある。

ここにおいて、教養教育科目として実施していた自校教育授業に着目した。学生にとって、自校教育授業は自学の理解と認識を深めていく契機となり、自らの学びの指針を得ることもできる学習機会である。加えて、学長、理事も含め、大学教員や職員が「自校教育」に関わるならば、大学の将来像や現状課題に対する共通理解を促すことになり、そのことは大学運営や将来計画構築にも有効に反映されると考えた。

こうして、全国国立大学における自校教育の実施状況調査に着手することになった。

研究の方法と成果

① 研究方法

平成20年度から平成22年度までの3箇年において、以下の調査研究を推進した。

- (1) 国公立全大学における自校教育授業の実施状況調査とその分析
- (2) 「実施目的別（類型別）」による自校教育授業の検証
- (3) 大学評価への活用に関する検証

実施状況調査にあたっては、平成20年8月に全国の国公立すべての752大学に郵送で調査アンケートを依頼し、373大学より回答を得た（回収率49.6%）。

回答は集計分析を行い、その結果に基づいて該当大学が公表するシラバスで自校教育授業の到達目標、実施計画、成績評価方法等を検証した。また、山形大学、神戸大学、広島大学を訪問し、自校教育の具体的状況に関するヒアリングを行った。

大学評価への活用については、平成16年度から平成21年度までの3つの「認証評価機関」が公表した「評価報告書」における自校教育に関する記載を検証した。

② 研究成果

アンケート調査から、平成20年度時点において136大学が自校教育授業を「実施している」と回答した（全国大学総数の18%）。回答からは196授業を確認した。

実施目的や授業内容については「自学の理念・使命・目的の周知」、「自校史・沿革の理解」が回答上位である。授業目的の設定では「学士力」との関わりもうかがえた。

実施上の課題として、「担当教員の選定」、「授業内容の整合性」、「授業目的や到達目標の設定」など、複数教員体制に起因する課題や授業の「質保証」の課題があがった。

自校教育授業について、各大学のとらえ方や位置や実施形態は多様であった。自校教育授業の多くは、学生が大学で学ぶことの意義や学習指針の形成を見出すことに寄与する目的で実施する場合が多かった。

認証評価においては、自校教育の取組について3つの認証評価機関とも「大学の目的周知として有効」あるいは「大学の個性に応じた初年次教育」と評価し、いくつかの実践は「優れた取組」として別途記載されていた。

今後の研究課題として、授業評価結果や教育成果の検証も含め、授業改善の視点に立った考察が必要である。各大学にとっては、自校教育授業の「学習成果」の検証、「カリキュラムポリシー」の中での位置づけの確認等が今後の課題となろう。

研究成果の活用

調査協力大学に提供した「調査結果報告（平成20年度発行）」は、いくつかの大学で初年次教育に関わる実践や委員会等で活用され、研究論文でも引用されている。

本研究による調査結果等は新聞記事として掲載されたほか、自校教育をテーマとするシンポジウム資料としても利用された。

研究組織

研究代表者：大川 一毅 (岩手大学 評価室 准教授)

交付決定額 (配分額)

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
平成20年度	500,000	150,000	650,000
平成21年度	500,000	150,000	650,000
平成22年度	400,000	120,000	520,000
総計	1,400,000	420,000	1,820,000

研究発表

(1) 論文

① 大川 一毅

「全国大学における自校教育の実施状況

—2008年度「自校教育実施状況調査」をふまえて—

大学教育学会「大学教育学会誌」第31巻(第1号)、2009年、172-178頁

② 大川 一毅

「自校教育の現況と今後の課題」

日本私立大学連盟「大学時報」第58巻328号、2009年、48-55頁

(2) 学会発表

① 大川 一毅

「全国大学における自校教育授業の導入・実施状況」

—2008年度「大学における自校教育の実施状況調査」をふまえて—

日本高等教育学会 第12回大会、2009年5月24日、長崎大学

② 大川 一毅

「大学における自校教育授業の実施目的と内容・方法

—2008年度「大学における自校教育の実施状況調査」をふまえて—

大学教育学会 第31回大会、2009年6月7日、首都大学東京

③ 大川 一毅

「自校教育授業における「到達目標」と「学士力育成」」

日本教育学会第69回大会、2010年8月21日、広島大学

(3) その他

① 新聞記事掲載

- ・読売新聞、2008年2月18日 全国版朝刊、「論点」欄
寺崎昌男「広がる自校教育 大学史を通じ居場所探し」(資料提供・記名引用)
- ・毎日新聞、2009年10月22日 東京夕刊
【自校教育：「建学精神や伝統、講義で」大学認証評価制度の導入で広まる】
(取材応答：記名報道・資料引用)
- ・西日本新聞、2010年2月22日 朝刊、「社説」
【「大学とは何か」本質問う 広がる自校教育】(取材応答：記名報道・資料引用)
- ・河北新報、2010年8月6日 朝刊、教育欄
【「自校教育」大学で広がる】(取材応答：記名報道・資料引用)

② シンポジウム等での記録

- ・立教大学「特色ある大学教育支援プログラム採択記念シンポジウムⅣ」
「自校教育の到達点と今後の課題」 2009年1月24日
『立教大学「大学教育研究フォーラム」第14号、2009年3月、45～56頁』
※「第3部 討論」に質疑応答時の記録を掲載
- ・全国大学史資料協議会「2010年度全国研究会」パネルディスカッション
「大学史編纂・史料保存と自校史教育」 (ゲストコメンテーター)
2010年10月6日、放送大学熊本学習センター(熊本大学内)
『全国大学史資料協議会「研究叢書12」(2011年秋刊行)』にパネル・ディス
カッションでの記録を掲載予定)

③ 報告書

- 2008年度実施「大学における自校教育の実施状況調査」アンケート報告書
(2009年3月、岩手大学 大川一毅)

謝 辞

本研究は、全国国公立大学の自校教育授業担当者様・担当部署様からアンケート回答のご協力をたまわりまして遂行できました。心より御礼申し上げます。

また訪問調査では、山形大学(小白川事務部修学支援ユニット)、神戸大学百年史編纂室(現：附属図書館大学文書資料室)野邑理栄子先生、広島大学文書館・小池聖一先生、小宮山道夫先生、同大学財務総務室・宮脇克也様、同大学学長室・松崎和俊様から貴重なご教示をたまわりました。各位ご高配に、あらためて御礼申し上げます。

平成23年3月 大川 一毅

目 次

I.	「自校教育授業」の導入・実施概況	
1	「大学における自校教育実施状況調査」報告	6
	資料：「大学における自校教育の実施状況調査」アンケート（調査用紙）	38
II.	自校教育授業における「到達目標」と授業内容・評価	
1	授業類型別にみる自校教育授業（目標、内容構成、成績評価）	48
	(1) 「自校理解教育」類型授業	48
	(2) 「初年次教育」類型授業	53
	(3) 「大学史（自校史）教育」類型	55
2	自校教育授業終了時における学生の感想	58
III	認証評価結果にみる「成果」としての自校教育	
1	自校教育の実施による「大学目的の周知」に関する評価	60
	(1) 大学評価・学位授与機構による評価結果	60
	(2) 大学基準協会による評価結果	62
	(3) 日本高等教育評価学会による評価結果	63
2	「初年次教育科目」で実施する自校教育への認証評価結果	64
3	自校教育に位置づける「大学理念実質化」授業	66
	参考資料：	
(1)	論文「全国大学における自校教育の実施状況 —2008年度「自校教育実施状況調査」をふまえて— 大学教育学会「大学教育学会誌」第31巻（第1号）2009年、抜き刷り	70
(2)	日本高等教育学会 第12回大会 発表要旨	78
(3)	大学教育学会 第31回大会 発表要旨	80
(4)	日本教育学会 第69回大会 発表要旨	82

I 「自校教育授業」の導入・実施概況

1 「大学における自校教育実施状況調査」報告：2008年度8月実施

アンケート調査について

調査の趣旨： 自校教育授業実施の意義や可能性、あるいは課題を検討するための礎石として、全国の大学における自校教育授業の導入・実施状況調査を行ない、現況を明らかにする。

調査の実施： 本報告の資料とするアンケート調査は、2008年8月に「平成20年度科学研究費補助金 基盤研究(C)『大学における自校教育の導入・実施と大学評価への活用に関する研究』(研究代表者：大川一毅)」の一環として実施したものである。

アンケートは、全国の全大学752校(国立大学86校、公立大学75校、私立大学591校：大学院大学も含む)に回答用紙を送付し、協力を依頼した。

そのうち373大学(国立62大学：回収率72%、公立51大学：同68%、私立260大学：同44%、全体として49.6%)から返答を受けた。

報告書の作成： 本報告の作成にあたっては、アンケートの設問項目に対応して取りまとめた。

にあたって 報告中の事例紹介については、回答で示された各大学の意向により、記名もしくは無記名で公開許可を得ているものにとどめている。

なお、アンケート未回答大学のなかにあっても自校教育授業が実施されていることを確認しているが、本報告の集計や事例紹介はアンケート回答のみにもとづいている。

はじめに

◎ 自校教育の定義として

アンケートの実施にあたり、自校教育の定義を「大学の理念、目的、制度、沿革、人物、教育・研究等の現況、社会的使命など、自校に関わる特性や現状、課題等を中心的な教育題材として実施する一連の教育・学習活動」とした。「自校教育授業」を実施していることの判断は、上記定義に則して各大学に委ねた。

アンケートの設問 (アンケート内容は巻末参照)

設問1	「自校教育」授業の実施について
設問2	「自校教育」授業の実施状況について
設問3	「自校教育」授業の実施目的について
設問4	「自校教育」授業の内容と方法
設問5	「自校教育」授業の種類
設問6	学生による授業評価
設問7	同窓会組織との関係
設問8	「自校教育」授業実施にあたっての対応課題・問題点
設問9	「自校教育」について(自由記述)

1. 自校教育授業の実施状況

(1) 実施大学数(実施の有無)

- ・調査した全国 752 大学のうち 136 大学が自校教育授業を「実施している」と回答。

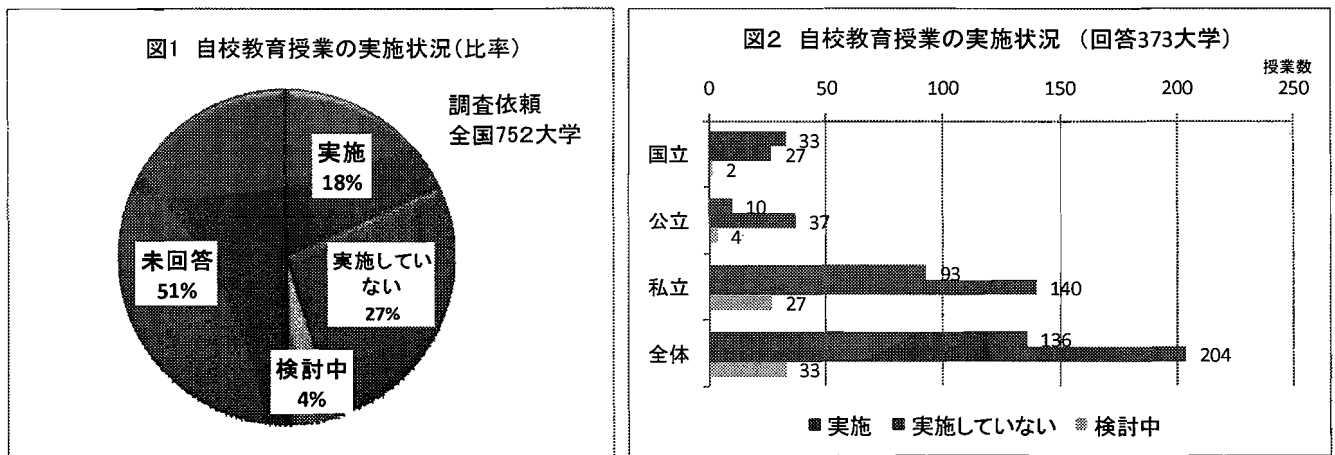
(図 1)

(未回答大学も母数に含む大学総数中の 18%の実施率)

- ・回答 373 大学のうちでは、 国立大学 62 回答中 33 大学実施 (回答中実施率 53%)、
公立大学 51 回答中 10 大学実施 (回答中実施率 20%)
私立大学 260 回答中 93 大学実施 (回答中実施率 40%)

(図 2)

- ・「検討中」と回答したのは 33 大学 (国立 2 大学、公立 4 大学、私立 27 大学)。



(2) 実施授業数

- ・アンケートの回答からは、
196 授業を確認 (国立 54 授業、公立 18 授業、私立 124 授業)。

※ 授業数については、同一時期に同一内容で実施し、科目名(クラス名)だけ異なる場合は、これを同一授業として換算した。実施時期が違う場合には別授業として扱った。

・「フルパック」型授業の実施状況

授業計画すべてを自学に関わる内容で構成する「フルパック」型の自校教育授業は、
「実施」と回答のあった 196 授業中の 59 授業 (30%)。

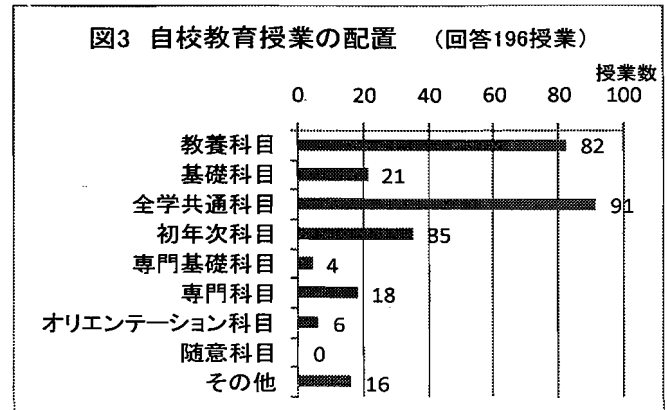
(全 43 大学：国立 14 大学、私立 29 大学、公立大学は無し)

- ★ 回答のあったすべての授業において、「自校教育」内容を毎時に展開しているわけではない。
むしろ、自校教育に関する内容を「初年次教育科目」に一部織り込んで実施する場合が多い。

(3) 授業配置

① 授業区分 (配置)

- ・ 回答 (複数回答) のあった 196 授業中
 「全学共通科目」 91 授業、
 「教養科目」 82 授業、
 「初年次科目」 35 授業、
 「基礎科目」 21 授業、
 「専門教育科目」 18 授業、
 「オリエンテーション科目」 6 授業、
 「専門基礎科目」 4 授業、
 「その他」 が 16 授業。 (図 3)

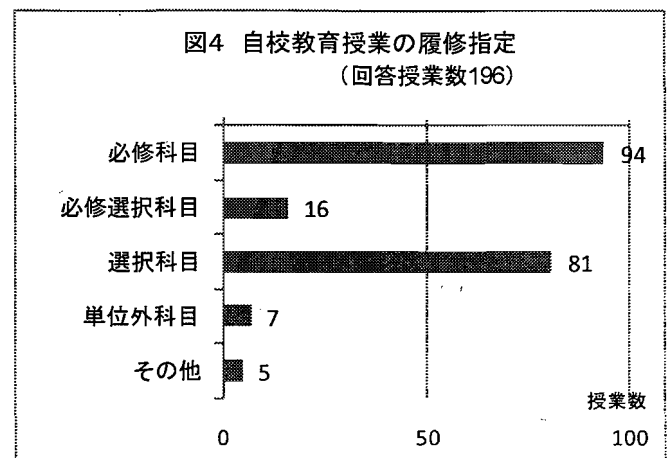


★ 自校教育授業は、「専門教育以外」の科目として配置している場合が多い。

② 履修指定

「必修科目」が 94 授業 (48%)、
 「選択科目」は 81 授業 (41%)。 (図 4)

大学設置別に見ると、「必修科目」授業は
 国立 15 授業 (回答 54 授業中 28%)、
 公立 8 授業 (回答 18 授業中 44%)、
 私立 70 授業 (回答 124 授業中 56%)



★ 「必修科目」とするのは私立大学に多い。

ただし、「必修科目」と回答のあった授業は「初年次教育」を主眼とする科目に多い。

★ 「フルパック」型 59 授業に限定していえば、「必修科目」が 5 授業 (8% : すべて私立大学)、
 「選択必修科目」が 11 授業 (19%)、「選択科目」が 39 授業 (66%) となり、選択科目配置
 が多くなる。

自由記述

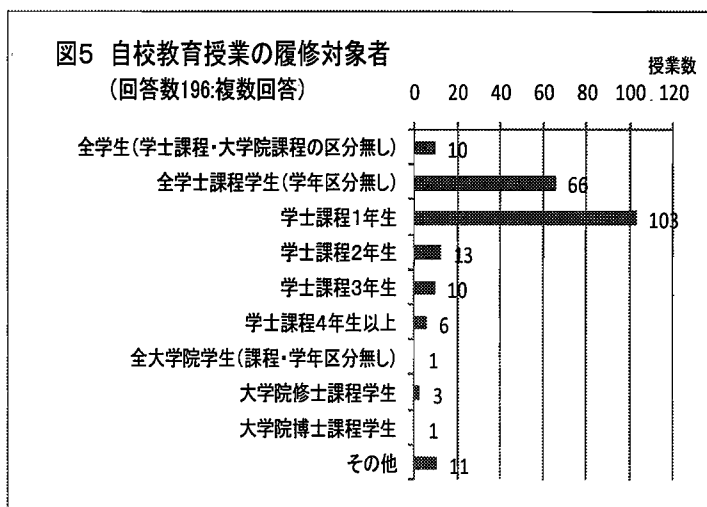
自校教育授業の配置について、「選択科目」を回答した私立大学 (「フルパック」型授業) の自由記述欄回答には

「本来ならば入学者全員にある程度の自校教育を受けさせたいが、現状では不可能である。ファーストイヤーセミナー (全学共通の導入教育) の中に盛り込むことも検討していきたい」と加筆されていた。

(4) 履修対象者と開講時期

① 履修対象者

- ・「学士課程1年生」を対象とする授業が最も多く 103 授業 (53%)。
(回答授業数 196 : 複数回答) (図 5)
- ・「全学生履修可能 (学士課程・大学院課程の区別無し)」は 10 授業 (5%)。
- ・「学士課程全学生の履修可能」は 66 授業 (34%)



- ★ 履修を学士課程1年のみに限定しているのは 98 授業で、回答数の 50%。
- ★ 1年生の履修を除外しているのは 15 授業 (8%) であり、それら授業の大半が専門教育領域の導入科目。

事例紹介

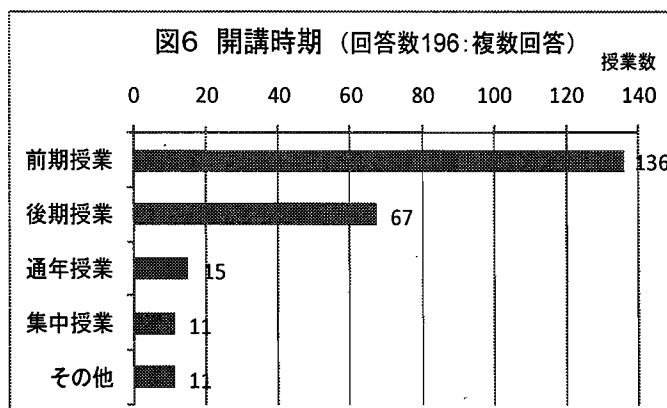
自校教育授業を市民、保護者、高校生にも公開することは、自校の理念や沿革、事業計画、実態状況を明確に伝える手段と考える大学もある。同じ教室でともに学ぶことの緊張感と親睦感を伴う教育効果も期待している。

これらを試みている授業として、たとえば、大分大学「大分大学の人と学問」、熊本大学「五高と日本近代」、高大連携授業にも位置づけた福岡大学「福岡大学を学ぶ」などがあつた。

自校教育授業を大学職員が聴講したり、あるいは職員研修に援用している事例もあつた。

② 開講時期

- 「前期開講」が 136 授業、
 - 「後期開講」が 67 授業、
 - 「通年授業」が 11 授業。
- (回答 195 授業 : 複数回答) (図 6)



- ★ 新入生対象の「初年次教育」に位置づけている自校教育授業が多く、入学初年次の前期開講が多い。

なお、後期開講の場合にあつても、前期開講した授業と同一の授業を開講するケースが 39 授業含まれている。

(5) 自校教育授業の類型

実施されている自校教育授業について、表1のように、授業目的や内容・方法、その他の特性から類型化を試みた。

この分類については、2005年度に調査実施した「国立大学における自校教育の導入実施状況調査（秋田大学：大川一毅）」の結果を基にした。

今回のアンケートでは、実施されている各大学の自校教育授業が、いずれの類型に相当するかをたずねた。

類型	授業目的や内容等の特徴
自校理解教育	<ul style="list-style-type: none"> 授業によって自校理念や自校目的の周知を図り、それをふまえて自校に関わる沿革や教育・研究・社会貢献活動などの諸様相を題材とした教育・学習を展開し自校の理解を導く。 自校の教育理念に応じた体験学習を伴う場合もある。授業内容には大学の沿革、現況、将来像、人物、教育・研究、社会貢献活動、学生文化等が含まれ、総合的な自校理解を図る。
キャリア・プランニング教育	<ul style="list-style-type: none"> 学生が自己認識を深めながら、自らの「将来像」を主体的に構築するための「指針」と「力量」を形成していくことを意図した授業。 その一環として自校の教育・研究状況を理解し、その上で学生自身が「大学で何をどう学び、それを今後の人生でいかに生かすか」という「主体的探求の機会」を提供。
初年次教育	<ul style="list-style-type: none"> 高校から大学への円滑な移行を支援する学士課程1年生を対象とした教育プログラム。 大学での学習活動に必要なスキルや人間関係を確立するためのコミュニケーション等の学習に合わせ、大学の理解や適応、学習への動機付けの一環として自校教育授業が盛り込まれる。
大学・高等教育論	<ul style="list-style-type: none"> 日本や世界の大学・高等教育状況の把握を授業の基礎にすえた大学・高等教育論の授業を展開する中に自校の沿革や現況を織り交ぜながら対比検証する。 授業内容には、「大学史」、「大学の現況」、「地域との関係」など大学にの全般的状況が包括。
大学史（自校史）教育	<ul style="list-style-type: none"> 日本や世界の大学の歴史の変遷についての理解と考察を主題とする授業。 自校や自学部の建学経緯やその後の発展などの沿革史に焦点をあてて自校の理解を深める「自校史教育」授業もある。 自校の歴史の変遷に関する学習を通じ、日本近現代史理解の視野を広げ、認識を深化させようとする授業もある。
歴史（学）教育	<ul style="list-style-type: none"> 近現代史の学習を主眼とし、その一環として自校史や大学史を教育内容に包括する。
宗教（学）教育	<ul style="list-style-type: none"> 「宗教理解」や「宗教学」の学習の一環として、自校の理念（ミッション）や沿革を理解・解釈していく授業。
オリエンテーション・ガイダンス教育	<ul style="list-style-type: none"> 「大学適応支援教育・初年次導入教育」に位置づけされる。授業では、大学への適応を促すことを目的に、自校の特性や教育研究の状況について学生の理解を深める教育学習を展開し、それを基礎として今後の学習に向けたアカデミック・ガイダンスや学習技法の習得訓練等が行なわれる。
地域理解教育	<ul style="list-style-type: none"> 大学が立地する「地域」を様々な視点から理解し、そこにおいて大学や卒業生が果たしてきた役割を学生に伝え、地域と大学とのあり方・関係を考えていくことを主眼とする。 地域で活躍する人物や卒業生を講師として招聘する場合も多い。
学問論	<ul style="list-style-type: none"> 学問の意義についての認識深化や学問に取り組む姿勢の涵養を主題とし、合わせて自校の学術的状況・特性を伝える。
学習スキル習得教育	<ul style="list-style-type: none"> 初年次導入教育、もしくは専門教育領域の導入教育として、大学や専門領域で必要とされる学習スキルの習得を主目的とする。このなかにあつて、自校や自学部の教育・研究の特性を理解し、そこで求められる学習スキルの意味を理解する。
専門領域導入教育	<ul style="list-style-type: none"> 自校や自学部の目的、教育・研究機能の特性を理解させる授業内容を組み込み、専門教育（学習）の導入及び動機付けを担う。
ボランティア活動の機会	<ul style="list-style-type: none"> 大学の建学精神や教育理念を体現するボランティア活動を教育プログラムに取り入れ、学生の主体的理解を図る。あるいは学生の「生き方、あり方」の探究を促す契機として、ボランティア活動の実施に取り組んでいる大学において、その基礎教育として建学の精神等を提示する。
自己発見・探求教育	<ul style="list-style-type: none"> 授業において大学の理念や機能を明らかにしつつ、その上で学生が「これからいかに学ぶか、そして今後の人生設計を含めていかに生きるか、あるべきか」を主体的に探求する契機を提供する。

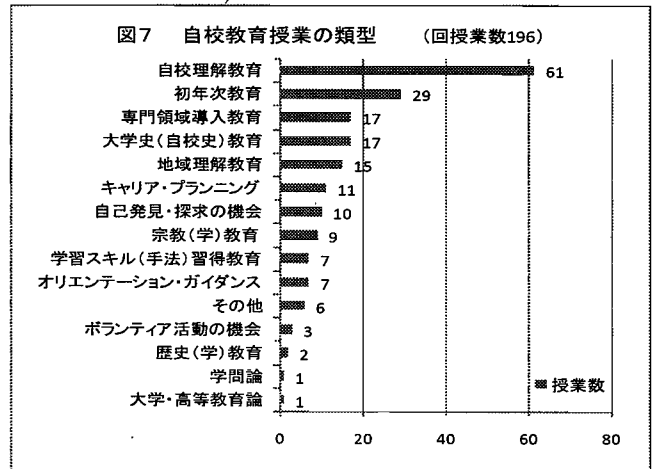
① 類型別にみた自校教育授業実施状況

- ・ 回答のあった 196 授業中、最も多かった類型は「自校理解教育 (61 授業 31%)」類型。

- ・ これに

「初年次教育 (29 授業 : 18%)」、
 「専門領域導入教育 (17 授業 : 9%)」、
 「大学史 (自校史) 教育 (17 授業 : 9%)」、
 「地域理解教育 (15 授業 : 8%)」が続く。

(図 7)

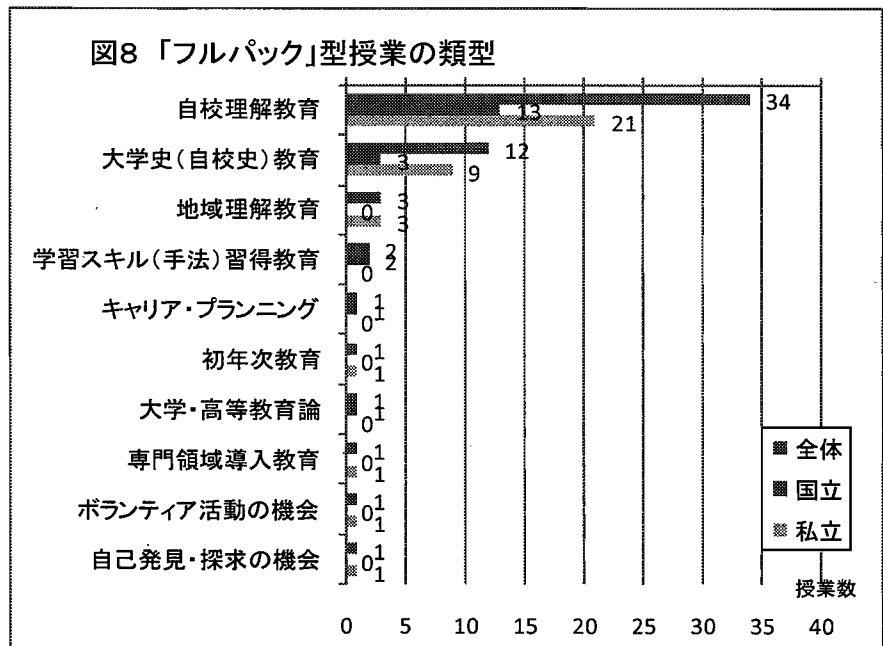


- ・ 授業計画すべてが自校教育内容で構成される「フルパック」型授業においても、最も多かったのは「自校理解教育」類型 (34 授業 : 60%)。

- ・ これに 「大学史 (自校史) 教育 (12 授業 : 21%)」、
 「地域理解教育 (3 授業 5%)」が続く。(図 8)

- ・ 「フルパック」型の授業にあつて、「キャリア・プランニング」、「初年次教育」、「大学・高等教育論」、「専門領域導入教育」、「ボランティア活動の機会」、「自己発見・探求の機会」に位置づけたのは、それぞれ 1 大学。

「フルパック」型の授業にあつては、「歴史(学)教育」、「宗教(学)教育」、「オリエンテーション・ガイダンス」、「学問論」、「その他」の類型を選択した回答はなかった。



- ★ 「フルパック型」授業にあつて、授業内容を自校史を中心に構成していても、類型としての位置づけでは「自校理解教育」とした回答も多い。

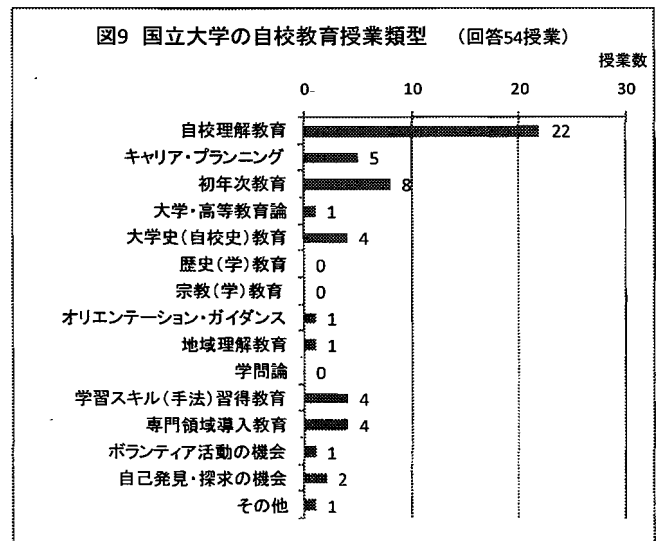
② 設置別にみた自校教育類型

i) 国立大学

- 国立大学（回答 54 授業）で最も多い授業類型は「自校理解教育」類型（22 授業：41%）。

これに

- 「初年次教育」類型（8 授業：15%）
- 「キャリア・プランニング」類型（5 授業：9%）が続く。（図 9）

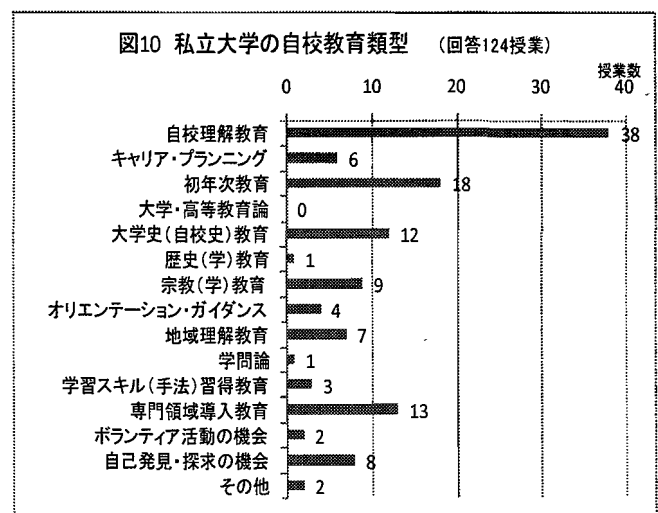


ii) 私立大学

- 私立大学（回答 124 授業）でも「自校理解教育」類型が最も多い（38 授業：31%）。（図 10）

これに

- 「初年次教育」類型（18 授業：15%）、
- 「専門領域導入教育」類型（13 授業：10%）
- 「大学史（自校史）教育」類型（12 授業：10%）が続く。



- ★私立大学では「宗教（学）教育」類型に 9 授業の回答があった。

これら授業では、宗教教育の一環として自学の理念や建学の精神（宗教的ミッション）を伝えている。

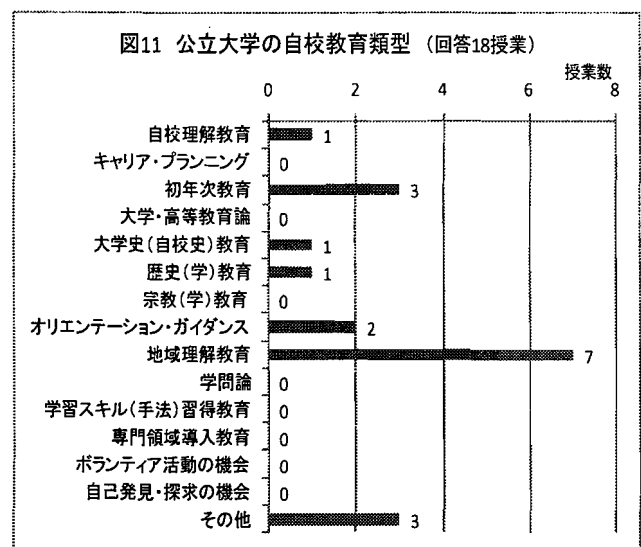
iii) 公立大学

- 公立大学に最も多いのは「地域理解教育」類型（18 授業中 7 授業：39%）。（図 11）

これに

- 「初年次教育」類型（3 授業：17%）が続く。

公立大学において「自校理解教育」類型の回答は 1 授業（6%）。



- ★ 地域ニーズへの対応を重視する公立大学では、自校教育も「地域理解をふまえた自学の理解」という文脈で展開。

(6) 代表的「類型」授業の事例

- ★ 各大学において自校教育のとらえ方や授業も多様。
その多様性こそ、現況における自校教育授業の特性ともいえる。

① 「自校理解教育」類型

事例紹介（「自校理解教育」類型を回答した授業）

岐阜大学の授業「岐阜大学の教育研究と運営」（「自校理解教育」類型を回答）のシラバスにはこう記されている。

「岐阜大学の5学部及び主要な付属研究センターの設置目標と、研究や教育における特色やトピックスなどを紹介し、本学における教育と研究像を提示する。さらに、本学が発信する地域と国際貢献の展望と実際のいくつかについても具体的事例で紹介する。この講義から、本学の学生として何を学んでゆくべきかについて考え、自らが将来の計画を創り上げるための基礎を確立して欲しい」。

② 「初年次教育」類型

事例紹介（「初年次教育」類型を回答した授業）

金沢大学の回答には、このような記述を加えていただいた。

「回答した『大学・社会生活論』は、1年前期全学必修のオムニバス授業で、学類ごとに15クラスに分け、ガイダンス的内容からキャリア教育・現代教養まで様々な内容をレクチャーするものである。そこには「大学の使命・学類の使命」といった典型的な「自校教育」がある一方、「人権論」「健康論」「環境論」「消費者問題」「薬物問題」など一般的には「自校教育」の範疇に入らないものもある。しかし、それをこの1年の必修授業で行うのは、本大学がこれらを重視しているということを学生に伝える目的があり、その意味でこれらも『自校教育』に入ると考える。」

- ・「初年次教育」類型の授業プログラムでは、大学での学習活動に必要なスキルや人間関係を確立するためのコミュニケーション等の学習に合わせ、大学の理解や適応、学習への動機付けの一環として自校教育授業が織り込まれている。
このため、自学をテーマとした「フルパック」型で展開されることは少ない（1授業）。

③ 「専門領域導入教育」類型

事例紹介（「専門領域導入教育」類型を回答した授業）

帯広畜産大学が自校教育授業と回答した「全学農畜産実習」について、自由記述では次のような授業紹介があった。

「食料基地北海道・道東に位置する本学の特徴を生かし、学部入学者全員に農畜産の実習を体験してもらうことで、学生に農畜産の幅広い知識と体験を提供し、専門教育ユニットの自主的な選択を支援する。また、約40人のクラス単位での実習参加を通じて、学生の人間関係やコミュニケーションを確立することを目指した総合的な導入教育である。」

さらに、あわせて「これこそまさに畜産大！というような非常に有意義な授業だったと思います」と学生の授業評価コメントも付してくださった。

ある医科系大学の自由記述では、実施する自校教育授業について次の説明があった。

『医学入門』の最初の1コマで自校史を講義している。ここでは、将来医師をはじめとして医療職に進む初年次学生の入学直後に、学長自らが、本学の建学の精神と、創設時の創立者たちの医学教育・医療改革への信念を伝えることに意義を見出し、自校史と医学史における息吹と、さまざまな医学的諸問題を予め伝えることは、今後実施するキャリア教育、問題解決型少人数教育に大いに寄与すると思われる。」

- ★ 複数の医歯薬看護福祉系大学・学部において「専門領域導入教育」類型による自校教育を展開していた。「専門領域導入教育」類型 17 授業のうち 7 授業がこれにあたる。

④「大学史教育」類型

事例紹介

神戸大学の回答には、実施する授業について次の説明を加えていただいた。

「神戸大学では、『神戸大学史』と『神戸大学の成り立ち』を実施している。前者が各分野の歴史学専門家が担当するのに対し、後者は執行部が担当し、対照的な授業として提供する実践が行われている。」

「大学史教育」類型を回答した立教大学の授業科目「立教大学の歴史」「立教学院と戦争」や明治大学の授業科目「日本近代史と明治大学」では、自学の大学資料センターと密接に連携して自校史授業を企画・展開している。

広島大学の「広島大学の歴史」の授業は「自校教育」類型を回答したが、大学史教育について次のような記述を加えていただいた。

「広島大学（広島大学の歴史）では、大学の歴史を題材としながら、大学の現状と課題について学生に理解させ、一人一人が本学構成員としての意識を高め、本学及び自身の未来を主体的に切り開く観点を持ってもらえるよう特に留意して授業を展開している。」

- ★ 「フルパック」型の授業においては「大学史（自校史）教育」類型授業が多い。
- ★ 他類型授業においても「大学史（自校史）」は自校教育授業の主要な構成要素。

⑤「地域理解教育」類型

事例紹介（「地域理解教育」類型を回答した授業）

この類型を回答した国立大学農学部実施の授業「地域に学ぶ」のシラバスには、授業についてこう記されている。

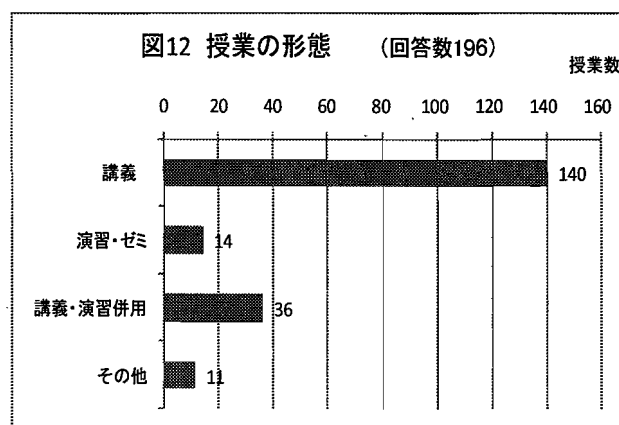
「農業を学ぶことは、イコールその地域を学び、知ることといってもよいくらい密接に関連があるものです。みなさんは、縁あって、現在ここ〇〇に住むこととなりました。一見何もない田舎町、自然環境の厳しい冬暗い地域、などといった印象を受けがちですが、ちょっと見方やふれ方を変えれば、実に自然環境に恵まれ、伝統の色濃く残る、豊かで特色のある地域といえます。理解が深まれば、何故ここに農学部が設置されたのかを実感できると思います。」

2. 自校教育授業の実施形態

(1) 授業の形態

- ・自校教育 196 授業の回答中において、
140 授業 (71%) が講義形式。

(図 12)



- ・「フルパック」型の授業では、

59 授業中 51 授業 (86%)

と講義形式の比率がさらに高まる。

- ・「初年次教育」類型の 29 授業では、

「講義演習併用形式」 9 授業 (31%)、

「演習・ゼミ形式」の授業が 3 授業 (10%)。

と「演習」形態採用授業も多くなる。

- ・「学習スキル習得型」類型の 7 授業では

「演習・ゼミ形式」が 4 授業 (57%)、

「講義演習併用形式」が 2 授業 (29%) 開講されている。

※ ただし「初年次教育」類型や「学習スキル習得」類型の授業は、自校教育そのものを主眼とした授業科目では無い場合が多い。

事例紹介

「フルパック」型授業ながら、北海道大学「北大への招待」、大分大学「大分大学を探ろう」などは、毎時、学生参画型授業や問題解決型授業を展開している。

また、大学施設を積極的・有効に活用する授業事例として、

北海道大学「北大エコキャンパスの自然と歴史」は、大学校舎（建築）も含め、大学環境全体を活用した実地教育を展開している特徴ある取り組みである。

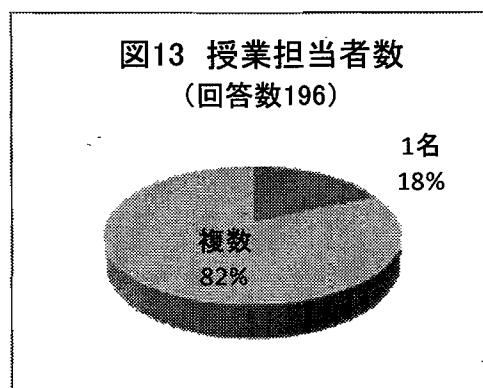
北海道大学「北大総合博物館で学ぼう！自然と人間」や、岩手大学「岩手大学ミュージアム学」などは、自校の博物館を有効活用し、ここで自校史や大学から生まれた研究成果、地域の生活や自然環境などを学習する課題探求型授業である。

(2) 自校教育授業を担当する教員

① 授業担当者数

- ・教員1名で授業計画(授業回)をすべて担当しているのは、回答196授業中36授業(18%)。(図13)

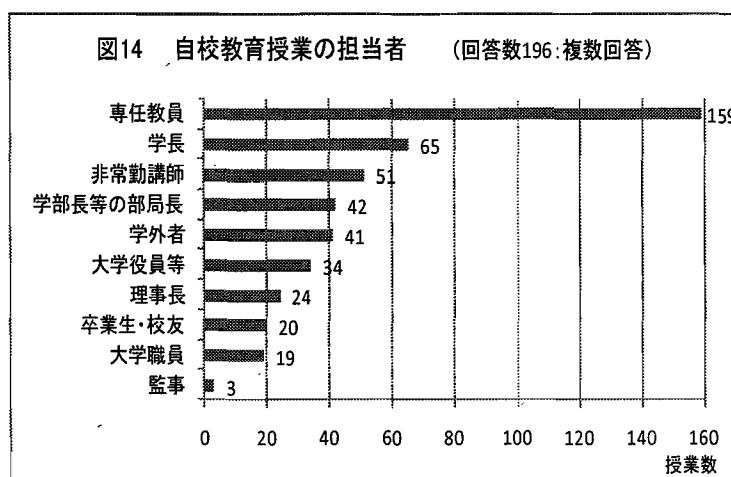
★ 担当教員1名の自校教育授業のうち、その44%(16授業)は「フルパック」型授業。



★ 自校教育授業は、複数教員による「リレー型」「オムニバス型」授業として展開されるのがむしろ一般的傾向(160授業:82%)。

② 授業担当者

- ・授業担当者としては、専任教員が159授業(回答196授業中81%)で最も多い。(図14)



- ・着目すべき点は、学長が授業を担当するケースも多く(65授業:33%)、担当者職位としては、最多の専任教員に次ぐ。

★ 学部長等の部局長(42授業:21%)や大学役員等(34授業:17%)、理事長(24授業:12%)も授業に関わることが多い。

- ・回答のあった196授業のうち73授業(37%)において、学長、もしくは理事長が授業実践にかかわっている。

- ・自校教育授業には卒業生を含め、学外講師も招聘されている。ここでは、各回のテーマに沿って、自らの体験談や学生達への期待を語っている

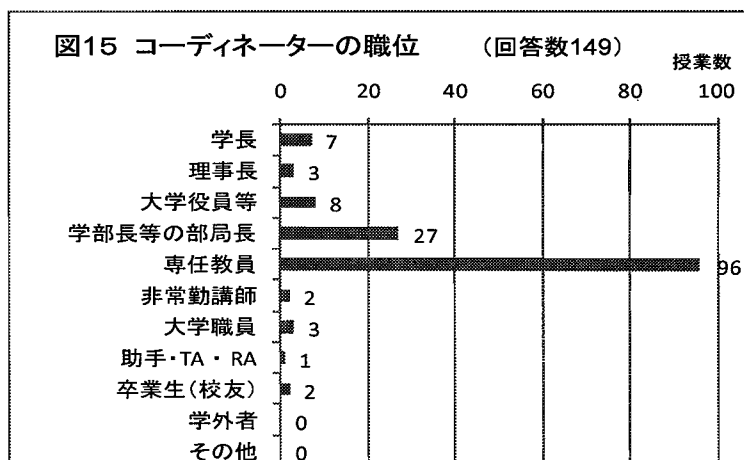
たとえば、秋田大学「秋田大学論Ⅱ かんばれ秋大生!」、山形大学「先輩に学ぶ」、島根大学「先輩に学ぶ島根大学のこころと形」など多数。

★ 数的にはいまだ多くはないが、授業担当に大学職員が参画していることも自校教育授業の特徴である(後述「④ 大学職員の参画」参照)。

③ コーディネーター

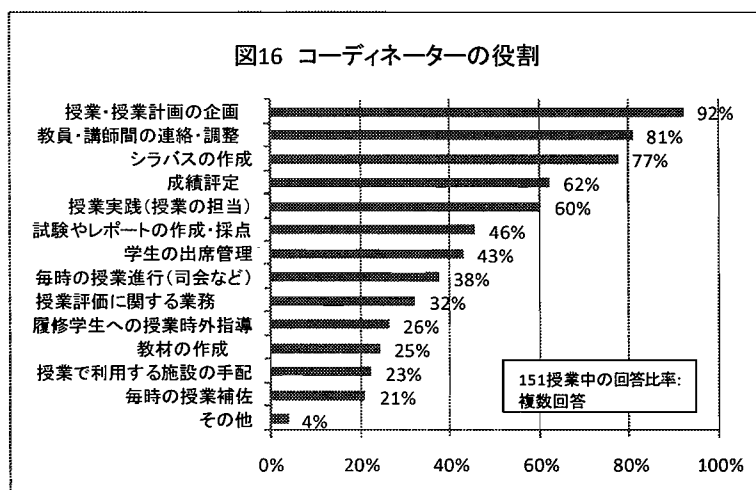
- ・複数の教員によって実施展開されることが多い自校教育授業では、回答 196 授業のうち 153 授業 (78%) で授業の統括や取りまとめを担う「コーディネーター」が存在する。

- ・「コーディネーター」は、
専任教員が担うことが多い。
(96 授業:47%)
(図 15)



- ・学部長・学科長などの
「部局長等」がこれに次ぐ。
(27 授業:14%)

- ・コーディネーターの役割は、
「授業・授業計画の企画
(139 授業:92%)」、
「教員・講師間の連絡調整
(122 授業:81%)」、
「シラバスの作成
(117 授業:77%)」、
「成績評定(94 授業:62%)」、
「授業実践 (91 授業:60%)」



が多く行われている。(回答 151 授業、複数回答) (図 16)

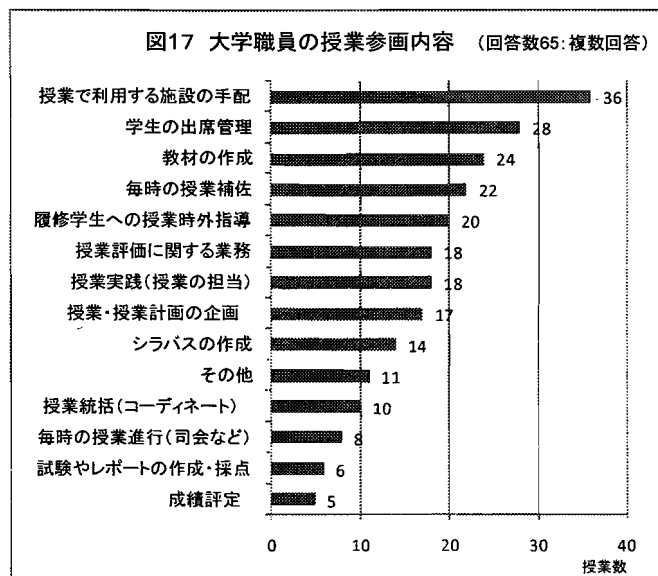
- ★ 複数教員で展開される場合の多い自校教育授業では、「授業の企画、計画」とともに、「教員・講師間の連絡調整」がコーディネーターの重要な任務となっている。
- ★ これら多くの業務に関わるコーディネーターの負担が自校教育授業実施・推進の課題にもなっている。 (後述「9 自校教育授業実施の課題」参照)

④ 大学職員の参画

- ・授業の企画・運営に、大学職員が参画する場合もあるのが自校教育授業の特色。
- ・回答 190 授業中 66 授業（34%）で、大学職員が授業の運営に参画。

参画の内容としては、

- 「授業施設の手配（36 授業：55%）」
 - 「学生の出席管理（28 授業：43%）」
 - 「教材の作成（24 授業：37%）」
 - 「毎時の授業補佐（22 授業：34%）」
- などが上位回答。（図 17）



※この質問では、「通常の学務に関する業務を除く」ことを前提にしたが、回答では、本来教員（授業担当者）が行うべき

「授業外業務」の役割（補助業務）を託されている現況が示された。

自校教育授業の多くが「複数教員体制」を採用していることも背景にあると考えられる。

- ★ その一方で「授業実践（18 授業：28%）」、「授業・授業計画の企画（17 授業：26%）」など、大学における「専門職スタッフ」としての力量を反映させた授業も展開されている。このことは、自校教育授業を展開していく上で、今後の可能性の一つを示唆する。

事例紹介

広島大学の授業科目「広島大学のスペシャリスト」については次の説明をいただいた。
「大学スタッフの専門的職務についてそれぞれの立場から（職員が）講義を行い、従来大学に通いながら知る術の無かった大学スタッフの姿について理解を深めるとともに、学生自身のキャリア・プランニングについての自覚を促すことに留意して授業を展開している。」

また、2008 年度まで開講していた山形大学「山大マインド（先輩の話を聞いてみよう）」では、卒業生を中心とした学外者を招いて授業を展開し、さらにこの授業は、山形大学出身の職員が授業の企画運営にあっていた。

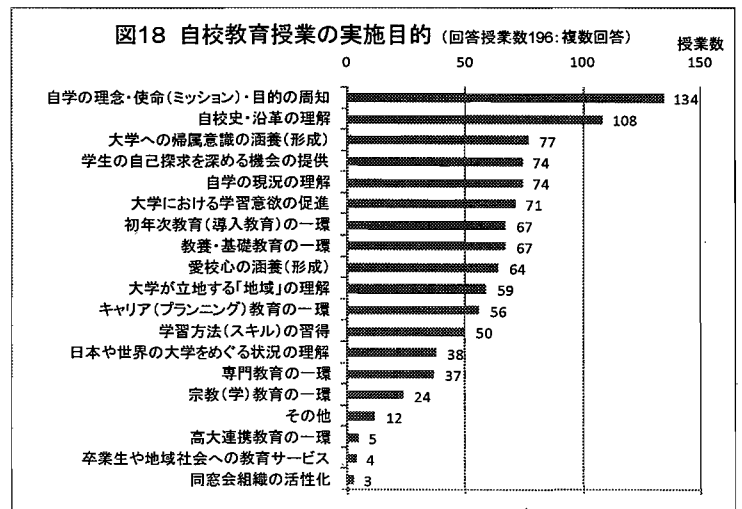
（2009 年度において「山大マインド」は開講していない）。

3 自校教育授業の実施目的

(1) 授業の実施目的

- ・回答 196 授業中 134 授業 (68%) が「自学の目的・理念・使命の周知」をあげる。(図 18)

- ・これに、「自校史・沿革の理解 (108 授業 : 55%)」、
「大学への帰属意識の涵養 (77 授業 : 39%)」、
「学生の自己探求を深める機会の提供 (74 授業 : 38%)」、
「自学の現況の理解 (74 授業 : 38%)」、
「大学における学習意欲の促進 (71 授業 : 36%)」、
「初年次 (導入教育) の一環 (67 授業 : 34%)」、
「教養・基礎教育の一環 (67 授業 : 34%)」が続く。



- ★ 自校教育授業の実施目的や内容は多様。「愛校心の涵養 (64 授業 : 33%)」だけではない。

(2) 設置形態別に見る実施目的

国公立とといった設置形態によって、自校教育授業の実施目的の比重が変わる。(図 19)

① 国立大学

- ・国立大学 (回答授業数 54) では、「自校史・沿革の理解 (28 授業 : 52%)」及び「自学の現況の理解 (28 授業 : 52%)」が最も多い。

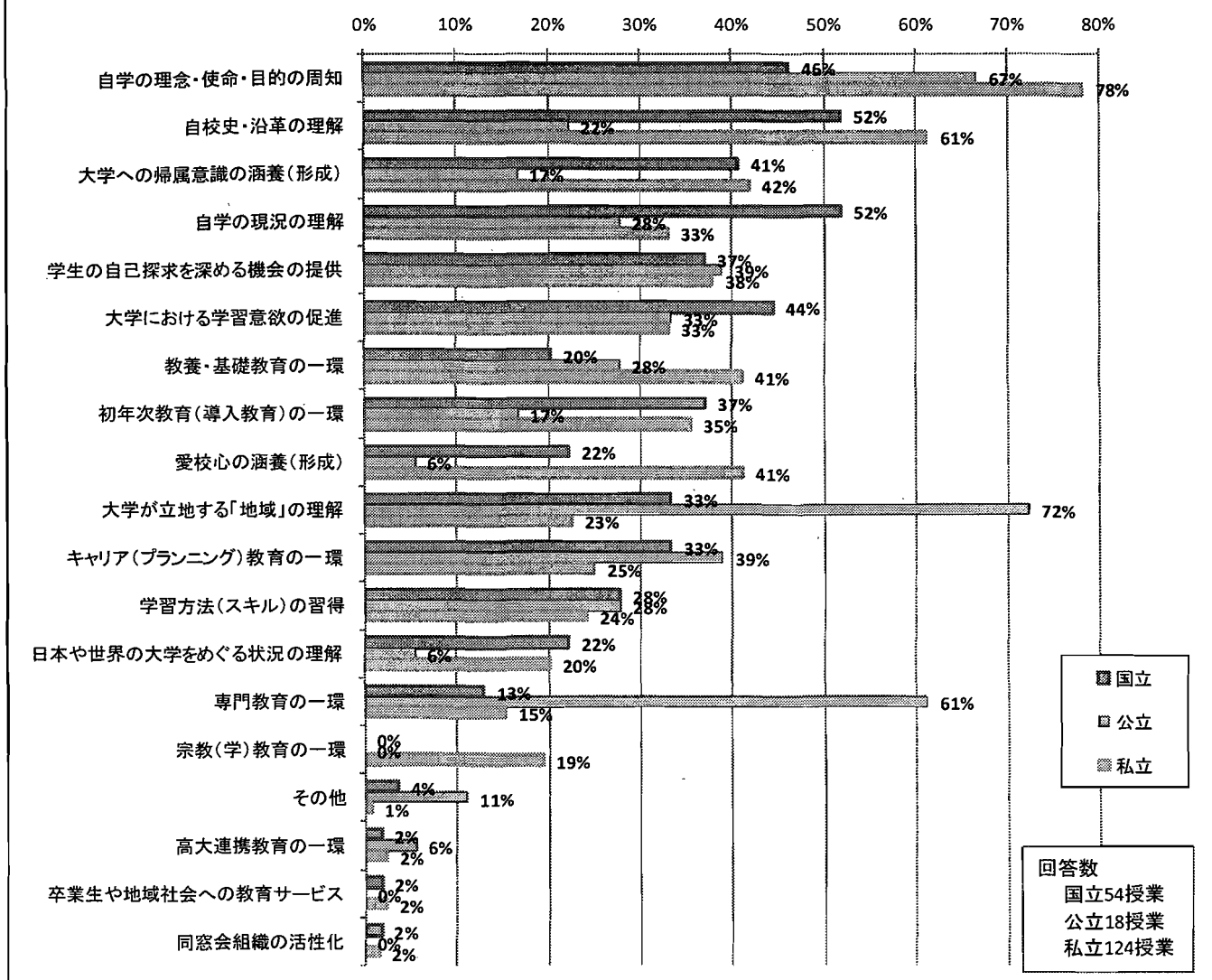
- ・「自学の現況の理解」の回答比率は、公立・私立大学に比較しても高い。

次いで 「自学の理念・使命・目的の周知 (25 授業 : 46%)」、
「大学における学習意欲の促進 (24 授業 : 44%)」と続く。

- ★ 法人化以降、国立大学はそれぞれの「独自性」を積極的に打ち出そうとしており、大学の教育・研究・社会貢献等の現状や地域との関係を自校教育授業の教育内容に反映している。

- ・国立大学での自校教育授業回答のうちの 41% (22 授業) で「大学への帰属意識の涵養」を回答している。しかし「愛校心の涵養」の回答比率は 22% (12 授業) と低くなる。

図19 大学設置別 自校教育授業の実施目的（回答数中比率：複数回答）



② 公立大学

・公立大学では「自学と地域社会の関係（12授業：67%）」が最も高い回答比率。

これに「自学の理念・建学の精神（8授業：44%）」、
「キャリア・プランニング（7授業：39%）」、
「自学（学部）の沿革・歴史（5授業：28%）」が続く。

- ★ 公立大学における自校教育授業は、「地域理解」という「専門教育の一環」として目的設定されている場合も多い。
- ★ 公立大学の場合についてみれば、国立大学や私立大学に比較して、「大学への帰属意識の涵養」や「愛校心の涵養（形成）」を自校教育授業の実施目的におく比率が低い。

③ 私立大学

- ・ 私立大学の回答（回答授業数 124） では、
「自学の理念・使命・目的の周知（97 授業：78%）」が最も多い。

これに「自学（学部）の沿革・歴史（76 授業：61%）」、
「大学への帰属意識の涵養（52 授業：42%）」、
「愛校心の涵養（形成）（51 授業：41%）」と続く。

- ★ 私立大学での実施目的には、数的には多くはないが「宗教（学）教育の一環（24 授業：19%）」という回答があるのも特徴である。

(3) 授業類型ごとにみた授業目的

- ・ 「自校理解教育」 類型（回答 60 授業）
では、

「自学の理念・使命・目的の周知
（51 授業：85%）」、

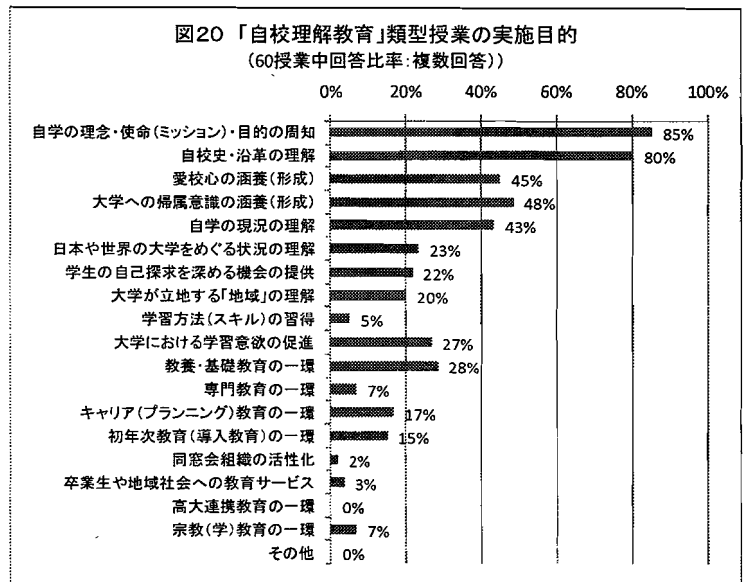
「自校史・沿革の理解（48 授業：80%）」
の回答比率が 80% を超え、

これらについて、

「大学への帰属意識の涵養（29 授業：48%）」、

「愛校心の涵養（27 授業：45%）」、

「自学の現況の理解（26 授業：43%）」が回答比率 40% を超える。（図 20）



- ・ 「初年次教育」 類型（回答 29 授業）
では、

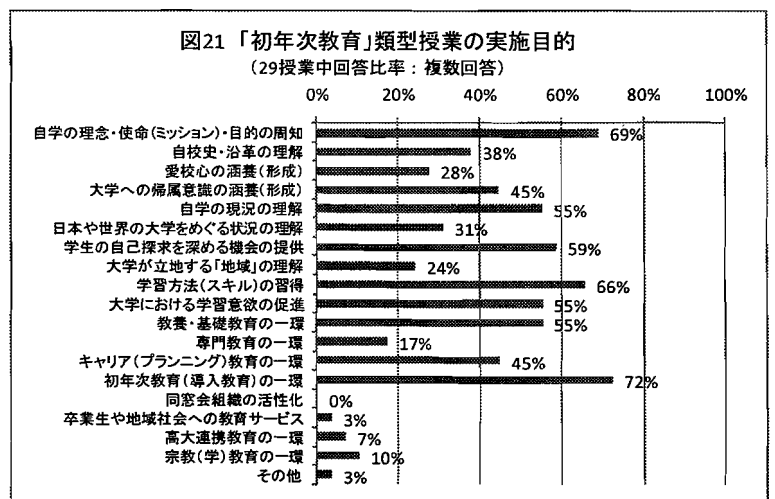
「初年次導入教育の一環
（21 授業：72%）」、

「自学の理念・使命・目的の周知
（20 授業：69%）」、

「学習方法の習得（19 授業：66%）」、

などの実施目的が 60% を超えて高い。

(図 21)



また、「初年次教育」類型では

「学生の自己探求を求める機会の提供（17 授業：59%）」、

「自学の現況の理解（16 授業：55%）」、

「大学における学習意欲の促進（16 授業：55%）」、

「教養・基礎教育の一環（16 授業：55%）」なども回答比率 50%を超える。

★ 「初年次教育」類型では、自校教育そのものを主眼とするより、むしろ「初年次教育」の一環として自校教育が組み込まれている場合が多い。

授業目的として回答のあった上位項目からも、この傾向がうかがえる。

・「地域理解教育」類型（回答授業数 15）では

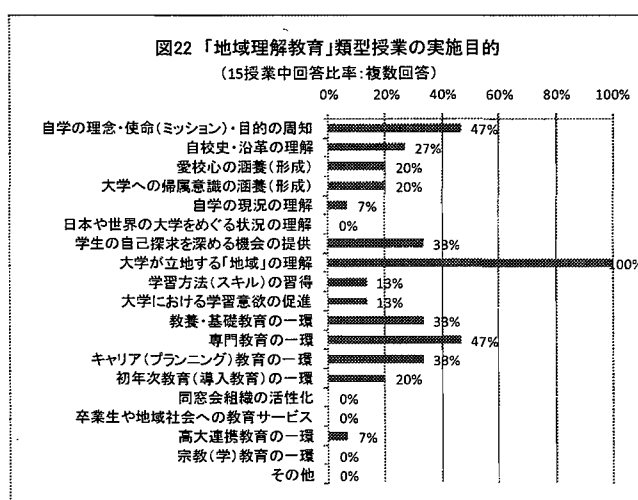
・この類型授業のすべてが

「大学が立地する地域の理解

（15 授業：100%）」を回答。（図 22）

これに

「自学の理念・使命・目的の周知
（7 授業：47%）」、
「専門教育の一環（7 授業：47%）」
が続く。



★ 「地域理解教育」類型授業の実施目的の置かれ方は、「自校理解教育」類型とは異なる。

★ 「初年次教育」類型同様、「地域理解教育」の中に自校教育が織り込まれている場合が多い。

・「大学史教育」類型（回答授業数 17）では

「自校史・沿革の理解（16 授業：94%）」

が最も高い回答比率。（図 23）

これに続いて

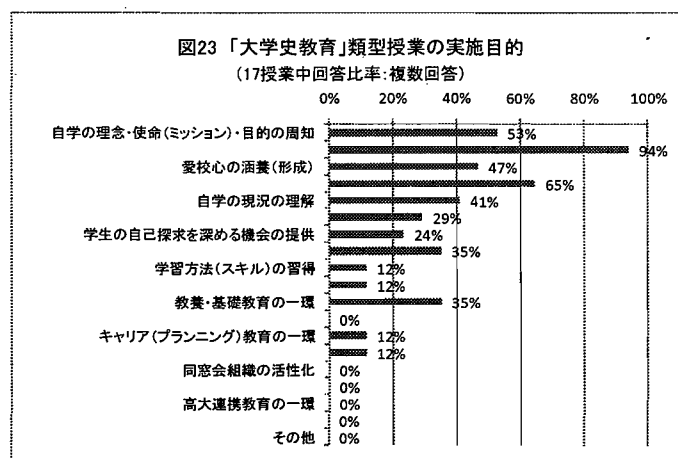
「大学への帰属意識の涵養(11 授業:65%)」、

「自学の理念・使命・目的の周知

（9 授業 53%）」、

「愛校心の涵養（8 授業：47%）」、

「自学の現況の理解（7 授業：41%）」の回答比率も高い。



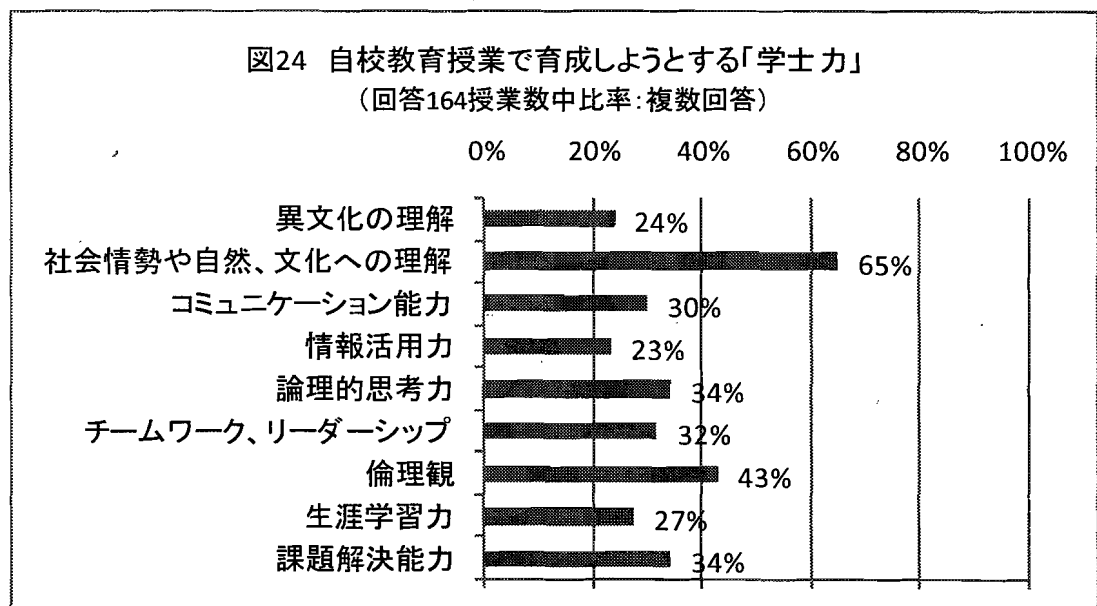
(4) 自校教育授業と「学士力」

① 自校教育で育成しようとする「学士力」

昨今の学士課程教育においては、「学士力」育成という考え方に則して、教育成果を求められることが多くなった。

各大学では、自校教育授業の目的を「学士力」育成とどう対応させているのか。

アンケートでは、中央教育審議会大学分科会（平成 19 年度）が提示した「学士力」9項目を選択肢とし、自校教育授業の教育目標として、これらのいずれか項目に該当するものがあれば、その回答を求めた（複数回答）（図 24）。



・ 回答 164 授業中、最も多かったのは

「社会情勢や自然、文化の理解（106 授業：65%）」。

これに 「倫理観（70 授業：43%）」、

「論理的思考力（56 授業：34%）」、

「課題解決能力（56 授業：34%）」、

「チームワーク・リーダーシップ（52 授業：32%）」 が続く。

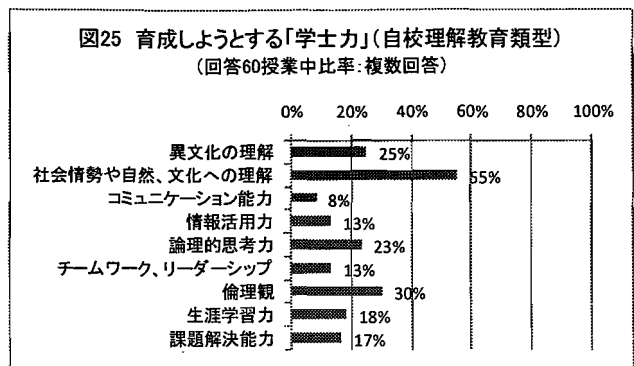
★ 自校教育授業の教育成果目標が、「学士力」の考え方での「倫理観」、「チームワーク・リーダーシップ」、「課題解決能力」にも置かれているという現況は新たな知見であった。

★ 「倫理観」については、自校教育授業が「自学の理念・使命・目的の周知」をふまえ、「養成しようとする人間像」に言及していくことの反映とも考えられる。

② 代表的「授業類型」別にみた養成しようとする「学士力」

・「**自校理解教育類型**」では、

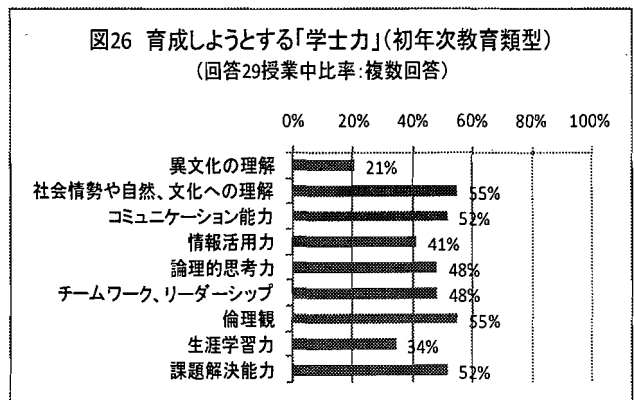
「社会情勢や自然文化の理解」が50%を超えるが、それ以外の項目は30%以下。
(図 25)



・「**初年次教育**」類型では、

比較的均等に

「学士力」諸項目が50%前後の回答。
(図 26)



★この類型で回答された「学士力」項目は、むしろ「初年次教育」科目として養成しようとする「学士力」といえる。

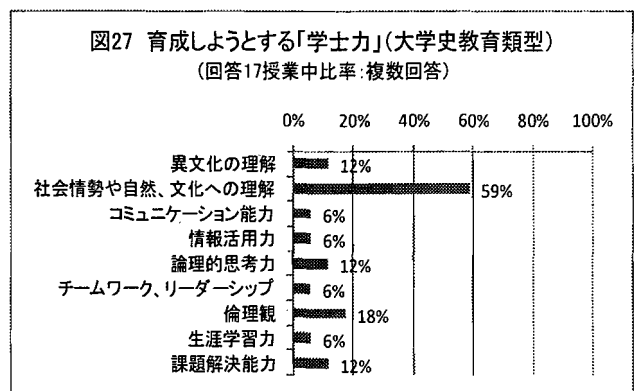
・「**大学史教育**」類型では、

「社会情勢や自然、文化への理解」

の回答率が59%と高く、

他の項目はすべて20%未満。

(図 27)



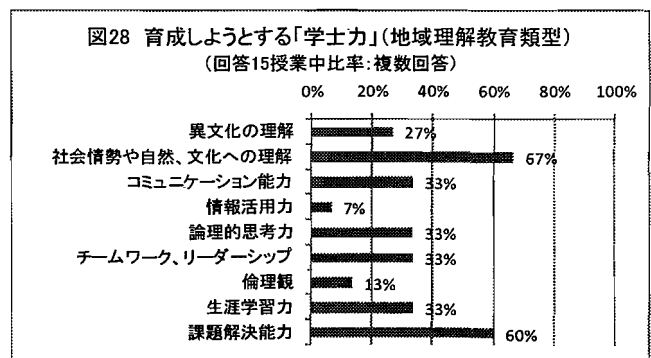
★「大学史教育」類型は、授業目的の設定が最も明確化・特化されている。

・「**地域理解教育**」類型では

「社会情勢や自然、文化への理解(67%)」

に「課題解決能力(60%)」が続く。

(図 28)



★「倫理観」の回答比率は他類型よりも低い。

4. 自校教育授業の内容

(1) 自校教育授業の内容

・自校教育授業の内容として

回答率 60%を超えるのが (回答授業数 196)

「自学の理念・建学の精神 (133 授業: 68%)」、

「自学(学部)の沿革・歴史 (125 授業: 64%)」

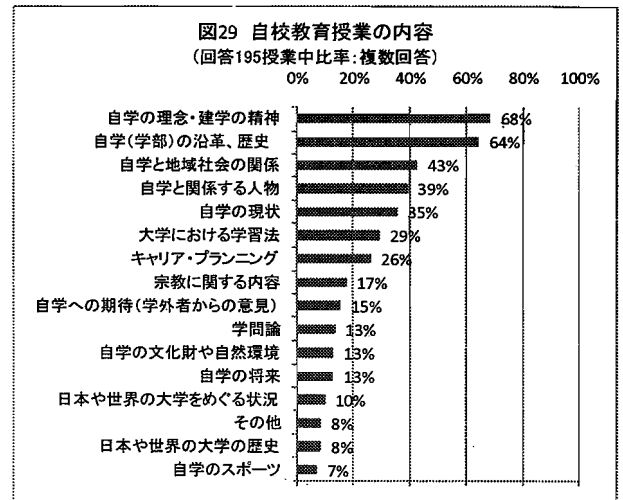
であり、

これに

「自学と地域社会の関係 (83 授業: 43%)」、

「自学と関係する人物 (76 授業: 39%)」、

「自学の現状 (69 授業: 35%)」が続く (図 29)。



(2) 設置別にみた自校教育授業内容

・国立大学 (回答授業数 54) で回答率が高いのは

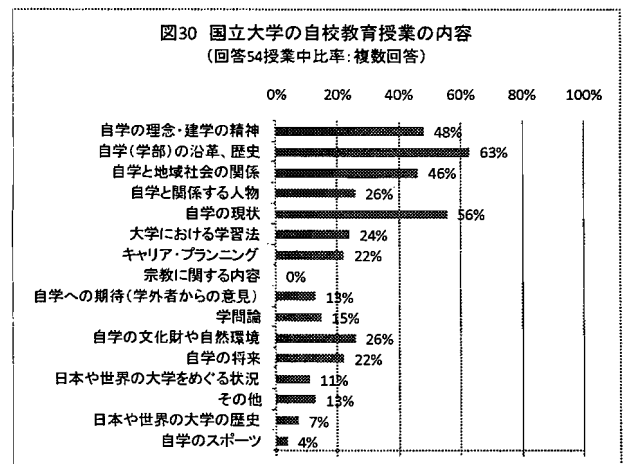
「自学(学部)の沿革・歴史」(34 授業: 63%)、

「自学の現状」(26 授業: 56%)、

「自学の理念・建学の精神」(26 授業: 48%)、

「自学と地域社会の関係」(25 授業: 46%)。

(図 30)



※ 国立大学の自校教育授業の内容では、

「自学の現状」や「地域と大学の関係」も重視。

★ 法人化以降、国立大学は、それぞれの「独自性」を積極的に打ち出そうとしており、自校教育授業の内容にもそうした意志が反映。

・公立大学 (回答授業数 18) で回答率が高いのは、

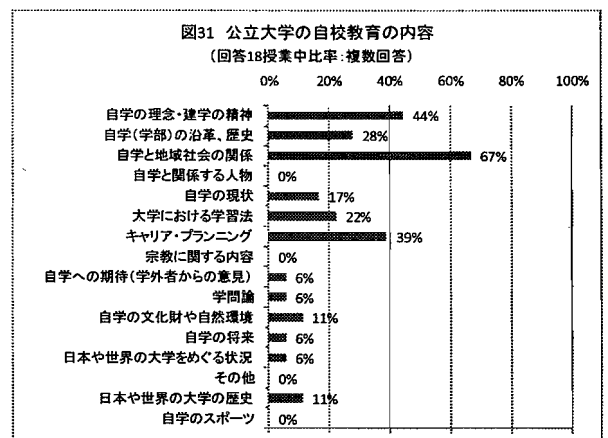
「自学と地域社会の関係 (12 授業: 67%)」

これに

「自学の理念・建学の精神 (8 授業: 44%)」、

「キャリア・プランニング (7 授業: 39%)」

が続く。(図 31)



・「自学(学部)の沿革・歴史」は 5 授業 (28%)。

・ **私立大学** (回答授業数 124) の回答では、

「自学の理念・建学の精神(101 授業:82%)」

が最も多い。(図 32)

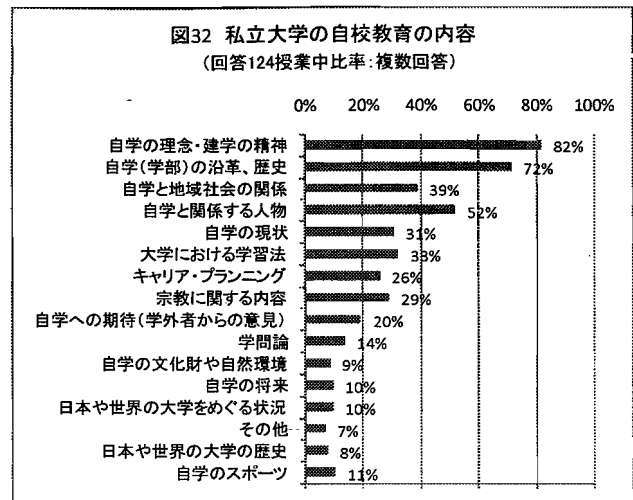
これに

「自学(学部)の沿革・歴史(88 授業:72%)」、

「自学と関係する人物(64 授業:52%)」、

「自学と地域社会の関係(48 授業:39%)」

と続く。



★ 独自の建学精神と沿革史を有する私立大学では、自校教育授業の内容も国公立大学とは異なる側面もある。

★ 自校教育授業の内容に「宗教に関する内容(36 授業:29%)」や、数的には多くはないが「自学のスポーツ(13 授業:11%)」を織り込んでいるのも私立大学の特徴。

※ 設置形態を問わず、「大学における学習法(57 授業:29%)」、「キャリア(プランニング)教育(51 授業:26%)」が同程度に導入されている。

このことから、自校教育授業を「大学適応支援教育」、「初年次導入教育」、「キャリア・プランニング教育」等の一環として実施している大学が少なくないことを確認できる。

(4) 「フルパック型」自校教育授業の内容

「フルパック」型の授業(回答 59 授業)では、

「自学(学部)の沿革・歴史(53 授業:93%)」、

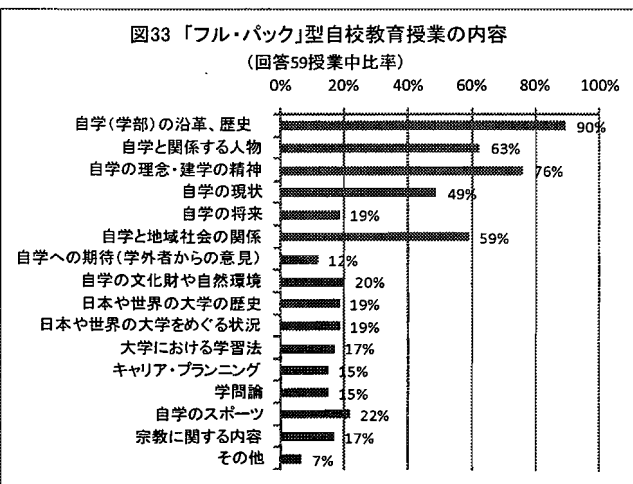
「自学の理念・建学の精神(45 授業:79%)」、

「自学と関係する人物(37 授業:63%)」、

「自学と地域社会の関係(35 授業:59%)」、

「自学の現状(29 授業:49%)」

が主要な構成要素。(図 33)



★ 「フルパック」型授業では、

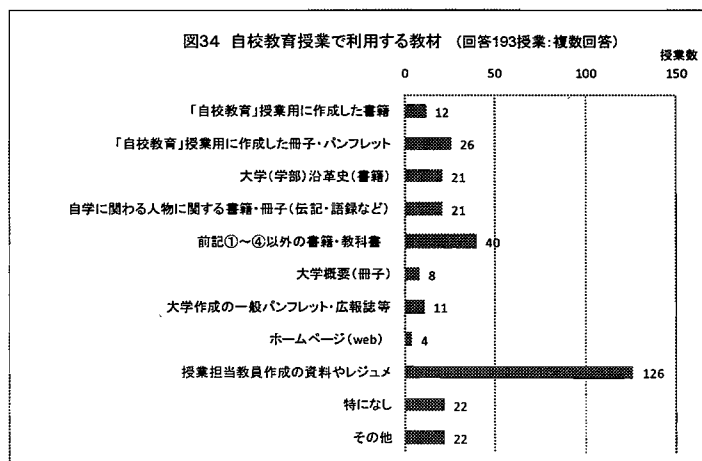
「自学(学部)の沿革・歴史」及び「自学の理念・建学の精神」を授業内容・授業計画の「柱」として構成する場合が多い。

5. 自校教育授業の教材と施設

(1) 自校教育授業の教材

- 使用する教材について、最も多かった回答（回答数 193 授業）は、

「授業担当教員作成の資料やレジュメ（126 授業：65%）」。



「自校教育」授業のための「冊子・パンフレット（26 授業：13%）」や「書籍（12 授業：6%）」を作成している取り組みもある。

事例紹介

立教大学では「立教ブックレット（「立教大学の歴史」「立教学院の歩いてきた道」「立教の創設者 C. W. ウィリアムズの生涯」「岩下清周と松崎半三郎－立教の経済人－」など）」を編纂発行し、自校教育授業に活用している。

このほかに

「大学・学部沿革史（書籍）（21 授業：11%）」、

「自学に関わる人物に関する書籍・冊子（伝記・語録など）（21 授業：11%）」

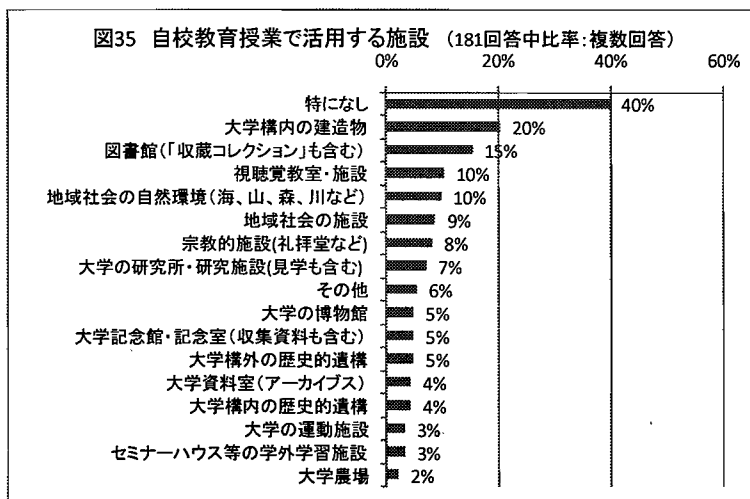
も使用されている。（図 34）

(2) 自校教育授業で使用する施設・設備

- 授業で使用する施設・設備（通常で利用する教室や演習室は除く）については（回答 181 授業）、「特になし」（72 授業：40%）の回答が最も多かった。（図 35）

- 利用されている施設・設備としては「大学構内の建造物（建築やモニュメントなど）」（37 授業：20%）、「図書館（収蔵コレクションも含む）」（28 授業：15%）も活用されている。

- 「大学の博物館」、「大学の記念館・記念室」はそれぞれ 9 授業（5%）、「大学資料室（アーカイブス）」は 8 授業（4%）と、いずれも自校教育授業で十分に活用されているとはいいがたい。



- 「宗教的施設（礼拝堂など）」は、私立大学の 15 授業（8%）で利用されている。

事例紹介

自校教育授業にあたり、既存の大学施設を積極的・有効に活用する取り組みとして、
北海道大学「一般教育演習：北大エコキャンパスの自然と歴史」では、
大学校舎（建築）も含め、大学環境全体を活用した野外調査をともなう実地教育を展開している。

また、自校の博物館を有効活用し、そこで自校の歴史や大学から生まれた研究成果、地域の生活や自然環境を実地的に学習する課題探求型の演習形式の授業として、

北海道大学「北大総合博物館で学ぼう！自然と人間」、

岩手大学「岩手大学ミュージアム学」、

島根大学「島大ミュージアム学」

などは特色ある授業事例である。

これら授業は担当する教員の専門性を活かした「オムニバス形式」によって展開される。

6. 自校教育授業での成績評価方法

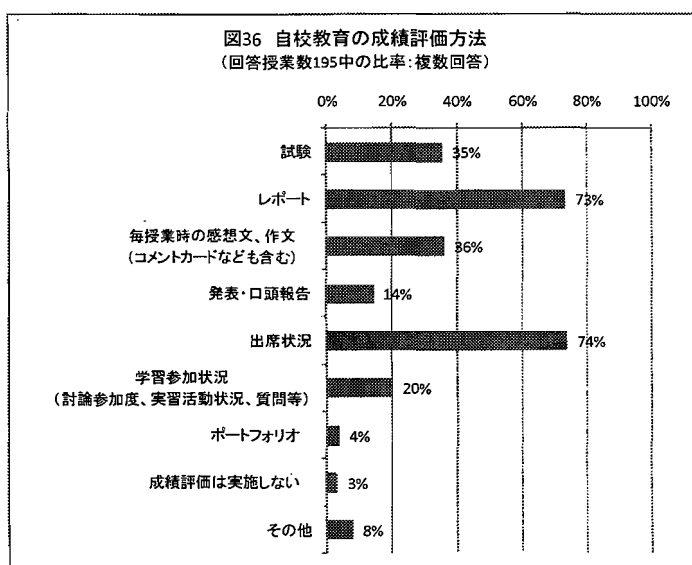
・回答状況（回答数 195）をみると、

「出席状況（144 授業：74%）」

「レポート（143 授業：73%）」

を採用している授業が多い。（図 36）

・「毎授業時の感想文、作文、コメントカード」も 70 授業（36%）で採用されている。



★ 授業回ごとに担当教員が異なる場合が多い自校教育授業では、各教員が学生の理解度や反応を把握できるよう、授業終了時に提出を要求する「授業コメント・感想カード（ミニツペーパー、リアクションペーパー、フィードバックシート）」も活用されている。

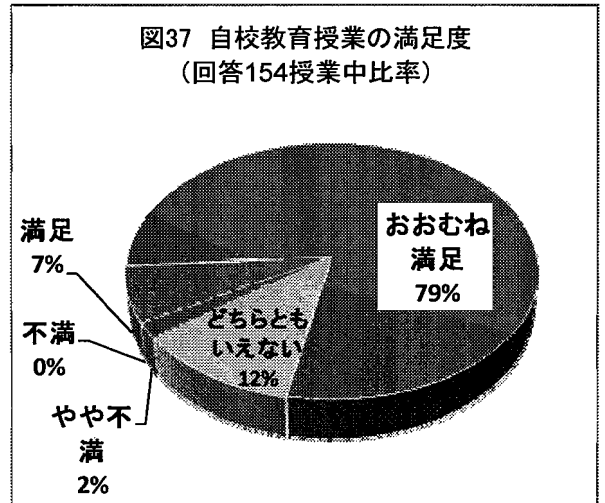
★ 上記の成績評価手段が、「試験（69 授業：35%）」よりも高い比率で採用されているのは、自校教育授業が複数教員体制で実施される場合が多いこととも関係しよう。

7. 自校教育授業に対する学生の評価

- ・「自校教育授業に対する学生の満足度」について、

「満足 (11 授業 : 7%)」、
 「おおむね満足 (122 授業 : 79%)」、
 「どちらともいえない (18 授業 : 12%)」

と、学生の満足度が高かったことを各大学は回答した。(図 37)

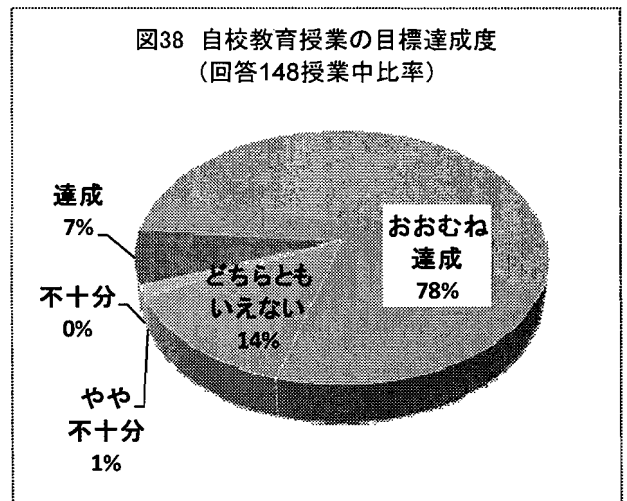


- ・「自校教育授業の目標達成度」についても、

「達成 (9 授業 : 7%)」、
 「おおむね達成 (117 授業 : 78%)」、
 「どちらともいえない (18 授業 : 14%)」

と、授業目標の達成を認識している回答が多く示された。

(図 38)



- ★ 自校教育の内容で授業計画全体が構成されている「フルパック」型授業についても、

- ・「学生の授業満足度」(該当 40 授業)、については

「満足 (3 授業 : 8%)」、「おおむね満足 (32 授業 : 80%)」、
 「どちらともいえない (5 授業 : 13%)」、
 「やや不満 (0 授業 : 0%)」、「不満」(0 授業 : 0%)」

- ・「授業目標達成度」(該当 38 授業) の回答集計結果も

「達成 (2 授業 : 5%)」、「おおむね達成 (32 授業 : 80%)」、
 「どちらともいえない (6 授業 : 16%)」、
 「やや不十分 (1 授業 : 3%)」、「不十分 (0 授業 : 0%)」

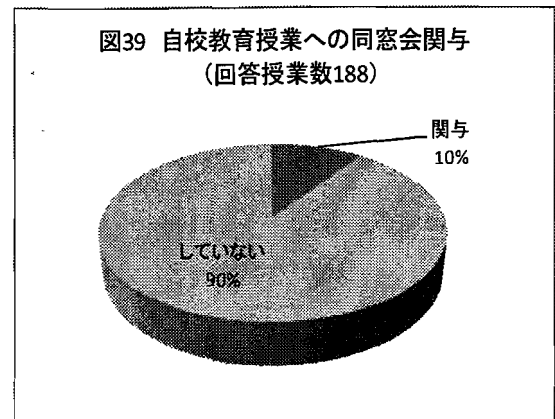
という回答結果であり、概して高い満足度、達成度を認識している。

8. 同窓会の関与

自校教育授業の実施では同窓会が組織的に関与することもある。

- ・自校教育授業の実施・運営における同窓会組織等の関与・協力について、

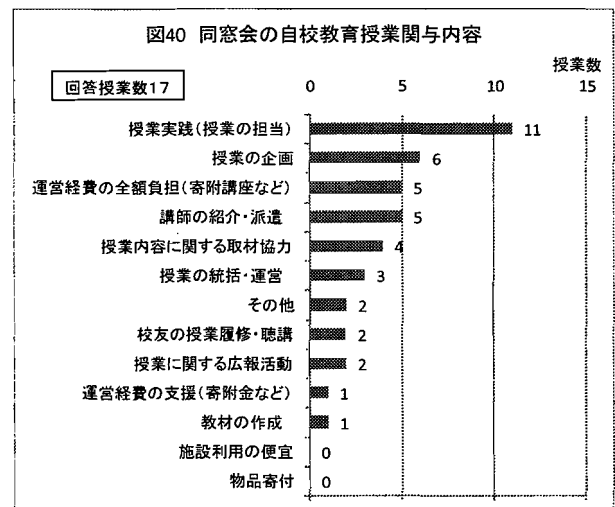
回答 188 授業のうちの 19 授業 (10%) が
「関与している」と回答。(図 39)



- ・設置別にみても、国公立、いずれも約 10%である。

- ・回答のあった関与協力内容としては
「授業実践(授業の担当)」が最も多い(図 40)。
(「関与」と回答した 17 授業中 11 授業)

- ★「授業実践(授業の担当)」については、
同窓会が選出・推薦した卒業生(校友)が、
授業のテーマに応じて、1 授業時間を担当指導(講義)するのが一般的。



このほか、同窓会が組織的に関与する内容として

- 「授業の企画(6 授業)」、
- 「運営経費の全額負担(寄附講座など)(5 授業)」、
- 「講師の紹介、派遣(5 授業)」等の回答があった。

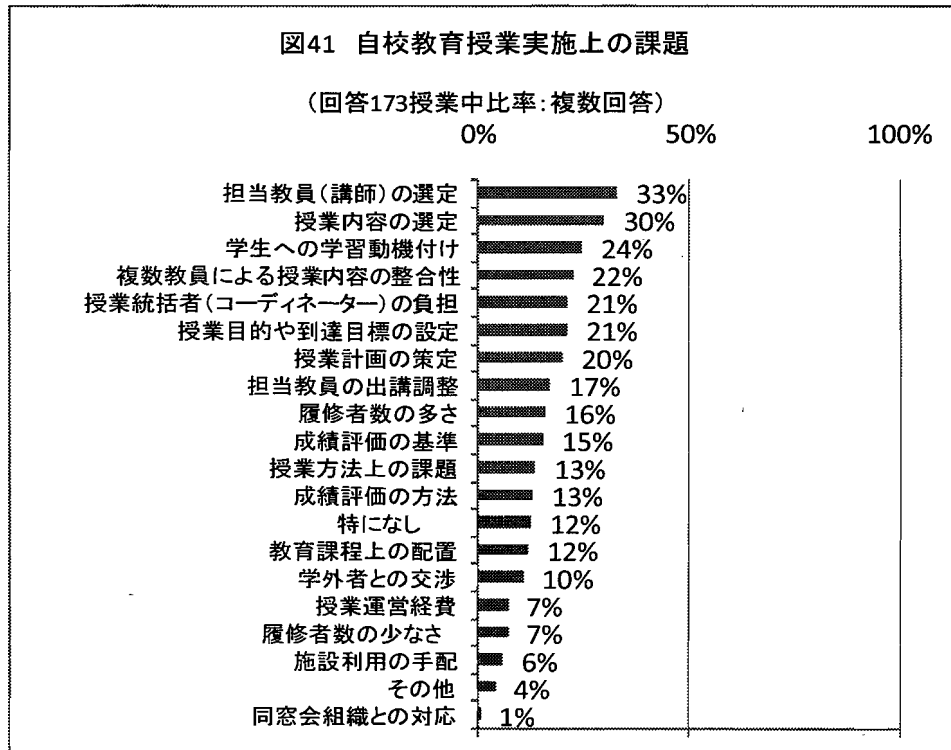
事例紹介

自校教育授業に同窓会組織が協力支援している特色ある事例として、たとえば、一橋大学の自校教育授業「一橋大学の歴史」では、同窓会組織如水会が、授業内容の資料調査・研究も含め、授業の企画から運営、授業実践にあって多大な協力支援を行っている。

また、自校教育授業への同窓会関与について、ある大学の自由記述では「同窓会会員が、自校教育授業に関わることによって、自らの生き方を回顧し、あるいは展望することも含めた生涯学習の場を提供することになる。」と回答している。

9. 自校教育実施の課題

自校教育授業を実施する上で、各大学が「労力を要した点」、もしくは「対応に苦慮した課題」として回答した項目が図41である（回答授業数 173）。



- ・「労力を要した点」、「対応に苦慮した課題」として最も多かった回答は「担当教員の選定 (56 授業 : 33%)」。

★自校教育授業の多くが、複数教員指導体制採用しており、このことから起因する「課題」であることが容易に推測される。

ただし、教員の選定について、ある私立大学の自由記述では「自校の歴史等を担当できる者が少なくなっていて担当者の確保が難しい。2009 年度をもっていったんカリキュラムから廃止の予定」とあった。

★ 教員の流動化が進み、さらに大学によっては自学出身者も少ない状況にあって、本来の専門（研究）領域ではない自校教育授業の担当が負担となっている教員も少なくないようだ。

※こうした状況において、自校教育授業の企画運営や授業担当に、大学職員、同窓会、退職教員の存在は大きな支援となりうるかもしれない。

自校教育授業実施上の課題としては、

- 「授業内容の選定 (51 授業 : 30%)」、
- 「複数教員による授業内容の整合性 (38 授業 : 22%)」、
- 「授業統括者の負担 (36 授業 : 21%)」、
- 「授業目的や到達目標の設定 (36 授業 : 21%)」などもあがる。

- ★ 「授業内容の整合性」に関する課題として、ある国立大学から以下の自由記述があった。

「本学を卒業した方々へ講師を依頼して行うオムニバス形式での授業のため、授業の内容については一定の方針を決めるだけで、具体的な内容については担当する講師それぞれにお任せする格好となった。そのため、講義全体のとりまとめが難しく、それぞれの講師が話す内容が似たようなものになってしまい、学生からもその点についていくつか指摘があった。」

- ★ 「授業目的や到達目標の設定」も、自校教育授業を実施する上での重要課題である。

このことについて、ある国立大学からは、
「シラバスの作成や、教育の質保証（大学評価）の観点で、難しい課題である」
と記述した大学もあった。

何を教育目的として、どこに到達目標を設定し、いかなる方法と内容で、誰が授業を展開するか。自校教育においても明確かつ具体的なプランが必要である。

- ★ 自校教育授業を「必修」とすることによる課題も提示されている。

全員への必修科目として設定するには、大規模クラスでの授業実施、もしくは複数クラス・複数教員による並行授業を展開する必要があり、授業環境への整備も重要であり、その対応に苦勞している大学もある。

「必修化」や「初年次教育」として自校教育授業を実施する場合、「学生への学習動機付けの工夫」も今後対応すべき課題としてあがっていた。

- ★ 運営経費の課題

自校教育授業を「G P」等の運営費支援によって企画・実施している大学では、今後の運営経費の工面や教員動員（教員の選定）の課題もある。
ある国立大学から以下の自由記述があった。

平成18年度から20年度の3年間は、特色G P経費の支援を受けて行っているが、経費支援の切れる平成21年度からは、経費の問題等も含めた実習内容の検討も考えなくてはならない。

アンケートに回答のあった自校教育授業科目

- ※ ここに提示しましたのは、アンケート回答大学様から授業名公開許可のあった授業科目です。
アンケートで回答のあった自校教育授業科目のすべてではありません。
- ※ 授業類型の分類配置については、各大学様からのアンケート回答をふまえました。

授業類型	授業名	大学名	設置
自校理解教育	特別講義「北海道大学の人と学問」	北海道大学	国立
	一般教育演習「北大エコキャンパスの自然と歴史」	北海道大学	国立
	農学概論Ⅰ・Ⅱ	北海道大学	国立
	岩手大学論	岩手大学	国立
	岩手大学ミュージアム学	岩手大学	国立
	秋田大学論Ⅰ（秋田大学の歴史とこれから）	秋田大学	国立
	一橋大学の歴史	一橋大学	国立
	岐阜大学の教育研究と運営	岐阜大学	国立
	現代世界と学生生活	名古屋大学	国立
	ISO 環境管理学	三重大学	国立
	PBL セミナー（ISO 学）	三重大学	国立
	神戸大学の成り立ち	神戸大学	国立
	教養特別講義	岡山大学	国立
	広島大学の歴史	広島大学	国立
	学際科目 9-3（五高と日本近代）	熊本大学	国立
	建学の心礎Ⅰ・Ⅱ	尚絅学院大学	私立
	総合Ⅱ（駒澤大学の歴史）	駒澤大学	私立
	成城学Ⅱ（成城学園と教育） みずからの学ぶ場を知る	成城大学	私立
	大学入門Ⅰ	大正大学	私立
	現代文明論	東海大学	私立
	日本近代史と明治大学	明治大学	私立
	明治学院研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	明治学院大学	私立
	総合科目（建学の精神）	立正大学	私立
	人間の尊厳科目	南山大学	私立
	言語と平和Ⅰ	京都外国語大学	私立
	大学の歴史と京都産業大学	京都産業大学	私立
	佛教大学の理念と歴史A	佛教大学	私立
	日本の近現代と立命館	立命館大学	私立
	特設科目Ⅳ（甲南大学と平生鈆三郎）	甲南大学	私立
	自校教育論	広島工業大学	私立
福岡大学を学ぶ	福岡大学	私立	
キャリア・プランニング	自分らしいキャリア設計	岐阜大学	国立
	広島大学のスペシャリスト	広島大学	国立
	キャリアデザイン、キャリアデザイン演習	比治山大学	私立
初年次教育	大学・社会生活論	金沢大学	国立
	KIT 入門	京都工芸繊維大学	国立
	教養特別講義	長崎大学	国立
	大学基礎論	高知大学	国立
	人間探求学	滋賀県立大学	公立
	総合講義	京都府立医科大学	公立
	修学基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	金沢工業大学	私立
	文化芸術総合演習	静岡文化芸術大学	私立
	言語と平和Ⅱ	京都外国語大学	私立
	フレッシュマンセミナー	園田学園女子大学	私立
	現代文明論	福岡歯科大学	私立
	カレッジ&キャリアスキルズ	東京未来大学	私立

大学史（自校史） 教育	歴史の視座「北海道大学の歴史」	北海道大学	国立
	神戸大学史	神戸大学	国立
	島大ミュージアム学	島根大学	国立
	大学論・学問論	北九州市立大学	公立
	教育制度論	宇都宮共和大学	私立
	近代日本と学習院	学習院大学	私立
	社会の中の人間 2 1（國學院大学史）	國學院大学	私立
	東京電機大学で学ぶ	東京電機大学	私立
	立教大学の歴史	立教大学	私立
	立教学院と戦争	立教大学	私立
	日本近代史における東京経済大学	東京経済大学	私立
歴史（学）教育	シーボルトと現代社会	長崎県立大学	公立
	成城学 I（柳田國男と民俗学）～小田急沿線の民俗～	成城大学	私立
宗教（学）教育	禅の心	東北福祉大学	私立
	ブッダの教え（振替「自校教育」）	佛教大学	私立
オリエンテーション ・ガイダンス	総合演習	エリザベト音楽大学	私立
	スタートアップ	日本文理大学	私立
地域理解教育	ヨコハマの産業政策	横浜市立大学	公立
	横浜学事始	横浜市立大学	公立
	横浜と産業	横浜市立大学	公立
	横浜から世界へ	横浜市立大学	公立
	成城学 III（成城フィールド・スタディー・ 成城の景観について考える）	成城大学	私立
学習スキル（手法）習 得教育	北大総合博物館で学ぼう！自然と人間	北海道大学	国立
	大分大学の人と学問	大分大学	国立
	フレッシュマンセミナー	東京電機大学	私立
専門領域導入教育	基礎乗船実習	北海道大学	国立
	空海思想入門	高野山大学	私立
	医療福祉学概論 I	川崎医療福祉大学	私立
	医・口腔医学概論	福岡歯科大学	私立
	建学の理念	福岡女学院看護大学	私立
自己発見・ 探求の機会	秋田大学論 II（がんばれ秋大生！）	秋田大学	国立
	先輩に学ぶ島根大学のこころと形	島根大学	国立
	道徳科学	麗澤大学	私立
	百科学 I	京都造形芸術大学	私立
	天水講座	比治山大学	私立
	総合講座	高松大学	私立
	純心講座	鹿児島純心女子大学	私立
その他	一般教育演習「北大への招待」	北海道大学	国立
	ヒューマンケア論	埼玉県立大学	公立
	フィールド体験学習	埼玉県立大学	公立
	インタープロフェッショナル演習	埼玉県立大学	公立
	仏教概説	武蔵野大学	私立

【謝辞】

本調査にあたりましては、ここに掲載する大学様（回答箇所様）のご協力をいただきました。またアンケートの回答に併せ、貴重な示唆・御助言をいただくとともに、大学概要、シラバス、授業一覧表、教材などの資料もご恵贈たまわりました。ここに深謝申し上げます。

「大学における自校教育実施調査」アンケート ご回答協力大学様（回答部署様）

（回答ご担当者の役職・お名前等は割愛させていただきました。なお大学名称等は回答時のものです。）

【国立大学】

北海道大学（学務部教務課教務企画担当）、室蘭工業大学（事務局教務課教務支援係）、帯広畜産大学（教務課）、北見工業大学（学生支援課教務企画担当）、弘前大学（学務部教務課教務企画グループ教務企画担当）、岩手大学（学務部教務課）、秋田大学（教務課）、宮城教育大学（入学・教務主管付教務企画担当）、山形大学（小白川学務部修学支援ユニット）、福島大学（教務部門教務企画グループ）、茨城大学（学務部学務課）、筑波技術大学（聴覚障害系支援課教務係）、宇都宮大学（学務部修学支援課教育課程チーム）、群馬大学（学務部教務課）、千葉大学（学生部教務課教務担当グループ）、東京大学（本部学務グループ企画チーム）、お茶の水女子大学（教務チーム）、東京農工大学（学務チーム）、電気通信大学（教務課）、一橋大学（学務部教務課）、横浜国立大学（学務部教務課学務係）、山梨大学（教学支援部教務課）、上越教育大学（学務部教育支援課）、富山大学（学務部教務グループ修学支援チーム）、金沢大学（共通教育機構）、福井大学（学務部教務学生サービス課）、信州大学（信州大学学務課教務グループ）、岐阜大学（教務・学生支援課全学共通教育事務室）、静岡大学（学務部教務チーム）、名古屋大学（学務部学務企画課教務企画掛）、名古屋工業大学（学生部学務課）、愛知教育大学（教務課総務係）、豊橋技術科学大学（教務部学務課教務係）、三重大学（学務部教務チーム）、滋賀大学（学務課総務係）、滋賀医科大学（学務部学生課教育支援係）、京都大学（教育推進部共通教育推進課）、京都教育大学（教務課教務グループ）、京都工芸繊維大学（学務課学務企画係）、大阪大学（大学教育実践センター）、神戸大学（学務部共通教育課）、兵庫教育大学（教育研究支援部教育支援課教務チーム）、奈良教育大学（教務課教務担当）、和歌山大学（教務課）、鳥取大学（学生部教育支援課）、岡山大学（学務部学務企画課教務第一係）、広島大学（教育室教務グループ）、島根大学（教務修学課教養教育係）、山口大学（学生支援部教育支援課共通教育係）、愛媛大学（教育学生支援部教育企画課）、高知大学（学務部学務課総務グループ）、鳴門教育大学（教務部教務課教育支援チーム）、福岡教育大学（教務課教務企画係）、長崎大学（大学教育機能開発センター）、佐賀大学（事務局学務部教務課）、大分大学（学生支援部教育支援課教育推進グループ）、熊本大学（学務部教務課教養教育担当）、鹿児島大学（学生部教学課教務係）、鹿屋体育大学（教務課）、琉球大学（学生部教務課）、総合研究大学院大学（学務課教務係）、奈良先端科学技術大学院大学（教育研究支援部学生課教育企画係）

【公立大学】

札幌医科大学（事務局学務事務部学務課学務第一グループ）、釧路公立大学（事務局学生課）、名寄市立大学（教務課広報入試係）、札幌市立大学（学務課教務係）、青森公立大学（教務課教務チーム）、青森県立保健大学（教務課）、秋田県立大学（教育本部教務・学生チーム）、国際教養大学（事務局教務課教務チーム）、山形県立保健医療大学（教務学生課）、福島県立医科大学（事務局学生課）、茨城県立医療大学（教務課教務係）、高崎経済大学（教務課）、前橋工科大学（学務課教務係）、群馬県立女子大学（事務局教務係）、群馬県立県民健康科学大学（教務係）、横浜市立大学（学務課学習・教育担当）、神奈川県立保健福祉大学（教務学生課）、産業技術大学院大学（管理部管理課）、石川県立大学（教務学生課）、金沢美術工芸大学（事務局）、石川県立看護大学（事務局教務学生課）、都留文科大学（学生課教務担当）、山梨県立大学（飯田キャンパス事務局学務課）、岐阜薬科大学（教務厚生課）、情報科学芸術大学院大学（教務課）、静岡県立大学（事務局学生室）、三重県立看護大学（教務学生課）、滋賀県立大学（教務グループ教務担当）、

京都府立大学（学務課教務担当）、京都府立医科大学（教養教育事務室）、大阪府立大学（学生センター学務課教務グループ）、奈良県立医科大学（法人企画部学務課教務係）、奈良県立大学（事務局学生課学生係）、和歌山県立医科大学（事務局学生課）、岡山県立大学（事務局教学課教務班）、県立広島大学（総合教育センター）、尾道大学（事務局学務課教務係）、下関市立大学（学務グループ教務班）、山口県立大学（教育研究支援部教務グループ）、香川県立保健医療大学（事務局教務・学生担当）、愛媛県立医療技術大学（保健科学部看護学科）、高知女子大学（学生課教務担当）、北九州市立大学（教務課 基盤教育センター）、福岡県立大学（学務部教務企画班）、長崎県立大学（学生支援課教務グループ）、熊本県立大学（教務入試課教務班）、大分県立看護科学大学（教務学生グループ）、宮崎公立大学（学務課教務係）、宮崎県立看護大学（事務局総務課教務学生担当）、沖縄県立芸術大学（事務局総務課）、沖縄県立看護大学（学務課）、

【私立大学】

札幌大学（学生支援オフィス）、札幌学院大学（教務部教務課）、函館大学（学務課）、藤女子大学（教務課）、北星学園大学（学生支援課）、北海学園大学（事務部）、北海道工業大学（教務課）、酪農学園大学（教務部教務課）、旭川大学（学務課）、北海道医療大学（学務部教務課）、北海商科大学（教務センター）、道都大学（教務部教務課）、北海道情報大学（教務課）、北翔大学（事務局学務部）、千歳科学技術大学（教務課）、苫小牧駒澤大学（教務課）、天使大学（教務課）、弘前学院大学（学務課）、八戸工業大学（学務部教務課）、青森中央学院大学（事務局学務課）、岩手医科大学（矢巾キャンパス事務室共通教育係）、盛岡大学（学生部学生課）、東北学院大学（教育研究所）、東北工業大学（学務課）、東北福祉大学（教学部教務課）、東北薬科大学（教務課）、東北生活文化大学（教務課）、石巻専修大学（事務課学務担当教育支援係）、尚絅学院大学（教務課）、東北芸術工科大学（教務課）、東北公益文科大学（教務学生課）、奥羽大学（学事部教務課）、筑波学院大学（学習支援課）、千葉科学大学（学務部教務課）、日本薬科大学（教務課）、武蔵野学院大学（教務部）、白鷗大学（学務部学務課）、群馬社会福祉大学（教学部教務課）、宇都宮共和大学（教務課）、高崎商科大学（事務局教務課）、獨協医科大学（学務部教務課）、共愛学園前橋国際大学（学生センター長/教務学生課）、桐生大学（教務課）、埼玉学園大学（教務課）、西武文理大学（教学課）、十文字学園女子大学（学生SSセンター教務課）、ものづくり大学（教務・情報課教務係）、明海大学（浦安キャンパス事務部学事課教務担当）、埼玉医科大学（大学事務部医学部事務室教務課）、駿河台大学（教務課）、聖学院大学（教務課）、文京学院大学（学生支援センター教務グループ）、愛国学園大学（学務課）、城西国際大学（教務部教務課）、敬愛大学（教務・学生課）、千葉商科大学（教務第一課）、中央学院大学（学事部教務課）、麗澤大学（教務課）、東洋学園大学（教務課）、神田外語大学（教務部教務課）、川村学園女子大学（教務課）、江戸川大学（学務課）、了徳寺大学（教務課）、上野学園大学（大学事務部教務課）、大妻女子大学（教育・学生支援センター教育支援グループ）、学習院大学（アーカイブス学専攻事務室）、学習院女子大学（教務部教務課）、共立女子大学（教務課）、国立音楽大学（学務部教務課）、國學院大学（教学事務部教務課）、駒澤大学（教務部学務課学務1係）、実践女子大学（大学事務部）、昭和大学（教務部）、成蹊大学（学務部授業課）、成城大学（教務部教務課）、聖心女子大学（企画部）、清泉女子大学（学務部学務課）、聖路加看護大学（教務部）、専修大学（生田キャンパス教務課）、大正大学（教務部教育支援課）、拓殖大学（学務課、八王子学務課）、東海大学（総合教育センター）、東京医科大学（教育部学務課）、東京家政大学（教務部教務課）、東京家政学院大学（学生部教務課）、東京女子大学（教育研究支援部学務課）、東京経済大学（学務課）、東京聖栄大学（学務課）、東京女子体育大学（教務課）、東京電機大学（学長室）、東京未来大学（こども心理学部）、東邦大学（学事統括部）、東洋大学（教務部教職・共通教育支援課）、二松学舎大学（教学課教学課）、日本大学（本部学務部学務課）、日本歯科大学（生命歯学部教務部学生部）、文化女子大学（教務課）、武蔵大学（教務部）、武蔵野美術大学（教務部教務課学務担当）、明治大学（教務サービス部共通教務グループ）、明治学院大学（教務部教務課）、明星大学（教務企画課）、立教大学（全学カリキュラム運営センター）、立正大学（大崎学事課）、早稲田大学（オープン教育センター）、和光大学（教務課）、東京女学館大学（教務委員会教務委員長）、神奈川大学（学習進路支援部学部・大学院事務課）、鶴見大学（文学部教務課）、映画専門大学院大学（法人事務局総務人事課）、横浜薬科大学（教務課）、神奈川歯科大学（教学部）、鎌倉女子大学（教務部）、相模女子大学（学習・

生活支援グループ)、東京工芸大学(厚木キャンパス教務課)、産業能率大学(大学事務局教務課)、昭和音楽大学(学務部教務課)、東洋英和女学院大学(学生支援課)、新潟医療福祉大学(事務局教務課)、長岡造形大学(学務課教務係)、新潟経営大学(学務課)、敬和学園大学(人文学部)、新潟薬科大学(学務課教務グループ)、桐朋学園大学院大学(富山キャンパス事務局)、事業創造大学院大学(事務局総務課)、金沢工業大学(企画部広報課)、北陸学院大学(入試広報課)、長野大学(教育支援課)、松本歯科大学(教務課)、清泉女学院大学(学生支援部学生支援課)、岐阜経済大学(教務課)、岐阜女子大学(学事部学事課)、朝日大学(学事部学事課)、東海学院大学(教務部)、岐阜医療科学大学(学生課)、光産業創成大学院大学(事務局総務課)、静岡理工科大学(学務課)、静岡文化芸術大学(教務室)、名古屋文理大学(教学課)、愛知学院大学(教務部教務課)、金城学院大学(学生支援部履修支援センター)、椚山女学院大学(教務課)、大同工業大学(教務室)、同朋大学(学務課)、南山大学(学務部教務課)、名城大学(学務センター)、豊田工業大学(学生部教務グループ)、愛知産業大学(教務部教務課)、豊橋創造大学(教務課)、愛知東邦大学(学務部学修支援課)、藤田保健衛生大学(学事部)、名古屋芸術大学(教務学生課)、愛知淑徳大学(学生部教務課)、愛知新城大谷大学(教務学生課)、鈴鹿医療科学大学(大学事務局)、聖泉大学(学務課)、京都外国語大学(教務部教務課)、京都産業大学(教学センター・全学共通教育センター担当)、京都光華女子大学(学生サポートセンター修学グループ)、同志社大学(教育支援機構教務部教務課)、佛教大学(教務部教務課)、立命館大学(教学部共通教育課)、龍谷大学(教学部)、京都精華大学(教務部)、京都造形芸術大学(教学事務室教学支援グループ)、京都文教大学(教務課)、京都嵯峨芸術大学(教務部教務課)、大阪工業大学(教務部教務課)、桃山学院大学(教務課)、摂南大学(教務部教務課)、プール学院大学(教務課)、大阪音楽大学(学務事務部門)、大阪学院大学(教務課)、大阪体育大学(教務課)、大阪大谷大学(教務課教務係)、追手門学院大学(教務課教務係)、関西医科大学(教養部)、関西外国語大学(教務部)、四天王寺大学(教務課)、帝塚山学院大学(狭山キャンパス事務局学務課)、梅花女子大学(教務部教務グループ)、阪南大学(教務部教務課)、大阪経済法科大学(教務課)、大阪国際大学(枚方キャンパスセンター学生サポートグループ)、常磐会学園大学(教国際コミュニケーション学部)、羽衣国際大学(教学センター)、大阪青山大学(教務部教務課)、大阪河崎リハビリテーション大学(事務局教務係主任)、森ノ宮医療大学(法人本部)、LCA大学院大学(事務局)、甲南大学(教務部)、甲南女子大学(教務部教務課)、神戸女子大学(教務課)、神戸薬科大学(教務部教務課)、神戸松蔭女子学院大学(教務課)、神戸夙川学院大学(キャンパスライフ支援課)、聖トマス大学(教学課)、聖和大学(教務課)、園田学園女子大学(教学支援局学生支援部教務課)、兵庫医療大学(教育学生支援グループ)、武庫川女子大学(教務部教務課)、流通科学大学(教学部)、関西福祉大学(教務部)、近畿医療福祉大学(教務課)、奈良大学(教務課)、奈良産業大学(教務課)、高野山大学(学生サポート課教務係)、鳥取環境大学(学務課)、岡山商科大学(教務課)、川崎医科大学(学務課教務係)、川崎医療福祉大学(事務局教務課)、倉敷芸術科学大学(教務部教務課)、中国学園大学(教務部)、美作大学(教務課)、ノートルダム清心女子大学(教務部教務課)、エリザベト音楽大学(学務部)、広島工業大学(学務部)、広島修道大学(教務部)、広島女学院大学(教務部教務課)、比治山大学(学生支援室)、広島国際大学(学生支援センター教務課)、山口東京理科大学(事務局学務課)、四国大学(教務部教務課)、高松大学(学生支援部教務課教務係)、松山大学(教務部教務課)、聖カタリナ大学(学生部教務課)、松山東雲女子大学(学務部教務課)、高知工科大学(教務学生部)、九州共立大学(教務課)、九州女子大学(教務課)、福岡歯科大学(学務課)、久留米大学(教務学習支援センター事務局)、西南学院大学(教務部教務課)、西南女学院大学(教務課)、中村学園大学(教務課)、西日本工業大学(学務グループ)、福岡大学(共通教育センター)、福岡女学院看護大学(事務局学務係)、福岡国際大学(教務課)、九州栄養福祉大学(教務部教務課)、福岡医療福祉大学(人間社会福祉学部)、保健医療経営大学(学務課)、崇城大学(教務課)、熊本学園大学(教務課)、九州ルーテル学院大学(学務・入試センター)、九州看護福祉大学(教務課)、熊本保健科学大学(学務課)、日本文理大学(人間力育成センター)、別府大学(教務課)、立命館アジア太平洋大学(アカデミック・オフィス)、南九州大学(教務課)、環太平洋大学(教務課)、九州保健福祉大学(教務課)、鹿児島国際大学(教務課)、志学館大学(学務課)、鹿児島純心女子大学(学生支援課)、沖縄国際大学(教務課)、沖縄大学(教務部教務課)、沖縄キリスト教学院大学(教務課)、サイバー大学(教務部) 以上373大学様

「大学における自校教育の実施状況調査」アンケート

平成 20 年度科学研究費補助金 基盤研究 (C)
「大学における自校教育の導入・実施と大学評価への活用に関する研究」

実施：岩手大学 准教授 大川一毅（評価室）

連絡・お問い合わせ（岩手大学 評価室）：〒020-8550 盛岡市上田 3-18-8 TEL019 (621) 6018
kazuki55@iwate-u.ac.jp

- ・貴学における「自校教育」授業の実施状況についておうかがいします。
- ・各設問について、該当する回答項目番号を直接○で囲んで下さい。電子ファイルでご回答の場合は「ラインマーカー」機能、「アンダーライン」機能、「色文字」機能などで回答箇所を示していただいても結構です。
- ・設問に応じ、自由記述欄へのご回答もお願いいたします。補足説明等が必要でしたら、余白部分をご随意にご使用下さい。
- ・回答することが困難であったり不可能な場合は、無回答・空欄のまま先の設問にお進み下さい。

ご回答にあたって

1 「自校教育」について

- ・本アンケートにおける「自校教育」とは、自大学の理念、目的、制度、沿革、人物、教育・研究の現況、社会に果たしている役割、など「自校（自学）に関わる特性や現状、課題等を中心的な教育内容、教育題材として実施する授業科目（もしくは特定期間に連続実施される一連の教育活動）」とします。
- ・授業科目としては、各大学名を表記する「〇〇大学論」などをはじめ、自校に関わる前述内容を含んだ「高等教育論」「大学論」等の授業も該当いたします。自校教育授業を各大学様のご判断で「広義」に解釈していただいても結構です。

「自校教育」授業の事例：

「〇〇大学論」、「〇〇大学の人と学問」、「〇〇大学の歴史」、「〇〇大学のルーツとアイデンティティ」、「高等教育論」、「日本の近代化と〇〇大学」、「〇〇大学の教育・研究と運営」、「大学と社会」、「大学とミッション」、「キリスト教と建学の精神」、「大学で何を学ぶか」、「フレッシュマンセミナー」、「オリエンテーションセミナー」、「キャリアデザイン入門」、など

2 調査対象とする授業

- ・2008（平成 20）年度に、学士課程で実施する授業科目についての回答を基本としますが、大学院課程や公開講座（連続授業）等で実施される授業を該当させても結構です。
- ・回答対象とするのは、一連の継続をもって展開される授業科目（もしくはそれに相当する教育活動）とします。1 回限りの講話などで終了する講演や公開講座は該当外とお考え下さい。
- ・該当授業は、全学対象（全学共通科目など）で実施するものの他、学部や学科単位で実施する授業でもかまいません。

3 該当授業が複数ある場合

- ・自校教育授業が複数ある場合は、それぞれについてご回答下さい。回答欄外を使用しても結構です。
- ・電子ファイルでご回答の場合は、ご随意に別途回答欄を作成（コピー・ペースト）いただいても結構です。
- ・返送いただく回答票のページ数が増えたり、レイアウトが変わっても差し支えありません。回答票用紙を別途コピーしていただき、授業科目ごとに回答くださってもかまいません。

設問 1 「自校教育」授業の実施について

貴学における「自校教育」授業の実施について、該当する番号を○で囲んで下さい。

- ① 実施している ② 実施していない ③ 実施していないが検討中

➡ ②もしくは③を回答された場合は、設問 10（最終頁）にお進み下さい。なお、③を回答された場合でも、検討中の授業を想定して、可能な範囲で設問 2 以降のご回答をいただければ幸いです。

設問 2 「自校教育」授業の実施状況について

貴学における「自校教育」授業の実施状況・実施体制についておたずねします。

1 「自校教育」授業について

貴学における「自校教育」の授業名をお教え下さい。二科目以上あれば、それぞれについてご記入下さい。また授業実施責任部局（たとえば文学部、大学共通教育センター、など）もお教え下さい。

授業名 1	<input type="text"/>	実施部局	<input type="text"/>
2	<input type="text"/>	実施部局	<input type="text"/>
3	<input type="text"/>	実施部局	<input type="text"/>

※ 原則として 2008 年（平成 20）度実施授業についてご回答願います。

2 「自校教育」授業の実施体制について

上記「自校教育」授業の実施体制についておたずねします。該当する項目番号を○で囲んで下さい。該当する項目がない場合は、「その他」の回答枠に記述して下さい。

二科目以上の授業がある場合は、それぞれが区別できるよう記載願います。

(1) 前記設問 1 で回答いただいた「自校教育」授業（以下、「該当授業」と呼ぶ）について、教育課程上の「位置づけ（配置）」をお教え下さい。（複数回答可）

（貴学での名称が異なる場合は、下記に相当する項目を回答いただくか、「その他」の枠内にご回答下さい。）

- ① 教養科目 ② 基礎科目 ③ 全学共通科目 ④ 初年次科目

- ⑤ 専門基礎科目 ⑥ 専門科目 ⑦ オリエンテーション科目

- ⑧ 随意科目（卒業認定単位外科目）

- ⑨ その他

- (2) 該当授業について、「必修科目」「選択科目」などの種別をお教え下さい。(複数回答可)
(貴学での名称が異なる場合は、下記に相当する項目を回答いただくか、「その他」の枠内にご回答下さい。)

- ① 必修科目 ② 必修選択科目 ③ 選択科目 ④ 単位外科目 (随意科目)
⑤ その他

- (3) 該当授業の実施形態についてお教え下さい。

- ① 講義 ② 演習・ゼミ ③ 講義・演習併用
④ その他

- (4) 該当授業の実施時期、配当単位、履修者数についてお教え下さい。

- ・実施時期 (① 前期授業 ② 後期授業 ③ 通年授業 ④ 集中授業)
⑤ その他

- ・該当授業の配当単位

単位

- ・履修者数 (実績、もしくは定員)

名

(回答可能であれば、おおよその数をお教え下さい。)
(前年度実績でも結構です。)

- (5) 該当授業で履修対象に指定する学生 (受講者) についてお教え下さい。(複数回答可)

- ① 全学生 (学士課程・大学院課程の区分無し) ② 全学士課程学生 (学年区分無し)
③ 学士課程1年生 ④ 学士課程2年生 ⑤ 学士課程3年生 ⑥ 学士課程4年生以上
⑦ 全大学院学生 (課程・学年区分無し) ⑧ 大学院修士課程学生 ⑨ 大学院博士課程学生
⑩ その他

(卒業生、市民、高校生なども含む)

- (6) 上記設問 (5) で回答いただいた学生 (受講者) の「所属」についてお教え下さい。(複数回答可)

- ① 全学士課程 ② 特定学部 ③ 特定学部特定学科 ④ 大学院課程

学部

※ 枠内に具体的に記入下さい。

- ⑤ その他

(卒業生、市民、高校生なども含む)

(7) 該当授業の担当者（教員）について、担当者数と担当者のお立場（職名）をお教え下さい。

- ・担当者数 ① 1名 ② 複数：名
- ・授業担当者（複数回答可）
- ① 学長 ② 理事長 ③ 大学役員等（①・②以外の理事、副学長等） ④ 監事
- ⑤ 学部長等の部局長 ⑥ 専任教員 ⑦ 非常勤講師（他大学教員） ⑧ 大学職員
- ⑨ 卒業生（校友） ⑩ 学外者
- ⑪ その他

(8) 前記設問（7）で「授業担当者数」を「複数」と回答された方におうかがいします。
授業（計画）全体をとりまとめる「統括者（コーディネーター）」はいらっしゃいますか。
いらっしゃる場合には、その方の役割等についてもお教え下さい。

- ・統括者（コーディネーター） ① いる ② いない

上記で ① いる を回答された方におうかがいします。

授業統括者は、どのお立場（職位）にある方でしょうか。該当する番号に○をつけて下さい。

- ① 学長 ② 理事長 ③ 大学役員等（副学長、理事等）
- ④ 学部長等の部局長 ⑤ 専任教員 ⑥ 非常勤講師（他大学教員）
- ⑦ 大学職員 ⑧ 助手・TA・RA ⑨ 卒業生（校友）
- ⑩ 学外者
- ⑪ その他

授業統括者（コーディネーター）の役割について、該当する番号に○をつけて下さい。（複数回答可）

- ① 授業（もしくは授業計画）の企画 ② 教員・講師間の連絡・調整 ③ シラバスの作成
- ④ 授業実践（授業の担当） ⑤ 毎時の授業進行（司会など） ⑥ 毎時の授業補佐
- ⑦ 履修学生への授業時外指導（課題への対応やオフィスアワー等での学習支援） ⑧ 学生の出席管理
- ⑨ 試験やレポートの作成・採点 ⑩ 教材の作成 ⑪ 成績評定
- ⑫ 授業評価に関する業務 ⑬ 授業で利用する施設の手配

- ⑭ その他

- (9) 大学職員で、「自校教育」授業の「主要スタッフ」として企画や運営に直接関与している方はいらっしゃるでしょうか(平素行われる通常の教務支援活動は除く)。
いらっしゃる場合には、その方の役割についてもお教え下さい。

大学職員が、「自校教育」授業の企画・運営等に

① 関与している

② 関与していない

上記で(① 関与している)を回答された方におうかがいします。自校教育授業に関与している大学職員の役割について、該当する番号に○をつけて下さい。(複数回答可)

- | | | |
|--------------------------------|-----------------|-----------|
| ① 授業(もしくは授業計画)の企画 | ② 授業統括(コーディネート) | ③ シラバスの作成 |
| ④ 授業実践(授業の担当) | ⑤ 毎時の授業進行(司会など) | ⑥ 毎時の授業補佐 |
| ⑦ 履修学生への授業時外指導(課題への対応や学習相談・支援) | | ⑧ 学生の出席管理 |
| ⑨ 試験やレポートの作成・採点 | ⑩ 教材の作成 | ⑪ 成績評定 |
| ⑫ 授業評価に関する業務 | ⑬ 授業で利用する施設の手配 | |
| ⑭ その他 | | |

設問3 「自校教育」授業の実施目的について

貴学における「自校教育」授業の実施目的についておたずねします。

- 1 貴学における「自校教育」授業の実施目的について、該当番号を○で囲んで下さい。
シラバス等に掲載されている「授業の目的」から判断してご回答いただいても結構です。(複数回答可)

- | | | |
|-------------------------|---------------------|--|
| ① 自学の理念・使命(ミッション)・目的の周知 | ② 自校史・沿革の理解 | |
| ③ 愛校心の涵養(形成) | ④ 大学への帰属意識の涵養(形成) | |
| ⑤ 自学の現況の理解 | ⑥ 日本や世界の大学をめぐる状況の理解 | |
| ⑦ 学生の自己探求を深める機会の提供 | ⑧ 大学が立地する「地域」の理解 | |
| ⑨ 学習方法(スキル)の習得 | ⑩ 大学における学習意欲の促進 | |
| ⑪ 教養・基礎教育の一環 | ⑫ 専門教育の一環 | |
| ⑬ キャリア(プランニング)教育の一環 | ⑭ 初年次教育(導入教育)の一環 | |
| ⑮ 同窓会組織の活性化 | ⑯ 卒業生や地域社会への教育サービス | |
| ⑰ 高大連携教育の一環 | ⑰ 宗教(学)教育の一環 | |
| ⑱ その他 | | |

- 2 貴学における「自校教育」授業において、「到達目標（身につけようとする力）」や「授業目標」として、下記①～⑨の項目（「学士力」育成の視点）に相当するものがあれば、該当番号を○で囲んで下さい。シラバスから判断してご回答いただいても結構です。

「知識的側面」について

- ① 【異文化の理解（外国などの文化を理解する）】
 ② 【社会情勢や自然、文化への理解（人類の文化や社会情勢などを理解する）】

「技能的側面」について

- ③ 【コミュニケーション能力（日本語、または特定の外国語で読み、書き、聞き、話すことができる）】
 ④ 【情報活用力（文献や資料、インターネットなどの多様な情報を適切に使い、活用できる）】
 ⑤ 【論理的思考力（情報や知識を分析し、表現できる）】

「態度」について

- ⑥ 【チームワーク、リーダーシップ（他者と協力して行動したり、目標実現のための方向性を示せる）】
 ⑦ 【倫理観（自分の良心や社会のルールに従って行動できる）】
 ⑧ 【生涯学習力（卒業後も自ら学習できる）】

「創造的思考力」について

- ⑨ 【課題解決能力（知識、技能、態度を総合的に活用し、問題を解決することができる）】

設問4 「自校教育」授業の内容と方法

貴学における「自校教育」授業の内容と方法についておたずねします。

- 1 「自校教育」の授業計画にあって、下記項目の授業内容が含まれていれば、該当番号を○で囲んで下さい。シラバスに掲載されている「授業内容・計画」等からご回答いただいても結構です（複数回答可）。提示した項目以外にも特徴的な内容があれば「その他」の回答枠に記述下さい。

- | | | |
|--------------------|---------------|---------------|
| ① 自学（学部）の沿革、歴史 | ② 自学と関係する人物 | ③ 自学の理念・建学の精神 |
| ④ 自学の現状 | ⑤ 自学の将来 | ⑥ 自学と地域社会の関係 |
| ⑦ 自学への期待（学外者からの意見） | ⑧ 自学の文化財や自然環境 | ⑨ 日本や世界の大学の歴史 |
| ⑩ 日本や世界の大学をめぐる状況 | ⑪ 大学における学習法 | ⑫ キャリア・プランニング |
| ⑬ 学問論 | ⑭ 自学のスポーツ | ⑮ 宗教に関する内容 |
| ⑯ その他 | | |

2 「自校教育」授業で使用している教科書や参考書等の教材について、該当番号を○で囲んで下さい。シラバスに掲載されている内容からご回答いただいても結構です。(複数回答可)

- | | |
|----------------------|------------------------------|
| ① 「自校教育」授業用に作成した書籍 | ② 「自校教育」授業用に作成した冊子・パンフレット |
| ③ 大学(学部)沿革史(書籍) | ④ 自学に関わる人物に関する書籍・冊子(伝記・語録など) |
| ⑤ 前記①～④以外の書籍・教科書 | ⑥ 大学概要(冊子) |
| ⑦ 大学作成の一般パンフレット・広報誌等 | ⑧ ホームページ(web) |
| ⑨ 授業担当教員作成の資料やレジュメ | ⑩ 特になし |
| ⑪ その他 | <input type="text"/> |

3 「自校教育」授業を実施するにあたり、下記の施設を活用していましたら、該当番号を○で囲んで下さい。その施設(たとえば歴史的建築)についての学習や施設見学等も含まれます。シラバスに掲載されている内容からご回答いただいても結構です。(複数回答可)

- | | | |
|----------------------|------------------------|-----------------|
| ① 大学の博物館 | ② 大学農場 | ③ 自然観察園・植物園 |
| ④ 大学構内の建造物 | ⑤ 図書館(「収蔵コレクション」も含む) | ⑥ 大学資料室(アーカイブス) |
| ⑦ 大学記念館・記念室(収集資料も含む) | ⑧ 大学の研究所・研究施設(見学も含む) | ⑨ 視聴覚教室・施設 |
| ⑩ 大学の運動施設 | ⑪ セミナーハウス等の学外学習施設 | ⑫ 大学構内の歴史的遺構 |
| ⑬ 大学構外の歴史的遺構 | ⑭ 地域社会の自然環境(海、山、森、川など) | ⑮ 地域社会の施設 |
| ⑯ 宗教的施設(礼拝堂など) | ⑰ 特になし | |
| ⑱ その他 | <input type="text"/> | |

※ 通常で利用する教室、演習室等は除きます。

4 成績評価にあたって採用・実施している方途について、該当番号を○で囲んで下さい。シラバスに掲載されている内容からご回答いただいても結構です。(複数回答可)

- | | | |
|-----------|----------------------|-----------------------------|
| ① 試験 | ② レポート | ③ 毎授業時の感想文、作文(コメントカードなども含む) |
| ④ 発表・口頭報告 | ⑤ 出席状況 | ⑥ 学習参加状況(討論参加度、実習活動状況、質問等) |
| ⑦ ポートフォリオ | ⑧ 成績評価は実施しない | |
| ⑨ その他 | <input type="text"/> | |

設問5 「自校教育」授業の類型

貴学における「自校教育」授業について、その目的や内容から「類型化（分類・タイプ）」を試みるならば、下記項目中のいずれに該当するでしょうか。最もあてはまる「類型」の該当番号を1つ選び、○で囲んで下さい。シラバスに掲載されている授業目的・内容等からご回答ご判断いただいても結構です。

- | | | |
|---------------|----------------------|------------|
| ① 自校理解教育 | ② キャリア・プランニング | ③ 初年次教育 |
| ④ 大学・高等教育論 | ⑤ 大学史（自校史）教育 | ⑥ 歴史（学）教育 |
| ⑦ 宗教（学）教育 | ⑧ オリエンテーション・ガイダンス | ⑨ 地域理解教育 |
| ⑩ 学問論 | ⑪ 学習スキル（手法）習得教育 | ⑫ 専門領域導入教育 |
| ⑬ ボランティア活動の機会 | ⑭ 自己発見・探求の機会 | |
| ⑮ その他 | <input type="text"/> | |

設問6 学生による授業評価

これまでご回答いただいた「自校教育」授業について、履修者（学生）はどのように評価しているでしょうか。学生による授業評価の調査結果がございましたら、可能な範囲でご教示願います。正確なデータではなくとも、おおよその状況でも結構です。相当する項目番号を○で囲んで下さい。

※本年度の授業評価をまだ実施していないようでしたら、昨年度の該当授業の結果でも結構です。

1 授業への満足度

5 満足	4 おおむね満足	3 どちらともいえない	2 やや不満	1 不満
------	----------	-------------	--------	------

2 授業目的の達成度（学生の意識）

5 達成	4 おおむね達成	3 どちらともいえない	2 やや不十分	1 不十分
------	----------	-------------	---------	-------

3 学生の授業評価（もしくはコメントカードなど）において興味深い記述や貴重な意見等があればご教示下さい。

設問 7 「同窓会組織との関係」

貴学の「自校教育」授業と「同窓会（卒業生）組織」との関係についてお教え下さい。

同窓会等が「組織」として「自校教育」授業の企画・運営等に ① 関与している ② 関与していない

・上記で(① 関与している)を回答された方におうかがいします。同窓会が「自校教育」授業に対して「組織的」にどう関与していますか。該当する番号に○をつけて下さい。(複数回答可)

- | | | |
|---------------------|------------------|--------------|
| ① 授業の企画 | ② 授業の統括・運営 | ③ 講師の紹介・派遣 |
| ④ 授業実践(授業の担当) | ⑤ 授業内容に関する取材協力 | ⑥ 教材の作成・協力 |
| ⑦ 運営経費の全額負担(寄附口座など) | ⑧ 運営経費の支援(寄附金など) | ⑨ 物品寄付 |
| ⑩ 施設利用の便宜 | ⑪ 授業に関する広報活動 | ⑫ 校友の授業履修・聴講 |
| ⑬ その他 | | |

設問 8 「自校教育」授業実施にあたっての対応課題・問題点

「自校教育」授業を実施するにあたって対応に労力を要した課題、もしくは問題点について、下記に該当する項目があれば、その番号を○で囲んで下さい。(複数回答可)

- | | | |
|----------------------|---------------|-------------|
| ① 授業目的や到達目標の設定 | ② 教育課程上の配置 | ③ 授業計画の策定 |
| ④ 授業内容の選定 | ⑤ 担当教員(講師)の選定 | ⑥ 担当教員の出講調整 |
| ⑦ 複数教員による授業内容の整合性 | ⑧ 授業方法上の課題 | ⑨ 施設利用の手配 |
| ⑩ 授業統括者(コーディネーター)の負担 | ⑪ 成績評価の基準 | ⑫ 成績評価の方法 |
| ⑬ 学生への学習動機付け | ⑭ 履修者数の多さ | ⑮ 履修者数の少なさ |
| ⑯ 学外者との交渉 | ⑰ 同窓会組織との対応 | ⑱ 授業運営経費 |
| ⑲ 特になし | ⑳ その他 | |

設問 9 「自校教育」について(自由記述)

これまでお答えいただいた「自校教育」授業について、独自の特徴や試み、あるいは実施・運営上の課題等がございましたらご自由に記述ください。その他、自校教育授業全般に関してでも結構です。

設問 10 ご回答部署さま（報告書の送付先）

1 ご回答部署さま（または回答者さま）、及びご連絡先（調査報告書の送付先）をお知らせ下さい。

大学名	
ご回答者部署さま	
(ご回答者さま) (役職)	
ご連絡先住所	〒
(電話番号)	☎
(電子メール)	

2 今回のアンケートのご回答について、貴学様のご意向をお知らせ下さい。

本調査は、「科学研究費補助金 基盤研究」として学術研究目的で実施します。これにあたり、調査結果は学会等での学術報告、新聞等マスメディアによる報道報告、および調査協力大学様への結果報告を行います。これら以外の目的で利用することはありません。

今回のご回答につきまして、貴学様のご意向をお知らせ下さい。

- ① 大学名をふくめ、回答内容（「自校教育」授業事例等）を公開してもよい。
- ② 大学名を匿名にするかぎりにおいて、回答内容（「自校教育授業事例」等）を公開してもよい。
- ③ 大学名が特定できない集計データとしてのみ、回答内容（結果）を公開してよい。
- ④ その他

以上でアンケートを終了いたします。ご協力に心より御礼申し上げます。

おわりに：

貴学実施の「自校教育」授業の概要（シラバス）がホームページで公開されていたら、そのアドレス（URL）を枠内にお知らせ願います。

なお、貴学における「自校教育（授業）」の状況がわかるシラバス該当箇所のコピー、発行冊子（大学報やパンフレット）、またはそこに掲載された記事等のコピー、あるいは学生による授業評価結果（抜粋）等、可能な範囲でご恵贈たまわることができましたら幸甚です。

Ⅱ 自校教育授業における「到達目標」と授業内容・評価

—アンケート調査結果と実施大学のシラバス記載から—

はじめに

大学教育の「質保証」が求められるようになった現在、自校教育授業においても明確な到達目標の設定が重要課題となっている。2008（平成 20）年度に実施したアンケート調査結果でも、自校教育授業実施上の課題として「到達目標の設定」を回答した大学も多かった。

そこで本章では、自校教育授業において、シラバスの記載から「授業目的」や「到達目標」を具体的にどう設定しているかを概観する。これら到達目標の検証にあわせ、成績評価の実施方法、および授業に対する学生の感想について報告する。

1 授業類型別にみる自校教育授業（目標、内容構成、成績評価）

2008（平成 20）年実施のアンケートでは、自校教育授業を実施目的や授業内容をもとに類型化し、各大学の授業がいずれに該当するかをたずねた。196 回答中で最も多かった類型は「自校理解教育（61 授業 31%）」であり、これに「初年次教育（29 授業：18%）」、「大学史（自校史）教育（17 授業：9%）」、「専門領域導入教育（17 授業：9%）」、「地域理解教育（15 授業：8%）」が続いた。

これらのうち、回答の多かった 3 類型（「自校理解教育」、「初年次教育」、「大学史（自校史）教育」）について、該当授業の 2010（平成 22 年度）度授業のシラバスにおいて「到達目標」をどのように記載しているかを例示する。本章で事例紹介するのは、アンケート回答時に資料等の公開承諾のあった大学のうち、web サイトでシラバスを公開している授業である。

なお、シラバスにおいて授業目的を明示することは定着したが、現段階においては「学習成果」としての「到達目標」も提示している大学（学部）は必ずしも全てではない。

こうした事情もふまえ、紹介しうる授業は限定されていることに留意願いたい。

(1) 「自校理解教育」類型授業

この類型授業は、「自校の理念、教育目的、沿革、現況」など大学諸様相の総合的な理解を導くことを主眼とする。これらの学習をふまえ、学生は「大学で何を学んでゆくべきか」を主体的に考えていくことに資することを目的とする授業も多い。

各大学で実施している自校教育では、この「類型」に位置づけるアンケート回答が最も多かった。

① 「自校理解教育」類型授業の実施目的

授業実施目的として、アンケートで回答率の高かった項目

「自学の理念・使命・目的の周知	(51 授業：85%)
「自校史・沿革の理解	(48 授業：80%)
「大学への帰属意識の涵養	(29 授業：48%)
「愛校心の涵養	(27 授業：45%)
「自学の現況の理解	(26 授業：43%)

アンケート回答では、この類型授業（回答 60 授業）の実施目的回答として「自学の理念・使命・目的の周知（51 授業：85%）」、「自校史・沿革の理解（48 授業：80%）」を回答する比率が 80%を超え、これらに次いで、「大学への帰属意識の涵養（29 授業：48%）」、「愛校心の涵養（27 授業：45%）」、「自学の現況の理解（26 授業：43%）」の回答が多かった。

授業内容の詳細は各授業それぞれだか、一連の授業計画の中に「建学の精神」、「大学の理念・目的の周知」、「自校の沿革」などの主題（授業内容）が組み込まれている場合が多い。

② 「自校理解教育」類型授業の「到達目標」

授業の「質保証」が要求される中、学習の成果としての「到達目標」もシラバスでの提示が進んでいる。「到達目標」は、授業を履修して学習目的を達成できた結果、どのような知識・能力が修得できるのかを観察可能な具体的内容で記載され、その達成状況が成績評価となる。

シラバスの「到達目標」は、達成されるべき内容が現実的な表現で記載される。ここでは学生を主体にして「・・・できる」といった表記となり、知識・能力・技能などの領域毎に示される場合もある。

「自校理解教育」類型の授業について、シラバスに記載された「到達目標」を見るならば、『自学の歴史を、固有名詞や年代もふくめ他者に口頭または文章で説明できる』など「自学沿革の説明能力」を提示する場合が多い。「自校理解」としての到達目標を「可視化」する場合、「大学の沿革を説明できる」という「能力・行動」が、もっとも設定しやすいものと考えられる。

これに加え『大学とはいかなるところかを理解する』、『大学で何を学ぶのかを認識する』など「自らの学びの位置を知る」ことを到達目標とする記載も目立った。

自校理解教育類型に多くみられる「到達目標」

- ・ 自学の目的・理念・使命を理解し、これを説明できる。
- ・ 自校の歴史・沿革を理解し、これを説明できる。
- ・ 自学で行われている様々な学問分野を理解し、説明できる。
- ・ 自らが学ぶ方向性や将来を考える指針を形成する。
- ・ 大学での学び方（学習スキル）を身につける。
- ・ 大学で学ぶこと（所属すること）の意義を見出す。
- ・ 大学における学習意欲を高める。

以下、シラバスに記載されていた具体的事例を紹介する。

北海道大学（特別講義「北海道大学の人と学問」）

- ・ 北海道大学の4つの基本理念と4つの教育目標を理解する。
- ・ 本学で行われているさまざまな学問分野のおおよそを理解し、必要に応じてその分野の専門家や文献にアクセスできる能力を養い、講師自身の教育者および研究者としての体験から、それぞれの専門領域の社会的位置づけや将来への展望、さらには人間としての生き方を学ぶ。
- ・ この授業を契機として、受講生が学問や社会や人間について問題意識を持つ。

秋田大学：（「秋田大学論Ⅰ」）

- ・秋田大学の歴史・沿革について、概略を説明できる。
- ・秋田大学で学ぶことに対しての意欲を高める。

岩手大学：（「岩手大学論」）

（2009年度開講科目）

- ・岩手大学という組織が様々な立場・仕事から成り立っていることを、例をあげて説明できる。
- ・岩手大学をよりよくするための「学生プロジェクト」を企画できる。
- ・自分が今後大学で何を学びたいのか、どのような力をつけたいのかを（レポートに）表現できる。

熊本大学：（「五高と近代日本」）

- 1) 明治以後、戦前の教育制度において大きな役割を果たした五高の教育が理解できるようになる。
- 2) 多くの優秀な人材を輩出した五高が近代日本において果たした役割を説明できる。
- 3) 五高から熊大へと続く教育および学問の伝統と歴史を学ぶことによって、熊大生としてのアイデンティティと誇りを身につける。

北海道大学：（一般教育演習「北大エコキャンパスの自然と歴史」）

- ・北大札幌キャンパスや植物園で見られる植物について、一般の人に解説ができるようにする。
- ・キャンパス附属施設の実験苗畑や研究農場の教育・研究上の目的・機能・意義についてよく理解し一般市民に説明できるようにする。
- ・学外調査やレポートのまとめ方などの基本を身につける。

岐阜大学：（「岐阜大学の教育研究と運営」）

1. 授業のねらい（授業のねらい・目標・学習達成目標）

岐阜大学の5学部及び主要な附属研究センター等の設置目標と、研究や教育における特色やトピックスなどを紹介し、本学における教育と研究像を提示する。さらに、本学が発信する地域と国際貢献の展望と実際のいくつかについても具体的事例で紹介する。この講義から、本学の学生として何を学んでゆくべきかについて考え、自らが将来の計画を創り上げるための基礎を確立して欲しい。また、この授業では報告書をまとめる力を高めるため、本講義の内容を基にして『岐阜大学の特色と取組の現状』を課題とするレポートを提出する。

講義に関連して紹介される課題図書等を学習し、個別に読書力を高め、それらの内容をまとめる力を付けるなど自学自習も期待している。

.....

- ※ なお、「初年次教育授業」類型ではなく、「キャリアプランニング教育」類型として回答された事例も次項に紹介する。

広島大学：(広島大学のスペシャリスト)

学習の成果

最も身近な社会である大学の多様性を理解し、大学の構成員との自覚と、専門的なキャリア形成の道筋を自ら考えることができるようになる。

③ 「自校理解教育」 類型授業の内容構成

「自校理解教育」 類型の授業は、各大学の実施目的に応じて授業内容も形態も多様である。

あえてその授業内容を抽出するならば、

- ・「大学の理念・建学の精神」
 - ・「自校沿革史」
 - ・「自校の現況」 (キャンパス)
(教育・研究活動)
(社会貢献)
(大学の運営)
 - ・「地域と大学」
 - ・「学生論」
 - ・「大学に関わる人物(創設者、卒業生)」
 - ・「大学の将来像」
- などが主な構成要素となる。

「自校理解教育」 類型授業の内容構成要素

1	授業ガイダンス
2	建学の精神 (開学の経緯)
3	自学の歴史 (戦前期)
4	自学の歴史 (戦後教育改革・新制大学)
5	自学の歴史 (大学の発展・拡大)
6	学部の歴史 (前身校史も含む)
7	大学キャンパス (建築、遺跡、自然)
8	自学における様々な研究活動
9	学長・学部長の講話
10	地域と大学
11	卒業生講演
12	大学と関係する人物
13	学生論
14	大学の現況と将来像

私立大学では「建学の精神」に関わる授業

内容のウェイトが高くなり、また宗教系の大学では、それぞれの「理念(ミッション)」や「主義」についての授業内容を重視する。

こうした内容構成による授業を展開するにあたり、複数の授業担当者による「オムニバス型」形態を採用することが一般的である。担当者は、ある専任教員が「コーディネーター」役を務め、授業の担当には学長や学部長等の部局長、あるいは理事長や大学役員などが関わることも多い。

授業には卒業生を含め、学外講師も招聘されている。ここでは、自らの体験談や学生達への期待を語っている

※「自校理解教育」 授業類型にあっても、「問題解決型(学生参画型)」を採用する授業では、一名もしくは少数名の専任教員によって展開される。

ヒアリング調査では、総合大学における「自校理解教育」 類型授業においては「文系」学生よりも、むしろ「理系」学生の履修者数が多い傾向にあることが明らかとなった。授業内容の構成や授業方法において、こうした側面への配慮も必要である。

③ 「自校理解教育」類型授業における成績評価

「教育の質保証」が強調される今日的状況にあつて、成績評価のありかたが重要視される。成績評価にあたっては、該当科目の教育目標や「到達目標」に照らして学生の学習達成度を測定し、その到達水準を学習成果として提示することが求められる。これにあたっては到達目標への達成状況を判定する上で妥当性のある具体的成績評価方法と評価基準を明らかにしなければならない。

従来の自校教育授業については、ともすればこのことが曖昧のままに実施されてきた。果たして現行の自校教育授業では、どのように成績評価が実施されようとしているのか。

「自校理解教育」類型授業の成績評価方法をアンケート結果からあらためて整理する。

自校理解教育類型授業の成績評価方法（回答61授業、複数回答）

「レポート（44授業：72%）」、
「出席状況（41授業：67%）」、
「毎授業時の感想文、作文、コメントカード（33授業：20%）」、
「試験（21授業、31%）」

これら成績評価方法が「自校理解教育」類型の主だった成績評価方途である。

この他、「自校理解教育」類型授業の成績評価方法として回答されたのは「発表・口頭報告（3授業、5%）」、「学習参加状況（11授業18%）」、「ポートフォリオ（0授業0%）」だった。

「自校理解教育」類型では、到達目標として「自学の目的・理念・使命を理解し、これを説明できる」や「自校の歴史・沿革を理解し、これを説明できる」といった設定する場合が多い。これら目標の達成度を測る手段として「レポート」を採用する授業比率が7割を超える。「自校理解教育」類型授業でのレポート出題内容も、こうした授業意図が反映されている。

この類型の授業では、教育目標（到達目標）として、必ずしも「自校の沿革や現況に関する知識の多寡や正確さ」を第一義の習得目標には位置づけてはいない。

このことは、授業履修者の学習知識の正確さや多さを測定する要素が強い「試験」という成績評価方途を採用する授業が3割程度にとどまっていることからもうかがえる。

「自校理解教育」類型授業では、「到達目標」として「大学で学ぶこと（所属すること）の意義を見出す」ことや「自らが学ぶ方向性や将来を考える指針を形成する」といった側面を重視する。こうした理由から、成績評価の方法として「出席状況（41授業：67%）」、「毎授業時の感想文、作文、コメントカード（33授業：20%）」も多用される。

成績評価の方途に「出席状況」や「毎時の感想文・レスポンスカード」の利用が多いのは、「自校理解教育」類型授業の多くが、複数担当者による「オムニバス形式」を採用していることにも関係していよう。

(2) 「初年次教育」類型授業

① 「初年次教育」類型授業における授業実施目的

アンケートでこの類型を回答した多くの授業は、授業計画全体で「初年次導入教育」を実施すること主眼としており、自校教育内容はその一環として織り込まれている。

それゆえに授業実施目的についてのアンケート結果（回答 29 授業）も、「初年次導入教育の一環（21 授業：72%）」、「自学の理念・使命・目的の周知（20 授業：69%）」、「学習方法の習得（19 授業：66%）」の回答が 60%を超えた。また「学生の自己探求を求める機会の提供（17 授業：59%）」、「自学の現況の理解（16 授業：55%）」、「大学における学習意欲の促進（16 授業：55%）」、「教養・基礎教育の一環（16 授業：55%）」などの回答比率も 50%を超えている。

授業実施目的として、アンケート（回答 29 授業）で回答率が高かった項目

「初年次導入教育の一環（21 授業：72%）」 「自学の理念・使命・目的の周知（20 授業：69%）」 「学習方法の習得（19 授業：66%）」
--

② シラバスに記載された「到達目標」の記載事例

「初年次教育」類型に多くみられる「到達目標」

- | | |
|---|----|
| <ul style="list-style-type: none">・大学の理念や特性を理解し、そのなかで自らが学ぶ方向性や将来を考える。・大学での学び方（学習スキル）を身につける。・大学で学ぶこと（所属すること）の意義を見出す。・大学における学習意欲を高める。・大学のある地域の理解を広め互いに議論できるようになる。 | など |
|---|----|

これら授業類型の第一義的な位置づけは、自校教育それ自体よりも、むしろ初年次導入教育としての「大学適応教育」にある。よって「到達目標」も、「大学の理念や特性を理解し、そのなかで自らが学ぶ方向性や将来を考える」などといった「大学で学ぶ指針を見いだすこと」や、「大学での学び方（学習スキル）を身につけること」に主眼がおかれる。

シラバスに掲載された到達目標を、主に自校教育内容に関連して確認すれば、『大学で何を学ぶことができるのかを理解できる』、『人生における現在の学びの位置付け等について考えることができる』、『留学・就職・進学・ボランティア活動などについての知識を身につけ、大学4年間(6年間)の過ごし方やその後の将来のあり方を自ら設計できる』、『様々な学問分野に関心を持ち、自己の将来像を描きながら学習できる』など、自学の特性や現況理解を通じた「大学での学習指針の形成」や「学習意欲の形成」を記載している。

以下、シラバスに記載されていた具体的事例を紹介する。

京都繊維工芸大学（「KIT 入門」）

（2008 年度開講科目：授業目的）

新入生が自信と誇りをもって本学で学んでいくために、まず本学の歴史や組織、本学が展開している研究の概要、カリキュラムの設計指針や学生支援策等の情報を本学の理念に則して講述する。さらに、本学の教育目標である国際的に活躍できる高度専門技術者について、将来めざすべき人物像を学生個人が形成できるように、また卒業後の進路をより明確にできるように、専門分野ごとの近年の動向を具体的な事例や経験を踏まえて伝達する。

長崎大学（【教養特別講義】）

- ・特別講演により、長崎大学の理念に触れ、ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。
- ・講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。
- ・被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。
- ・地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。
- ・さらに、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。
- ・アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。

③ 初年次教育授業における「自校教育」内容の構成

「初年次教育」類型授業の内容構成要素

この授業類型では、授業計画全体を通じて「初年次導入教育」を展開する。その授業計画にあって、導入の1～3回授業時に大学の理念や沿革に関する「自校教育」を実施する場合が多い。

「初年次教育」類型授業計画では、大学への適応能力や学習スキルの取得を目的とした内容項目を重視して配置する。これら大学での学習や生活に関わる諸項目に関する教育そのものを「独自の自校教育」として位置づけていることも多い。（健康・安全教育、キャリア教育、人権教育、地域論、問題解決学習、卒業生の講話など）

1	授業ガイダンス
2	大学ガイダンス（大学の学び・履修指導）
3	大学の理念・歴史
4	健康・安全教育
5	図書館・情報システムの利用法
6	大学生活について
7	学習スキル習得教育
8	専門教育導入教育
9	キャリア教育、進路指導
10	平和・環境・人権・ハラスメント防止教育
11	地域論
12	グループによる問題解決学習
13	学長・学部長講話
14	特別講演

また、「建学の精神」や「大学の理念・教育目標」、「地域特性」と密接に関係する「環境」「共生」「平和」「地域」などの主題（テーマ）を授業で取り上げ、これを通じて大学の目的を周知したり、大学の教育目標と関わった学習の動機付けを図るケースも多く見られる。

④ 「初年次教育」 類型授業における成績評価

アンケート回答で回答比率の高かった「初年次教育」類型授業の成績評価方法は以下のものである。

初年次教育類型授業（回答 29 授業）

「レポート（23 授業：79%）」、 「出席状況（22 授業：76%）」、 「毎授業時の感想文、作文、コメントカード（11 授業：38%）」 「試験（9 授業：31%）」
--

この他、「発表・口頭報告（7 授業、24%）」、「学習参加状況（4 授業 14%）」、「ポートフォリオ（2 授業 7%）」も回答にあった。

「初年次教育」類型授業では、その「到達目標」において「大学での学習指針の形成」や「大学適応」、あるいは「学習スキルの形成」に主眼が置かれる。これに応じて、成績評価でも平素の授業内容を反映しての「関心・意欲・態度」を評価する傾向にある。

(3) 大学史（自校史）教育類型

① 「大学史（自校史）教育」 類型授業における授業実施目的

この類型授業は自学の歴史的変遷の理解を主題とする。

アンケートで回答比率の高かった「大学史（自校史）」類型授業の成績評価方法は以下のものである。

授業実施目的として、アンケート（回答 17 授業）で回答率が高かった項目

「自校史・沿革の理解（16 授業：94%）」、 「大学への帰属意識の涵養（11 授業：65%）」、 「自学の理念・使命・目的の周知（9 授業 53%）」、 「愛校心の涵養（8 授業：47%）」

授業実施目的についてのアンケート結果（回答 17 授業）では、「自校史・沿革の理解（16 授業：94%）」が最も高い回答比率であり、「大学への帰属意識の涵養（11 授業：65%）」、「自学の理念・使命・目的の周知（9 授業 53%）」、「愛校心の涵養（8 授業：47%）」、「自学の現況の理解（7 授業：41%）」の回答比率も高い。

この類型授業では、自校史の認識によって学生は「大学で学ぶ意味」を見出し、これが大学生活の適応や学習の動機付け、さらには大学構成員としての自覚形成促進という効果も期待している。

② シラバスに記載された「到達目標」の記載事例

「大学史（自校史）教育」類型に多くみられる「到達目標」

- ・ 自学の目的・理念・使命を理解し、これを説明できる。
- ・ 自校の歴史・沿革を理解し、これを説明できる。
- ・ 大学のある地域について、広い基礎知識を得ることができる。
- ・ 大学や大学のある地域に誇り・愛着を身につけることができる。
- ・ 地域に根ざした大学生としての自覚ある行動を身につけることができる。
- ・ 自らが学ぶ方向性や将来を考える指針を形成する。
- ・ 大学で学ぶこと（所属すること）の意義を見出す。

など

シラバスに提示された「到達目標」には『大学の歴史・沿革について概略を説明できる』といった記載がなにより多い。

「大学史（自校史）」教育類型授業では、自学沿革の理解を何より重視する。しかし、この類型授業は初年次教育として位置づけられていることも多く、その到達目標は「知識としての自校史理解」にとどまるものではない。むしろ、自校史にふれることで『大学について広い基礎知識を得ることができる』、『各自の将来像を念頭におきながら、常に自己の学生生活を対象化して考えられる』など大学理解や学生生活設計に関する到達目標を設定し、『地域や大学に対する誇り・愛着が涵養されることにより、地域に根ざした大学生としての自覚ある行動を身につけることができる』といった大学構成員としてのアイデンティティ形成を到達目標とする授業もあった。

以下、シラバスに記載されていた「到達目標」の具体的事例を紹介する。

北海道大学：（「北海道大学の歴史」）

- 1) 『北大の125年』を分担して要約報告し、それをもとに議論することにより、北海道大学の歴史と現在を学ぶ。また関心を有するテーマについて、グループにより調査し発表することで理解を深める。それらを通じて、以下のような学習方法、思考方法を修得する。
- 2) 北海道大学がこれまで行ってきた『北大百年史』等の大学史編纂があることを知り、それらから学ぶことが多いことを理解する。その際、これまでの大学史が引用してきた史料などを読み、研究成果を学ぶとともに、未解明の論点も多いことを理解する。
- 3) 自らが体験してきたこと、実際に施設や史料などを見ることを導入として、現在を歴史的現在としてとらえられるようにする。当然のことのように感じていることも実は歴史的に形成されてきていることであること、北海道大学の歴史は広く政治、経済、社会、科学等の動きと連動していることを理解する。

島根大学：（「島大ミュージアム学」）

1. 島根県・島根大学について、広い基礎知識を得ることができるようになります。（知識）
2. 島根県・島根大学に対する誇り・愛着が涵養されることにより、地域に根ざした島根大学生としての自覚ある行動を身につけることができますようになります。

③ 「大学史（自校史）教育」類型授業の内容・構成

この授業類型では、自学の沿革を通史的に展開する。

私立大学では、「建学の精神」や「設立理念」ふまえた大学（学園）設立の経緯を重要視する。

国立大学の場合は、戦前期は前身校それぞれの沿革を、戦後は新制大学としての発足とその後の発展を授業内容として展開するが多い。

明治期からの歴史をもつ大学は、大正期の大学令公布による「大学昇格」の経緯は、授業内容上の重要箇所として位置づけている。

戦時下の大学については、当時の大学や学生の苦悩などが語られ、「平和」の意味を考えさせる契機とする取り組みもある。また、自学の戦争協力について「直視」しようとする授業もある。

戦後の大学史では、高度経済成長期における大学拡張、学園紛争等も積極的に取り扱っている。キャンパスの移転があった場合は、大学発展の「メルクマール（象徴的指標）」としても取り扱われる。

少子高齢化、情報化、グローバル化という時代状況にあって、「大学（自学）は何を目指しているのか、そしてここに学ぶ学生達に何を期待しているか」で締めくくられることが多い。

※ 通史的展開による授業内容構成が多い「大学史（自校史）教育」類型授業であるが、いくつかの大学では、これまでの教育実践や授業アンケート結果をふまえ、歴史的な「テーマ（トピック）」を取り上げ、これを掘り下げていく取り組みもみられるようになった。

「大学史（自校史）教育」類型授業の内容構成要素

1	授業ガイダンス
2	前身校の建学（学園の開設）
3	戦前期の高等教育制度
4	大学の設立・昇格
5	戦時期の大学（学園）
6	大学に関わる人物
7	戦後教育改革と新制大学の発足
8	高度経済成長と大学（大学の拡大）
9	大学紛争
10	キャンパスの移転・発展
11	学生とその生活
12	地域と大学
13	卒業生の講演
14	大学の現況と将来像

④ 「大学史（自校史）教育」類型授業における成績評価

成績評価方法としてアンケートで高い回答率を示したのは以下方途である。（回答17授業）

「レポート（13授業：76%）」
 「出席状況（8授業：47%）」
 「毎授業時の感想文、作文、コメントカード（8授業：47%）」
 「試験（6授業、35%）」

「大学史教育」類型授業では、その「到達目標」の多くにおいて「自学の目的・理念・使命を理解し、これを説明できる。」「自校の歴史・沿革を理解し、これを説明できる。」と示されている。

これを学習成果として判定するうえで「大学史」の知識修得を判断する「試験」を採用する場合が多くなるが、それでも回答があった授業うちの35%程度である。

むしろ自校教育授業の「到達目標」としては共通的傾向といえる「大学での学習指針の形成」や「大学で学ぶこと（所属すること）の意義の気づき」等を学習成果として求め、成績評価の方途でも「レポート」、「出席状況」、「毎授業時の感想文、作文、コメントカード」なども多く採用される。

2 自校教育授業終了時における学生の感想

授業終了時の学生の感想をアンケート調査の回答、訪問調査時の提供資料、及び筆者（大川）の授業実践でのレスポンスカードから紹介する。

自校教育授業に対し、学生の感想として、全体的傾向として

「自学や自学の歴史を知ることで、大学への誇りを持つことができた」
「大学で何ができるのか、何をすべきか、という指針が見えてきた」

というメッセージが多くみられる。

自校教育授業の実践にあたっては、各大学・担当者とも、いたずらに「大学礼賛」をするのではなく、大学が直面した様々な課題を学生に提示したり、今後将来のあり方をともに考えていこうとする姿勢を打ち出している。

この授業を通じ、大学の主人公は学生であり、その学生の力によって大学も作られるというメッセージが与えられるならば、学生もそれを敏感に受け入れるようである。

福岡大学：（「福岡大学を学ぶ」） （アンケート回答「学生の授業評価コメント」より）

- ・この授業を受け、福岡大学の歴史や研究の実績に触れることで、大学に対してより誇りが持てるようになり好きになった。
- ・この授業を受けることにより、大学生とはどのような存在で自分がどうすればいいかわかった。

大分大学：（「大分大学の人と学問」） （アンケート回答「学生の授業評価コメント」より）

- ・普通、外部の人に講義をしてもらおうと手抜きっぽさがでてしまうのに全くそういったことを感じなかった。
- ・先生が一生懸命取り組んでいるのが分かった。
- ・意見や質問できる場が多かった。（グループワーク）。
- ・考えることが多くて疲れた。

佛教大学：（「佛教大学の理念と歴史A」） （アンケート回答「学生の授業評価コメント」より）

- ・人として生きる道が理解できた。
- ・大学の長い歴史の理解と、大学に誇りをもって友人に話ができる。
- ・著名な先輩がいることを知った。

帯広畜産大学：（「全学農畜産実習」） （アンケート回答「学生の授業評価コメント」より）

- ・これこそまさに畜大！！というような非常に有意義な授業だったと思います。
- ・全学農畜産実習は大変面白かった。ジャガイモなどの作物や豚や牛などの動物を世話できたことが自分を成長させてくれたように思う。農学や畜産の楽しさがわかった。
- ・実習を通して、実際に「見て、触れて、体験できる」ことは本当に大事なことで強く感じました。自分の考えが正されたことも多々あり、また新しい知識も得ることができて、とてもやりがいのあった授業でした。

島根大学：（「島根大学ミュージアム学」）（アンケート回答で「学生の授業評価コメント」より）

・島根大学に誇りを感じた。

熊本大学：（「五高と近代日本」）（アンケート回答における「学生の反応についての自由記述」より）

授業アンケートなどからは、学生たちは概ね満足しているようである。特に、戦前の旧教育制度と戦後の新教育制度の違いなどが分からず、熊本大学と前身の第五高等学校、熊本高等工業学校、同薬学専門学校、熊本医科大学、との関係がわかったことなどは、非常に満足している様子です。最近の学生諸君は、旧制高等学校といっても大半は、分からないようです。しかし、旧制の五高が非常に優秀な学生の集団で、そこから非常に立派な政治家や文学者などが輩出し、漱石やラフカディオ・ハーンなどが教えていた学校だと知ると、非常に興味を覚えるようです。

岩手大学：（「大学の歴史と現在」）（授業「レスポンスカード」より）

近年は何かを学ぶという意味を持って大学へ進学するのではなく、偏差値で大学を選ぶという傾向が強くなってきているように思われる。実際、自分も明確な意思を持たず、センター試験の点数だけで岩手大学への進学を決定してしまった。そのため今自分が何を目標しているのかが分からなく、将来のことを考えて不安になることがよくある。これでは自分は世に貢献できるような人材になれるとは思えない。なので、これから様々な人の様々な意見を取り入れて様々な考え方をもち、自分のやりたいことや研究したいことを見つけ、大学で多くのことを学んでいくことができれば良いと思う。

私は今まで大学ができた経緯について全く知らなかった。しかし、岩手大学の農学部は非常に歴史があり優秀であることは噂で聞いていた。今回の講義で初めて、自分がいる岩手大学が実業専門学校発足時に盛岡高等農林学校だったということを知った。岩手大学は有名私立大学にはない、素晴らしい伝統（農学部）を持っていることや高度専門職業人材（エリート）を輩出してきたという実績があり、それが脈々と現在に受け継がれていることに感銘を受けた。また、日本の大学の基盤を作り出した森有礼を始め、様々な人物が大学発展に尽力したことを知り、偉人たちの努力を無駄にせず、自分も今までよりさらに勉学に励み、「高度専門職業人材」になれるように頑張りたいと思った。

まとめ（今後の課題として）

自校教育授業についても具体的到達目標の設定が進んでいる。さらに今後は、これら到達目標と教育内容構成の整合性確認、到達目標に応じた学習成果検証や成績評価の工夫、教育プログラム全体の中での自校教育の位置づけの再検証も必要となろう。

何を授業目的として、どこに到達目標を設定し、いかなる方法と内容で授業を展開し、その成果をどう検証するか。

教育の質保証を進める上で、自校教育授業にあっても、これら課題に取り組みねばならない。

Ⅲ 認証評価結果にみる「成果」としての自校教育

(大学評価への活用)

はじめに（「認証評価」と「自校教育」）

学校教育法は、大学、短大、高等専門学校に対し 2004（平成 16）年度以降、文部科学省の認証を受けた評価機関による大学評価（大学機関別認証評価）を受けることを義務づけている。

いずれの認証評価機関（大学評価・学位授与機構、大学基準協会、日本高等教育評価機構）の「大学（評価）基準」も、各大学の理念や目的を明確に示すよう求めている。ここでいう「大学の目的」とは、各大学の個性や特色を明示するものであり、大学の使命、教育研究活動の基本的な方針をはじめ、養成しようとする人材像など「大学が達成しようとしている基本的な成果」等にも言及していなければならない。各大学での自己点検・自己評価や各評価機構による評価はそれぞれの「大学目的」に照らして行われる。

こうした基本的考えをふまえ、さらに「大学（評価）基準」では、「大学の目的」あるいは「情報公開及び説明責任」といった「評価基準」の項において、「大学及び大学を構成している学部・研究科等の目的が社会に対して公表され、構成員に周知されていること」を求めている。

これにあたり、「自校教育」の実施は大学の構成員、なかでも学生に対して自学建学の精神や教育目的の周知に向けた有効な取り組みとして「自己評価」しうるものとなる。各評価機関も「自校教育」の実践については、積極的に「評価」をしている。

本章では、平成 16（2004）年度から平成 22（2010）年度の間に実施された 3 認証評価機関の「評価結果」において、自校教育に言及した箇所を紹介する。このことにより、各大学の自校教育の取り組みとあわせ、その「評価への活用」状況を確認する（ただし平成 21 年度は、現段階において公表されている日本高等教育評価機構のみとする）。

1 自校教育の実施による「大学目的の周知」に関する評価

(1) 大学評価・学位授与機構による評価結果

大学評価・学位授与機構の「大学評価基準」では、「大学の目的」周知に関する評価基準を下記のように設定している。

「基準 1 大学の目的」

2-① 「目的が、大学の構成員に周知されているとともに、社会に公表されていること。」

（大学評価・学位授与機構による上記基準は、平成 22 年度実施段階で示されている基準表記である）

この基準 1 観点 2-①に関して各大学から自校教育の取り組みが報告された場合、大学評価・学位授与機構はこれに着目している。（「Ⅱ 基準ごとの評価」基準 1-2-①「評価結果の根拠・理由」の箇所）

以下、これらに該当する各大学への評価結果を紹介する。自校教育の取り組みについて、それが特に「優れた点」として別途評価されている場合は、あわせてその評価コメントも提示する。

「北海道大学」に対する評価結果の根拠・理由（1-2-①）（平成21年度実施）

全学教育として、新入生に当該大学の学生としての自覚を持たせ、学問への意欲を高めるため、4つの基本理念と教育目標、設立の経緯、発展の過程、現状等を解説する特別講義「北海道大学の人と学問」を毎年開講し、総長が歴史を担当している。なお、このシラバスもウェブサイト上で公開している。

「北九州市立大学」に対する評価結果の根拠・理由（1-2-①）（平成21年度実施）

学生に対する周知は、入学時に配付される学生便覧への掲載、学長及び理事長が担当する基盤教育科目「大学論・学問論」での講義により行われている。

○「基準1」に関する「優れた点」

学長及び理事長が担当する基盤教育科目「大学論・学問論」において、大学の目的等を講義している。

「大阪教育大学」に対する評価結果の根拠・理由（1-2-①）（平成19年度実施）

教員養成課程、教養学科学生に対しては、教養基礎科目「特別授業—大阪教育大学の歴史と使命—」を開講し、学長が講師となり、当該大学の歴史と使命等を講義している。

○「基準1」に関する「優れた点」

当該大学の目的及び歴史、使命を直接教職員や学生に対して伝える取組の一つとして、教養基礎科目「特別授業—大阪教育大学の歴史と使命—」を開講し、学長が担当している。

「名古屋大学」に対する評価結果の根拠・理由（1-2-①）（平成19年度実施）

- ・入学式及び新入生ガイダンスで大学の基本理念を説明しているほか、全学教養科目「名大の歴史をたどる」において、運営の基本姿勢について総長が講義を行っている。
- ・新入生調査を実施し、学生が、各学部・研究科の教育目標を理解したか確認しており、平成19年度では、全体として90%以上がおおむね理解したとの調査結果が得られている。

「長崎大学」に対する評価結果の根拠・理由（1-2-①）（平成19年度実施）

新任教員FD研修会や新入生に対する「教養特別講義」では、学長が自ら説明するなど大学の目的の周知徹底に努めている。

「秋田大学」に対する評価結果の根拠・理由（1-2-①）（平成18年度実施）

大学の目的は、大学概要、大学ウェブサイト、『秋田大学広報誌アプリーレ』、『キャンパスライフ』、『秋田大学論Ⅰ、Ⅱ』等を活用し、大学の構成員に公表・周知している。

○「基準1」に関する「優れた点」

教養教育科目として『秋田大学論Ⅰ、Ⅱ』を開設することにより、学生が大学の目的、特性、現況、将来像についての理解を深め、学生に大学の目的の周知を図り、かつ秋田大学での主体的学習を促進している。

徳島大学に対する評価結果の根拠・理由（1-2-①）（平成18年度実施）

全学共通教育の授業で各学部・学科対応導入教育として「大学入門講座」を必修科目として開講し、大学・学部等の目的の周知に努めている。

○「基準1」に関する「優れた点」

大学の目的を学生に周知させるため、オリエンテーションやガイダンスのほかに、導入教育として「大学入門講座」を必修科目として開講している。

（2） 大学基準協会による評価結果

大学基準協会の「大学基準」では、「大学の理念・目的」に関わる評価基準が下記のように設定され、これに対する各大学の取り組みへの評価が行われている。

基準 [理念・目的]

- 1 大学は、それぞれの理念に基づき適切な目的を設定しなければならない。

（大学基準協会による上記基準は、平成22年度実施段階で示されている表記である）

大学基準協会は、この基準1【理念・目的】に関する「大学評価結果」において、各大学の自校教育の取り組みに言及している。以下、これらに関する評価結果を紹介する。

Ⅱ 総評 ー 理念・目的の達成への全学的な姿勢

「京都産業大学」への評価結果（平成21年度実施）

教育課程では、共通教育科目「大学の歴史と京都産業大学」を開設するほか、キャリア形成支援教育により「根幹的实力養成」を図るなど、教育目標、人材育成目標を達成するための取り組みが行われている。

「獨協大学」への評価結果（平成19年度実施）

全学共通科目の中に「獨協学」を設け、シラバス等を通じてそれぞれの学問分野や専攻領域の特性を明確にし、学生に対して大学の精神の周知や人材養成の明示を図っている。

同志社大学への評価結果（平成 18 年度実施）

貴大学の建学の精神は、1875（明治 8）年の同志社英学校創立時より「良心教育」の実現としている。この建学の精神のもと、教育理念には「キリスト教主義」、「自由主義」、「国際主義」の 3 つが掲げられている。こうした建学の歴史と精神は、きめ細かな導入教育や、「同志社科目」によって学生に周知している。また、宗教・倫理教育科目を設け、貴大学の特徴を生かした人格教育も行っている。

Ⅱ 総評 三 長所の伸張と問題点の改善に向けての取り組み 2 教育内容・方法

北里大学への評価結果（平成 21 年度実施）

学祖の考え、業績をとおして大学の理念を学ぶ「北里の世界」という授業も選択科目で設けられている。

天理大学への評価結果（平成 20 年度実施）

建学の精神の具現化をさらに推進するために「十年ひとふし委員会」を発足させ「自校教育」を唱え、80 周年記念事業の一環として開館した「創設者記念館」や刊行物『天理大学 80 年の軌跡 1925▶2005』を自校史教育のテキストとして活用し、絶えず創設の原点に立ち返りながら、独自の建学の精神を実践する教育プログラムを検討しようとする姿勢は今後も続けられたい。

（3） 日本高等教育評価学会による評価結果

日本高等教育評価機構の「大学評価基準」では、「建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的」に関わる評価基準が下記のように設定され、これに対する各大学の取り組みへの評価が行われている。

大学評価基準

基準 1. 建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的

（領域）：教育の理念・目的・目標、大学の個性、特色等

1-2. 大学の使命・目的が明確に定められ、かつ学内外に周知されていること。

（日本高等教育評価機構による上記基準は、平成 22 年度実施段階で示されている表記である）

日本高等教育評価機構は、この基準 1 に関する各大学に対する「大学評価結果」において、自校教育の取り組みに言及している。以下、これらに関する各大学への評価結果を紹介する。

「広島工業大学」への評価結果（平成 21 年度実施）

大学の建学の精神、基本理念、使命目的などは、学内的には「自校教育論」で理事長・総長以下学園のスタッフなどが講義を行うとともに、学則、学生便覧、「教員のしおり」「Data Book」などに記載し、学外的にはホームページ「学園案内 TSURUGAKUEN」などの各種広報手段を通して、学内外に周知する努力が図られている。

多様化した学生の資質や能力に対応するための「基本学習トラック」及び「発展学習トラック」の制度、個々の科目について学科の学習・教育目標との対応を具体的に明示したシラバス、放送大学や「教育ネットワーク中国」の単位互換制度の導入、「動機付け学習」や「体験型学習」など学生の学習を支援する教育方法の導入に加え、建学の精神や教育目的を学生に理解させる「自校教育論」を開講するなどの実績がある。

「芦屋大学」への評価結果（平成21年度実施）

初年次教育（「基礎演習」）の時間に「自校教育」を行い、将来的には基礎教養科目に「自校教育」を設定することを検討している。

「長崎ウエスレヤン大学」への評価結果（平成20年度実施）

法人の建学の精神を「敬天愛人（神を敬う心は、人を敬う心を厚くする）」として、大学の基本理念を隣人愛に生きる「アデルフォス（兄弟姉妹）」の育成として掲げており、「現代社会とキリスト教Ⅰ・Ⅱ」「建学の理念と歴史」などに建学の精神・大学の基本理念を学ぶ必修科目を配当している。

2 「初年次教育科目」で実施する自校教育への認証評価結果

自校教育は、各大学の特性や教育課程に応じて多様な実践がなされている。なかでも「初年次導入教育」科目の授業計画中に、大学の建学精神や大学沿革などを学生に伝えようとする取り組みが多く行われている。「認証評価」においても、これらの取り組みについて着目・評価している。

このことからすれば、初年次教育授業に組み込んだ自校教育は、大学の理念・目的の周知に有効であり、また学生が大学の所属意識を高めることにも一定の成果をあげているといえよう。

以下、「初年次導入教育」科目に自校教育を組み込んだ取り組みに対する各認証評価機関の評価結果を一覧表にする。

【評価機関の略称：大学評価・学位授与機構（NIAD）、大学基準協会（JUAA）、日本高等教育評価機構（JIHEE）】

評価年度	大学	評価機関	評価結果の根拠・理由
21	桜花学園大学	JIHEE	基本理念や目的は、入学式などの理事長挨拶、学長告示、必修科目「基礎演習Ⅰ」などで学生に、辞令交付式で新採用教職員に周知されるとともに、学園報や大学のホームページ、大学案内などで学内外に示されている。
21	梅花女子大学	JIHEE	これらの建学の精神や大学の使命・目的を1・年次生の必修科目である「キリスト教学」や「BAIKA セミナー」などを通じて学生に周知徹底させている。
20	神奈川県立保健福祉大学	NIAD	「ヒューマンサービス論Ⅰ」を1年次、「ヒューマンサービス論Ⅱ」を4年次に必修科目として開講し、学長以下、学部長、各学科長が中心となって当該科目を担当し、大学の目的・理念を学生に周知させており、（後略）
20	大谷大学	JUAA	建学の理念を伝える科目（「人間学」）、大学導入科目（「学びの発見」）、学科導入科目（「専門の技法」）が体系的に配置され、学生の入学時から専門分野への学習の移行によく配慮されている。
19	旭川医科大学	NIAD	医学科では「社会医学基礎Ⅰ」、看護学科では「人間科学Ⅱ」において、学長自らが講義を行い、大学の目的、現況等を説明しており、医師像、医学研究者像、看護師・保健師・助産師像を模索している学生に、大学の目的を知る場を提供している。

19	聖学院大学	JUAA	大学の理念・目的を広く浸透させるために、キリスト教関係の必修・選択必修科目を設置し、「フレッシュマン・オリエンテーション」、「アッセンブリアワー」、「リトリート」が行われている点、また、キリスト教センターや「大学・学部チャプレン」を擁している点は評価できる。
19	岐阜女子大学	JIHEE	学生に対する建学の精神の周知・徹底を図るため、全学生を対象とした必修科目「自己探求Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」が開講されており、理事長（教授）が中心となって教科を担当している点は高く評価できる。
19	仙台大学	JIHEE	新入生を対象とした基礎科目の「導入演習」などで、学園の沿革、建学の精神・基本理念、使命・目的に関する説明や訓話を行っている。
19	中部大学	JIHEE	特に、新入生に対しては合宿オリエンテーションや教養教育科目である「総合科目」内で理事長、総長、学長が講述されるなど、周知策が一貫して行われていることは非常に丁寧であり適切である。
19	麗澤大学	JIHEE	入学直後の導入教育としての外国語学部の「オリエンテーションキャンプ」と国際経済学部の「社会科学分析入門」は、創建者を知り、建学の精神を集中的に学ぶとともに、大学生活の基盤となる学習集団の形成を意図しているものであり、重要な役割を果たしているといえる。
18	徳島大学	NIAD	全学共通教育の授業で各学部・学科対応導入教育として「大学入門講座」を必修科目として開講し、大学・学部等の目的の周知に努めている。
18	四国大学	JUAA	カリキュラムを見ると、共通教養科目のなかに「人間論」などを必修科目として設置し、大学の理念の具現化を図るとともに、同じく共通教養科目の必修科目である「総合ゼミ」では、学生の興味関心に対応した少人数クラスにおいて、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の養成などを行い、大学教育への導入教育をきめ細かく行っている。
18	同志社大学	JUAA	全学共通科目として配置している「同志社科目」をとおり、建学の精神を伝えており、さらに、「宗教学」「倫理学」「キリスト教と人間」などの宗教・倫理教育科目を設け、大学の特徴を生かしながら、豊かな人間性と高い倫理観を持つ人材育成に配慮した教育を行っている点は評価できる。
18	日本女子体育大学	JIHEE	特色ある教育内容・方法などとして、教育理念及び育成すべき人材像を示した学園訓を生かすべく、建学の精神・教育理念を周知させる科目「人間科学入門」、社会で生きることを考えさせる科目「人生論」などを設けて、独自の教育の基礎としている。

3 自校教育に位置づける「大学理念実質化」授業

「認証評価」は、各大学の個性（建学の精神・大学の基本理念、使命・目的）を重視した評価を行う。これにあたっては、各大学の建学精神や基本理念、教育目的、養成しようとする人材像等に照らして整合性のある教育課程（プログラム）を構築・実施しているかが検証され、さらにその「学習成果（ラーニング・アウトカム）」が問われることになる。

こうしたこともふまえ、各大学では、自学の理念・モットーを「実質化」する教育プログラムや授業を工夫しており、これら自学理念実質化に関与する授業を「自校教育」と位置づける大学もある。

「大学理念実質化」を意図する授業では、授業名に自学の名称もつかず、授業内容に沿革史も組み込まれないことも多い。しかし、その授業では建学の精神や大学の教育目的が周知され、自学の理念と関わる価値意識や行動規範の涵養、及びそれらに伴う具体的実践活動等が行われる。

かくして展開される授業は「自校教育」の新しい形態とも考えられ、「認証評価」においてもその取り組みを積極的に評価している。

以下、これらに該当する認証評価機関の評価結果を一覧表にする。

【評価機関の略称：大学評価・学位授与機構（NIAD）、大学基準協会（JUAA）、日本高等教育評価機構（JIHEE）】

実施年度	大学	評価機関	評価結果の根拠・理由
21	北里大学	JUAA	学祖の考え、業績をととして大学の理念を学ぶ「北里の世界」という授業も選択科目で設けられている。
21	岐阜聖徳学園大学	JUAA	教養基礎科目は、建学の精神の理解と倫理性を培うという観点から「宗教学Ⅰ・Ⅱ」を必修としている。
21	共愛学園前橋国際大学	JUAA	2009（平成21）年度から導入した共愛コア科目は、大学の創立理念を具現化した教養科目という位置づけであるものといえる。
21	京都外国語大学	JUAA	建学の精神に基づいた科目「言語と平和Ⅰ・Ⅱ」を1年次の必修科目とすることで、現代世界の抱える問題に対する問題意識、課題設定能力と、各自のテーマの掘り下げに必要な文章作成能力、調査能力および発表能力などを総合的に養成することを目指している。
21	皇學館大学	JUAA	さまざまな大学行事や科目をととして建学の精神、目的を十分理解し、主体化できるように工夫されている。
21	順天堂大学	JUAA	【医学部】学是とする「仁」の精神を涵養するために倫理教育としての「医の人間学」や早期体験学習（アーリー・エクスポージャー）としての施設見学など、学士課程導入に向けた教育カリキュラムを実践している。
21	聖隷クリストファー大学	JUAA	建学の精神を具現化するため、教養基礎領域の中に「聖隷の精神とキリスト教」に区分される科目を必修にしている。
21	松蔭大学	JIHEE	建学の精神、大学の使命・目的は、印刷物やホームページに掲載するとともに、入学式、オリエンテーションにおいて説明し、カリキュラムの中に科目として「吉田松陰論」が設けられ、松陰教育の背景などについて積極的に勉学する機会が設けられている。また、学外において吉田松陰の足跡を辿りつつ、松陰の思想・人となりを訪ねる「松陰ウォーク」を実施し、建学の精神・教育理念の対外的浸透を積極的に展開している。
21	ノートルダム清心女子大学	JUAA	学生に幅広く深い教養および総合的判断力を培うことのできる能力を育成するよう、特に建学の精神に基づくキリスト教関係科目が、1年次・2年次の必修科目となっており、高い倫理観をもった人材を育成するよう配慮されている。
21	梅花女子大学	JIHEE	これらの建学の精神や大学の使命・目的を1年次生の必修科目である「キリスト教教学」や「BAIKA セミナー」などを通じて学生に周知徹底させている。

20	神奈川県立 保健福祉大学	NIAD	「ヒューマンサービス論Ⅰ」を1年次、「ヒューマンサービス論Ⅱ」を4年次に必修科目として開講し、学長以下、学部長、各学科長が中心となって当該科目を担当し、大学の目的・理念を学生に周知させており、
20	京都光華女子 大学	JUAA	建学の理念である仏教精神を教える全学必修科目「仏教の人間観」をはじめとする一般教養科目と外国語科目からなる全学共通教育科目は、科目や種類が多く幅広い領域にわたって編成されている。
20	天理大学	JUAA	「天理教科目」「伝道課程」、建学の精神の実践プログラムとして宿泊型の実習「森に生きる」など、建学の精神を体現する科目を用意しており、幅広い視野から物事を見ることができる人材を養成するという意図をよく理解できる教育課程となっている。
20	聖徳大学	JUAA	「聖徳教育」は、大学の理念である人間教育（女性教育）をめざして、人間性と論理性を養う教育としており、導入教育としては、各学科で必要な基礎学力向上のために入学直後に「基礎ゼミⅠ」を実施し、「基礎ゼミⅡ」（2年後期）は専門課程への橋渡しをしている。
20	十文字学園 女子大学	JIHEE	社会情報学部の「ジェンダー論Ⅰ」、人間生活学部の「女性学基礎」の授業の冒頭でも、設立者について学ぶこととしている。
19	旭川医科大学	NIAD	医学科では「社会医学基礎Ⅰ」、看護学科では「人間科学Ⅱ」において、学長自らが講義を行い、大学の目的、現況等を説明しており、医師像、医学研究者像、看護師・保健師・助産師像を模索している学生に、大学の目的を知る場を提供している。
19	聖学院大学	JUAA	大学の理念・目的を広く浸透させるために、キリスト教関係の必修・選択必修科目を設置し、「フレッシュマン・オリエンテーション」、「アッセンブリアワー」、「リトリート」が行われている点、また、キリスト教センターや「大学・学部チャプレン」を擁している点は評価できる。
19	岐阜女子大学	JIHEE	学生に対する建学の精神の周知・徹底を図るため、全学生を対象とした必修科目「自己探求Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」が開講されており、理事長（教授）が中心となって教科を担当している点は高く評価できる。
19	仙台大学	JIHEE	新入生を対象とした基礎科目の「導入演習」などで、学園の沿革、建学の精神・基本理念、使命・目的に関する説明や訓話を行っている。
19	中部大学	JIHEE	特に、新入生に対しては合宿オリエンテーションや教養教育科目である「総合科目」内で理事長、総長、学長が講述されるなど、周知策が一貫して行われていることは非常に丁寧であり適切である。
19	麗澤大学	JIHEE	入学直後の導入教育としての外国語学部の「オリエンテーションキャンプ」と国際経済学部の「社会科学分析入門」は、創建者を知り、建学の精神を集中的に学ぶとともに、大学生活の基盤となる学習集団の形成を意図しているものであり、重要な役割を果たしているといえる。
19	梅光学院大学	JIHEE	「キリスト教倫理」や「音楽」を必修科目とするなど、基本理念の在学生への浸透にも努めている。
18	愛知学院大学	JUAA	建学の精神を普及する仕組みとしては、全学部の学生に対する必修科目「宗教学Ⅰ・Ⅱ」や、希望者対象の「永平寺一泊参禅」を用意している。また、1980（昭和55）年に開設された坐禅堂が、前述の「宗教学」の授業で活用されていることは特筆すべきことである。さらに、学内のみならず社会に対しても、建学の理念に関連する仏教文化や禅的教養を公開講座等の取り組みを通じて周知させようとする努力は評価に値する。
18	四国大学	JUAA	全学部の共通教養科目として、必修である「総合ゼミ」4単位、「人間論（含大学論）」2単位、「教養英語」8単位、「教養国語」2単位の計16単位を含む30単位以上の取得を卒業要件としている。共通教養科目は、貴大学の理念の具現化をはかるものであると同時に、大学教育への導入、学力の十分でない学生に対するリメディアル教育、倫理観を培う教育なども行っており、貴大学のきめ細かな教育の一端として評価できる。
18	同志社大学	JUAA	全学共通科目として配置している「同志社科目」をとおし、建学の精神を伝えており、さらに、「宗教学」「倫理学」「キリスト教と人間」などの宗教・倫理教育科目を設け、大学の特徴を生かしながら、豊かな人間性と高い倫理観を持つ人材育成に配慮した教育を行っている点は評価できる。

18	駒澤大学	JUAA	建学の理念の伝達のひとつの手段として、全学部必修の教養科目として「仏教と人間」が置かれている。
18	南山大学	JUAA	建学理念に基づき「人間の尊厳」科目と宗教科目を全学生必修科目にしており、それらに対する学生評価が高いことから教育効果が顕著であると認められる。
18	龍谷大学	JUAA	建学の精神に深く関わる「仏教の思想」を必修科目とし、『大学案内』では卒業生の就職状況についてよくわかるように紹介されている。
18	日本女子体育大学	JIHEE	<ul style="list-style-type: none"> ・日本に初めて女子体育を導入し、その発展の基礎を築いた日本女子体育大学の創設者である二階堂トクヨの事績を大学図書館の常設コーナーに「二階堂トクヨ資料展示室」を設置するなどして学内に周知している。また、そこに基礎をおく「女子体育の研究」「女子の手による女子体育」「社会に貢献する女性指導者」という建学の精神・基本理念について、周年事業における記念行事・記念誌、入学式その他各種学内行事、大学案内・学生便覧・ホームページなどで広く学内外に周知している。特に、基本理念等の理解・浸透を図るために、女性体育指導者を育成するための科目を開講するなど、学生に対するきめ細かい取組みは他の範となる。 ・特色ある教育内容・方法などとして、教育理念及び育成すべき人材像を示した学園訓を生かすべく、建学の精神・教育理念を周知させる科目「人間科学入門」、社会で生きることを考えさせる科目「人生論」などを設けて、独自の教育の基礎としている。
18	武蔵野大学	JIHEE	建学の精神を「仏教精神による人格形成」とし、その理念は入学式の学長式辞や入学案内などの印刷物、モニュメント、掲示板などの伝統的な媒体によって学内外に適切に示されるとともに、全学部必修の「仏教概説」の履修、学外者向けの「日曜講演会」「連続公開講座」などの積極的方法を用いて理解を深め、周知を徹底するよう努めている。
17	大分県立看護科学大学	NIAD	年度当初に学長が新生生に対して、建学の精神、教育目標等が記載された「大学における教育方針」をもとに講義し、その際新任教員も聴講しており、大学の目的が大学の構成員に周知されていると判断する。
17	日本女子大学	JUAA	新生生を対象に開設されている「教養特別講義1」、創立記念式典と記念講演、成瀬記念館の見学、軽井沢三泉寮での1泊2日の合宿セミナーおよびその準備セミナーなどが、学長自らが総責任者となって運営されている。大学創立の意義とともに自己に与えられた社会的役割を自覚させ、将来への展望を考えさせるというプログラムは、貴大学での学修目的とその後の学修効果を高める上からも評価できる。
16	高野山大学	JUAA	貴大学の教育理念を具現化した「いのち・文化・創造」を涵養する授業として、「生命倫理」、「真言密教と日本文化」、「自主企画科目」を設けている。自主企画科目は、ボランティアや巡礼をテーマに、企画立案書を提出して体験学習を行なわせるという自由度の高い体験型科目としてユニークな授業である。また、建学の精神を理解させるための科目として、密教入門や空海の思想入門、人権と福祉を必修としている点は、教育理念達成のための具体的な試みとして評価できる。
16	清泉女子大学	JUAA	<p>建学の精神はキリスト教ヒューマニズムであり、「まことの知、まことの愛」をモットーとしている。</p> <p>理念に直結するカリキュラムとして、1年次に『人間論』、2・3年次に『キリスト教学』の計8単位を履修することが義務づけられ、「道徳的能力を展開させ」、「総合的な判断力を培い」、「豊かな人間性を涵養する」よう配慮されている。</p>

まとめ

自己点検・自己評価にあたり、各大学は自校教育の取り組みを「大学目的周知」「自学理解」の有効な方途として認識し、各評価機関も自校教育の実践について、積極的に「評価」をしている。

このことは自校教育の定着と、その取り組みの有効性や成果を確認する一つの指標ともなる。

参考資料

- (1) 大学教育学会「大学教育学会誌」第31巻（第1号）2009年、抜き刷り
「全国大学における自校教育の実施状況
—2008年度「自校教育実施状況調査」をふまえて—」
- (2) 日本高等教育学会 第12回大会 発表抄録
2009年5月24日、長崎大学
- (3) 大学教育学会 第31回大会 発表抄録
2009年6月7日、首都大学東京
- (4) 日本教育学会 第69回大会 発表抄録
2010年8月21日、広島大学

大学教育学会誌

第31卷 第1号 (通卷第59号)

2009年5月

抜 刷

全国大学における自校教育の実施状況

— 2008年度「自校教育実施状況調査」をふまえて —

大 川 一 毅
(岩手大学)

The Study of One's Own University Education in Japan

— According to a Survey of Japanese Universities, 2008 —

Kazuki Ohkawa
(Iwate University)

The universities which have adopted courses in the study of their own institution are increasing. The Central Council for Education report of December, 2008, referred to the role of this study as a first-year university experience. This research is aimed at determining how many universities offer a course about the study of own university. For this study, questionnaires were given to all 752 universities in Japan, including national, public and private universities and 373 universities replied. 196 courses were confirmed at 136 universities as a result of the analysis. They adopted a variety of aims, forms and contents according to each university's situation. Many different people often teach the courses. It is not uncommon to have a president, trustee or dean lead a lesson. Some courses are planned and administrated by university staff and alumni. The study or education of one's own university has many possibilities and is becoming a part of the academic foundation at many universities.

〔キーワード：自校教育，初年次教育，自校理解，自校史，学士力〕

導入実施や現状改善も視野に入れながら，大学における自校教育の実施現況について明らかにする。

はじめに

自校教育授業を導入実施する大学が増えている。かつては耳慣れぬ「自校教育」という言葉も，今や大学に浸透しつつある。自校教育の導入をさらに促しているのが，大学のユニバーサル化の進展である。各大学は，この状況を受けて初年次・導入教育を様々に工夫している。自校教育はこれらプログラムの一環としても着目されている。2008年12月に出された中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」でも，「初年次における教育の配慮」の中で，「大学に期待される取組」として適応教育や自校史の学習を例示した。

本稿では，こうした状況をふまえ，今後の自校教育の

1. 調査の実施

本稿は，「平成20年度科学研究費補助金 基盤研究(C)『大学における自校教育の導入・実施と大学評価への活用に関する研究』（研究代表者：大川一毅）」の一環として2008年8月に行ったアンケート調査結果を基礎とする。アンケートは，全国の国公私立すべての752大学(国立大学86校，公立大学75校，私立大学591校)に協力依頼して質問用紙を送付し，373大学より回答を得た(回収率49.6%，うち国立62大学：回収率72%，公立51大学：同68%，私立260大学：同44%)。アンケートの設問では，「自校教育授業の実施有無」，「自校教育授業の実施状況」，「自校教育授業の実施目的」，「自校教育授業の内容と方

法]、「自校教育授業の類型」、「学生による授業評価」、「同窓会組織との関係」、「対応課題・問題点」、「自由記述」を設定し、それぞれに回答選択肢及び自由記述欄を提示した。

調査にあたり、自校教育を「自校に関わる理念、沿革、特性、現状、課題、等を中心的な教育内容、教育題材として実施する授業科目」と大枠で定め、その具体的特定は各大学の判断に任せた。むしろ各大学が自校教育をいかにとらえ、授業として具体化しているかも視点とした。

2. 自校教育授業の実施状況

調査した全国752大学のうち、136大学が自校教育授業を「実施している」と回答した（大学総数の18%：未回答大学も母数を含む）。内訳は、国立33大学、公立10大学、私立93大学である。「検討中」と回答したのは33大学（国立2大学、公立4大学、私立27大学）であった。

回答からは196授業を確認した（国立54授業、公立18授業、私立124授業）。なお、回答授業のすべてが自校教育内容を毎時に展開しているわけではない。授業計画全体を自校に関わる内容で構成する「フルパック」型の自校教育授業は、「実施」と回答のあった196授業中59授業（30%）である。むしろ、自校教育に関する内容を初年次教育科目に一部織り込んで実施するケースが多かった。

3. 自校教育授業の配置

カリキュラム上での授業区分（配置）については、回答196授業にあって「全学共通科目」91授業、「教養科目」82授業、「初年次科目」35授業、「基礎科目」21授業、「専門教育科目」18授業、「オリエンテーション科目」6授業、「専門基礎科目」4授業、「その他」が16授業だった（複数回答可）。

履修指定は、「必修科目」が94授業（48%）、「選択科目」は81授業（41%）であった。「必修科目」授業は私立大学での比率が高く、また初年次導入教育科目に多かった。「フルパック」型59授業に限定していえば、「必修科目」が5授業（8%：すべて私立大学）、「選択必修科目」が11授業（19%）、「選択科目」が39授業（66%）と選択科目配置が多くなる。なお、「選択科目」を回答した私立大学の自由記述欄には「本来ならば入学者全員にある程度の自校教育を受けさせたいが、現状では不可能である。ファーストイヤーセミナー（全学共通の導入教育）の中に盛り込むことも検討していきたい」と記された。

4. 履修対象者と開講時期

履修対象者について（回答授業数196）、回答授業の

53%（103授業）が学士課程1年生に限定しており、一方、学士課程全学生の履修を認めるのは34%（66授業）であった。なお、8%（15授業）が1年生の履修を除外しており、それらの大半が専門教育領域の導入科目である。

自校教育授業を市民、保護者、高校生にも公開することは、自校の理念や沿革、事業計画、実態状況を明確に伝え、また生涯学習の場として同じ教室でともに学ぶことの緊張感と親睦感を伴う教育効果も期待できると考える大学もある。これらを試みている授業として、たとえば、大分大学「大分大学の人と学問」、熊本大学「五高と日本近代」、高大連携授業にも位置づけた福岡大学「福岡大学を学ぶ」などがあった。この他に、大学職員が聴講したり、あるいは職員研修に援用している授業もある。

授業の開講時期は、回答195授業中、「前期開講」が136授業、「後期開講」が67授業、「通年授業」が11授業で、前期開講が多い（複数回答可）。なお、後期開講の場合にあっても、前期と同一授業を開講するケースが39授業含まれている。

5. 自校教育授業の類型

(1) 類型別授業数

2005年度に国立大学を対象として実施した調査結果（大川、06）をふまえ、授業目的や授業内容をもとに自校教育授業を類型化した。アンケートでは、これら類型項目を提示して（図1）、各大学の授業がいずれに該当するかをたずねたところ、196回答中で最も多かった類型が「自校理解教育（61授業31%）」であった。「フルパック」型の自校教育授業（該当回答57授業）でも、「自校理解教育」の類型が最も多く（34授業：60%）、これに「大学史（自校史）教育（12授業：21%）」、「地域理解教育（3授業5%）」が続いた。

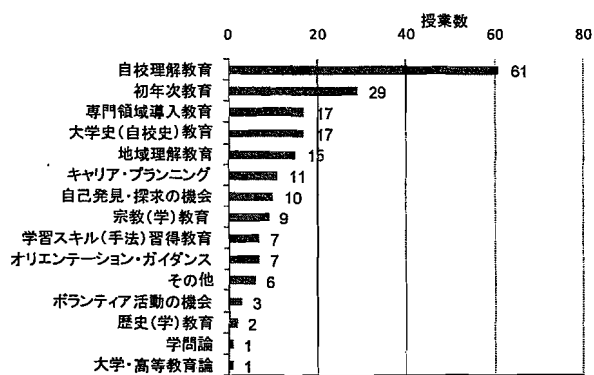


図1 「類型」毎の自校教育授業数 回答授業数196

(2) 主な授業類型の特徴

①「自校理解教育」類型

回答で最も多かったこの類型授業では、自校の理念、教育目的、沿革、現況など大学の諸様相の総合的な理解を導き、また、自校の教育理念に応じた体験学習を伴う場合もある。

この類型を回答した岐阜大学の授業「岐阜大学の教育研究と運営」のシラバスにはこう記されている。

「岐阜大学の5学部及び主要な附属研究センターの設置目標と、研究や教育における特色やトピックスなどを紹介し、本学における教育と研究像を提示する。さらに、本学が発信する地域と国際貢献の展望と実際のいくつかについても具体的事例で紹介する。この講義から、本学の学生として何を学んでゆくべきかについて考え、自らが将来の計画を創り上げるための基礎を確立して欲しい」。

②「初年次教育」類型

初年次導入教育に主眼が置かれており、ここでは学習スキルの習得やコミュニケーション能力育成などの内容と合わせ、自校教育が授業計画に織り込まれている。

金沢大学の授業「大学・社会生活論」について、回答には「1年前期全学必修のオムニバス授業で、学類ごとに15クラスに分け、ガイダンス的内容からキャリア教育・現代教養まで様々な内容をレクチャーする。そこには“大学の使命・学類の使命”といった典型的な“自校教育”がある一方、“人権論”“健康論”“環境論”“消費者問題”“薬物問題”など一般的には“自校教育”の範疇に入らないものもある。しかし、それをこの1年の必修授業で行うのは、本大学がこれらを重視しているということを学生に伝える目的があり、その意味でこれらも自校教育に入ると考える」と記されていた。

③「専門領域導入教育」類型

専門領域への導入基礎教育に、大学や学部の目的、教育・研究の特色を理解させる授業内容を組み込む。

帯広畜産大学が自校教育授業と回答した「全学農畜産実習」の自由記述では「食料基地北海道・道東に位置する本学の特徴を生かし、学部入学者全員に農畜産の実習を体験してもらうことで、学生に農畜産の幅広い知識と体験を提供し、専門教育ユニットの自主的な選択を支援する。また、約40人のクラス単位での実習参加を通じて、学生の間関係やコミュニケーションを確立することを目指した総合的な導入教育である」と紹介し、「これこそまさに畜産大！というような非常に有意義な授業だったと思います」と学生の授業評価コメントを付している。

④「大学史（自校史）教育」類型

自学の歴史の変遷についての理解と考察を主題とした授業を展開し、自校史を認識することで「大学で学ぶ」ということを学生に自覚させ、その後の大学生活の動機付けを与える効果も期待する。

広島大学の実施授業「広島大学の歴史」は「自校理解教育」類型を回答しているが、自校史教育についてこう記述している。「大学の歴史を題材としながら、大学の現状と課題について学生に理解させ、一人一人が本学構成員としての意識を高め、本学及び自身の未来を主体的に切り開く観点を持ってもらえるように特に留意して授業を展開している」。神戸大学の記述では、『神戸大学史』と『神戸大学の成り立ち』を実施している。前者が各分野の歴史学専門家が担当するのに対し（大学史教育類型）、後者は執行部が担当し（自校理解教育類型）、対照的な授業として提供する実践が行われている」と説明する。

また、立教大学「立教大学の歴史」「立教学院と戦争」や明治大学「日本近代史と明治大学」では、大学資料センターと密接に連携して自校史授業を企画・展開している。

⑤「地域理解教育」類型

大学が立地する地域を様々な視点から理解し、そこにおいて大学や卒業生が果たしてきた役割を学生に伝え、地域と大学、あるいは地域と自己との関係を考えていくことを主題とする。地域で活躍する人物や卒業生を講師として招聘する場合も多い。

この類型として回答した国立大学農学部実施の授業「地域に学ぶ」では、シラバスにこう記されている。「農業を学ぶことは、イコールその地域を学び、知ることといってもよいくらい密接に関連があるものです。みなさんは、縁あって、現在ここ〇〇に住むこととなりました。一見何もない田舎町、自然環境の厳しい冬暗い地域、などといった印象を受けがちですが、ちょっと見方やふれ方を変えれば、実に自然環境に恵まれ、伝統の色濃く残る、豊かで特色のある地域といえます。理解が深まれば、何故ここに農学部が設置されたのかを実感できると思います」。

(3) 設置別にみた授業類型

自校教育の類型を設置別にみるならば、国立、私立大学においては「自校理解教育」が最も多い類型である（国立22授業、私立38授業）。一方、公立大学で最も多いのは「地域理解教育」類型である（18授業中7授業）。地域ニーズへの対応を重視する公立大学では、自校教育も「地域理解をふまえた自学の理解」という文脈で展開される。なお、私立大学では9授業が「宗教（学）教育」類型を

表1 類型別にみた自校教育授業の事例（抜粋）

類型	設置	大学名	授業名
自校理解教育	国立	北海道大学	北海道大学の人と学問
	国立	北海道大学	北大エコキャンパスの自然と歴史
	国立	岩手大学	岩手大学論
	国立	岩手大学	岩手大学ミュージアム学
	国立	秋田大学	秋田大学論Ⅰ
	国立	一橋大学	一橋大学の歴史
	国立	岐阜大学	岐阜大学の教育研究と運営
	国立	神戸大学	神戸大学の成り立ち
	国立	広島大学	広島大学の歴史
	国立	熊本大学	五高と日本近代
	私立	駒澤大学	駒澤大学の歴史
	私立	成城大学	成城学Ⅱ〈成城学園と教育〉
	私立	大正大学	大学入門
	私立	明治大学	日本近代史と明治大学
	私立	明治学院大学	明治学院研究
	私立	立正大学	総合科目（建学の精神）
	私立	南山大学	人間の尊厳科目
	私立	京都産業大学	大学の歴史と京都産業大学
	私立	佛教大学	佛教大学の理念と歴史A
	私立	立命館大学	日本の近現代と立命館
	私立	甲南大学	甲南大学と平生夙三郎
	私立	広島工業大学	自校教育論
	私立	福岡大学	福岡大学を学ぶ
キャリア・プランニング	国立	岐阜大学	自分らしいキャリア設計
	国立	広島大学	広島大学のスペシャリスト
初年次教育	国立	高知大学	大学基礎論
	国立	金沢大学	大学・社会生活論
	公立	京都工芸繊維大学	KIT入門
	私立	金沢工業大学	修学基礎論
	私立	京都外国語大学	言語と平和
	大学史・ （自校史）教育	国立	北海道大学
国立		神戸大学	神戸大学史
国立		島根大学	島大ミュージアム学
公立		北九州市立大学	大学論・学問論
私立		國學院大学	社会の中の人間21（國學院大学史）
私立		学習院大学	近代日本と学習院
私立		東京経済大学	日本近代史における東京経済大学
私立		東京電機大学	東京電機大学で学ぶ
私立		立教大学	立教大学の歴史
私立	立教大学	立教学院と戦争	
歴史（学）教育	公立	長崎県立大学	シーボルトと現代社会
宗教（学）教育	私立	東北福祉大学	禅の心
	私立	佛教大学	「自校教育」（ブツダの教え）
オリエンテーション・ガイダンス	私立	日本文理大学	スタートアップ
地域理解教育	公立	横浜市立大学	横浜学事始
	私立	成城大学	成城学Ⅲ〈成城フィールド・スタディー〉
学習スキル（手法） 習得教育	国立	北海道大学	北大総合博物館で学ぼう！自然と人間
	国立	大分大学	大分大学の人と学問
	私立	東京電機大学	フレッシュマンセミナー
専門領域導入教育	国立	北海道大学	基礎乗船実習
	私立	高野山大学	空海の思想入門
	私立	福岡歯科大学	医・口腔医学概論
	私立	福岡女学院看護大学	建学の理念
自己発見・探求の機会	国立	秋田大学	秋田大学論Ⅱ（がんばれ秋大生）
	国立	島根大学	先輩に学ぶ島根大学のこころと形

注：

本表は、アンケート回答大学より大学名・授業名の公開許可を得た授業を抜粋提示したものである。実施されている自校教育授業のすべてではない。

回答した。ここでは、宗教教育授業の一環として自学の理念や建学の精神を伝えている。

複数の医療・福祉系大学・学部において「専門領域導入教育」類型による自校教育を展開していたことは、注目すべきかもしれない。同類型17授業のうち7授業がこれにあたる。ある医科系大学の自由記述では『医学入門』の最初の1コマで自校史を講義している。ここでは、将来医師をはじめとして医療職に進む初年次学生の入学直後に、学長自らが、本学の建学の精神と、創設時の創立者たちの医学教育・医療改革への信念を伝えることに意義を見出し、自校史と医学史における息吹と、さまざまな医学的諸問題を予め伝えることは、今後実施するキャリア教育、問題解決型少人数教育に大いに寄与すると思われる」と回答している。

なお、表1は、回答された自校教育授業を類型毎に一部抜粋例示したものである。

6. 授業の実施形態

自校教育196授業の回答中、140授業(71%)が講義形式である。「フルパック」型の授業では59授業中51授業(86%)と講義形式の比率がさらに高まる。なお「フルパック」型授業ながら、北海道大学「北大への招待」、大分大学「大分大学を探ろう」などは、毎時、学生参画型授業や問題解決型授業を展開する特色ある事例だ。大学施設を積極的・有効に活用する授業事例として、北海道大学「北大エコキャンパスの自然と歴史」は、大学校舎も含む大学環境全体を活用した実地教育を展開しており、また、北海道大学「北大総合博物館で学ぼう！自然と人間」や、岩手大学「岩手大学ミュージアム学」などは、自校の博物館を活用し、ここで自校史や大学から生まれた研究成果、地域の生活や自然環境などを学習する課題探求型授業である。

7. 授業担当者

(1) 担当者数と職位

自校教育授業は、「複数教員体制」が一般的である(回答196授業中160授業：82%)。1名の教員ですべてを担当する授業は36授業(18%)のみであり、このうちの16授業は「フルパック」型である。

授業担当者の職位で最も多いのが専任教員だが(回答196授業中159授業：81%、以下複数回答可)、これに次ぐのが学長(65授業：33%)である。理事長(24授業：12%)や大学役員(34授業：17%)、学部長(42授業：21%)が授業に関わっていることも多い。自校教育授業には学外講師(41授業：42%)や卒業生(20授業：10%)も招聘

され、各回のテーマに沿って、自らの知見や体験談、学生達への期待を語っている。

(2) コーディネーター

複数教員体制を取る場合が多い自校教育授業では、回答196授業のうち153授業(78%)で授業コーディネーターが存在する。コーディネーターの職務としては(選択項目回答、複数回答可)、「授業・授業計画の企画(回答151授業中139授業：92%)」、「教員・講師間の連絡調整(122授業：81%)」、「シラバスの作成(117授業：77%)」、「成績評定(94授業：62%)」、「授業実践(91授業：60%)」が多く行われている。コーディネーターの職務は多岐にわたり、この負担が授業運営上の課題になっていることも多い。

(3) 大学職員の関与

大学職員の授業関与をたずねた設問において、66授業(回答190授業：35%)で「関与している」と回答があった。ある国立大学の回答には、「職員が授業の企画・運営に直接たずさわることにより、教育や学生について、一層意識するようになり、また大学の構成員として教育的側面における責任自覚も深まる契機となっている」という記述があった。

職員の関与内容についての設問(選択項目回答、複数回答可)では、「授業施設の手配(回答65授業中36授業：55%)」、「学生の出席管理(28授業：43%)」、「教材の作成(24授業：37%)」、「毎時の授業補佐(22授業：34%)」などが上位回答であり、複数教員体制の補佐調整を託されている場合が多い。その一方で「授業実践(18授業：28%)」、「授業・授業計画の企画(17授業：26%)」など、専門職としての知見を授業に活かす取り組みも行われている。

8. 自校教育授業の実施目的

実施目的について、図2に示す項目を提示して選択回答(複数回答可)を求めた結果、回答総数196授業のうち134授業(68%)が「自学の理念・使命・目的の周知」をあげ、「自校史・沿革の理解」がこれに続いた(108授業：55%)。

設置別に見るならば、国立大学では「自校史・沿革の理解(回答54授業中28授業：52%)」と「自学の現況の理解(28授業：52%)」の回答が最も多く、これに「自学の理念・使命・目的の周知(25授業：46%)」、「大学における学習意欲の促進(24授業：44%)」、「大学への帰属意識の涵養(22授業：41%)」が上位回答として続く。公立大学では、「大学が立地する地域の理解(回答18授業中13授業：72%)」が最多で、「自学の理念・使命・目的の周知

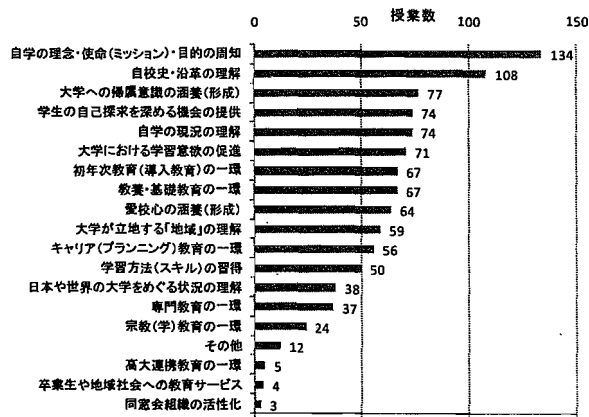


図2 自校教育授業の実施目的 回答授業数196

(12授業：67%)」、「専門教育の一環(11授業：61%)」の回答も多い。私立大学の回答で40%を超えたのは、「自学の理念・使命・目的の周知(回答124授業97授業：78%)」、「自校史・沿革の理解(76授業：61%)」、「大学への帰属意識の涵養(52授業：42%)」、「愛校心の涵養(51授業：41%)」である。

9. 自校教育授業で養う「学士力」

各大学では、自校教育授業を「学士力」の育成とどう対応させているのか。アンケートでは、図3にある「学士力」9項目を提示し、各自校教育授業の目標に、これら項目に該当するものがあるかをたずねた(複数回答可)。回答164授業において最も多かったのは「社会情勢や自然、文化の理解(106授業：65%)」である。これに続いて「倫理観(70授業：43%)」、「論理的思考能力(56授業：34%)」、「課題解決能力(56授業：34%)」、「チームワーク・リーダーシップ(52授業：32%)」であった。自校教育授業では、大学で育成しようとする人間像を学生に伝えていることや、初年次教育の成果期待がこれらの回答にも反映しているといえよう。

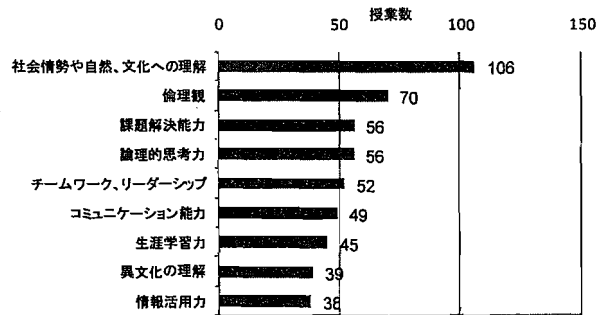


図3 自校教育で育てようとする「学士力」 回答授業数164

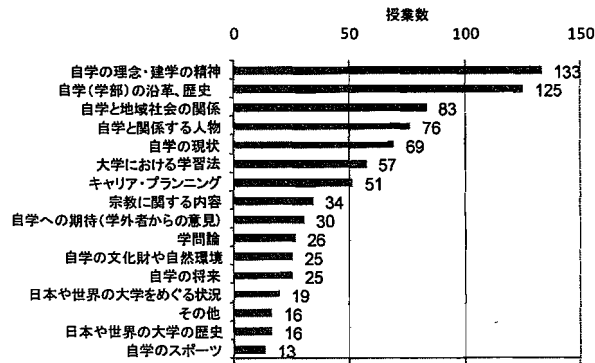


図4 自校教育授業の内容 回答授業数195

10. 自校教育授業の内容

図4は自校教育授業で扱う内容についての設問回答数である(回答授業数195。選択項目回答、複数回答可)。授業目的と同様に、内容でも「自学の理念・建学の精神(133授業：68%)」、「自学(学部)の沿革・歴史(125授業：64%)」が多い。

設置別に見れば、国立大学(回答授業数54)では、「自学(学部)の沿革・歴史(34授業：63%)」が最も多く、次いで「自学の現状(30授業：56%)」、「自学の理念・建学の精神(26授業：48%)」、「自学と地域社会の関係(25授業：46%)」と続く。

公立大学(回答授業数18)では、「自学と地域社会の関係(12授業：67%)」が多い。これに「自学の理念・建学の精神(8授業：44%)」、「キャリア・プランニング(7授業：39%)」が続き、「自学(学部)の沿革・歴史」は5授業(28%)でのみ扱われる。

私立大学(回答授業数123)では、「自学の理念・建学の精神(101授業：82%)」が最も多く、これに「自学(学部)の沿革・歴史(88授業：72%)」、「自学と関係する人物(64授業52%)」、「自学と地域社会の関係(48授業：39%)」と続く。また「宗教に関する内容(36授業：29%)」や、数的には多くはないが「自学のスポーツ(13授業：11%)」を織り込む授業があるのも特徴である。

11. 同窓会の関与

同窓会の組織的関与をたずねた設問では、回答189授業のうち17授業(9%)が「関与している」と回答した。その内容(選択項目回答、複数回答可)としては、「授業実践(11授業)」が最も多く、「授業の企画運営」がこれに続いた(6授業)。たとえば、一橋大学「一橋大学の歴史」の授業にあっては、同窓会組織如水会が、資料収集や調査研究も含め、授業の企画から運営にあって主導的役割を果たしている。また、同窓会が授業運営費を寄附

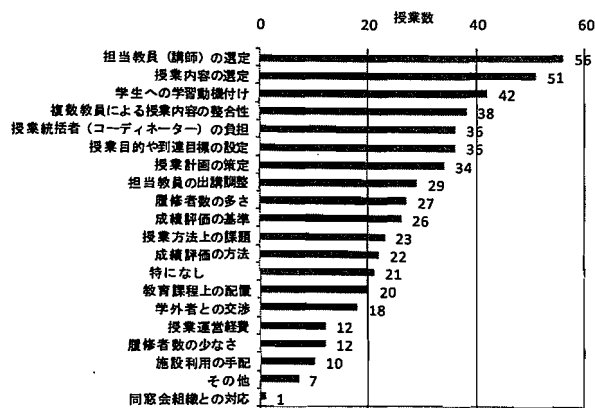


図5 自校教育授業実施にあたっての課題

回答授業数172

講座として支援する事例(6授業)もある。

12. 自校教育の課題

図5は「自校教育授業を実施する上で労力を要した課題」に対する回答結果である(選択項目回答, 回答授業数172, 複数回答可)。自校教育授業の多くが複数教員体制を採用し, これに起因する課題が上位に並んだ。

「担当教員の選定(56授業: 33%)」について, ある私立大学は「自校の歴史等を担当できる者が少なくなってきたり担当者の確保が難しい。2009年度をもっていったんカリキュラムから廃止の予定」と記述したことも留意したい。大学によっては教員の流動化が進み, また自学出身者が少ない場合もある。学外者の出講調整も難しい。退職教員に自校教育授業の任を託すことも検討されている。

「授業内容の整合性(38授業: 22%)」や「授業目的や到達目標の設定(35授業: 20%)」については, 自校教育授業を実施する上での重要課題である。ある国立大学の回答は「本学を卒業した方々へ講師を依頼して行うオムニバス形式での授業のため, 授業の内容については一定の方針を決めるだけで, 具体的な内容については担当する講師それぞれにお任せする格好となった。そのため, 講義全体のとりまとめが難しく, それぞれの講師が話す内容が似たようなものになってしまい, 学生からもその点についていくつか指摘があった」と記述した。何を授業目的として, どこに到達目標を設定し, いかなる方法と内容で, 誰が授業を展開するか。自校教育においても明確かつ具体的なプランなしには, 授業の質保証が困難

となる。自校教育授業を必修科目とする場合には, 大規模クラスでの授業実施, もしくは複数クラスによる並行授業を展開しなければならない。学生に同質の教育を提供する授業環境の整備や学生への学習動機付けも難しい課題であり, コーディネーターの責任や負担も重い。

結びに

自校教育授業は大学教育プログラムに定着してきた観もある。この授業について, 各大学のとらえ方や位置づけは様々で, 実施形態も多様である。むしろ, そうした多様性こそが自校教育の特色であり, 授業としての可能性を持つことになる。しかし, その多様性ゆえに, 担当教員の選定, 授業内容の構成や整合性, 成績評価の基準など, 実施上の課題も浮き上がってきた。いまや自校教育授業は, P(計画), D(実行)の段階から, C(評価), A(改善)の段階に局面も移行しつつある。自校教育授業については, 授業内容や方法の「成熟」をさらに進めながら, 授業評価や教育成果の検証も含め, 改善視点に立った考察も必要であろう。

参考文献

- 大川一毅, (2006), 「大学における自校教育の現況とその意義—全国国立大学実施状況調査をふまえて—」, 『秋田大学教養基礎教育研究年報』第8号, 秋田大学教育推進総合センター, pp11-21, <http://air.lib.akita-u.ac.jp/dspace/bitstream/10295/411/4/kiso8b.pdf>
- 寺崎昌男, (2008), 『大学は歴史の思想で変わる』, 東信堂, pp90-114
- 豊田雅幸, (2008), 「自校教育のもつ可能性」, 『大学教育フォーラム』第13号, 立教大学全学共通カリキュラムセンター, pp35-38
- 立教大学, (2006), 「自校教育の意義とその可能性を探る(特色ある大学教育支援プログラム採択記念シンポジウム筆録)」, 『大学教育フォーラム』第11号, 立教大学全学共通カリキュラムセンター, pp46-98.

謝辞

本研究報告の調査にあたりましては, 全国の国公立373大学の担当部署様, 担当者様のご協力を仰ぎました。心より御礼申し上げます。

全国大学における自校教育授業の導入・実施状況

— 2008年度「大学における自校教育の実施状況調査」をふまえて —

○ 大川 一 毅（岩手大学）

はじめに

自学をテーマとする「自校教育」授業を導入・実施する大学が増えている。「大学全入時代」といわれる状況や、大学に対する「個性化・多様化」の要請など、大学を取り巻く現況もこの背景にある。2008年12月に出された中央教育審議会答申『学士課程教育の構築に向けて』においても、「初年次における教育の配慮」の記載の中で、「大学に期待される取組」として適応教育や自校史の学習を例示している。これらも視野に入れ、本報告は全国の大学を対象として実施したアンケートの調査結果をふまえ、大学における自校教育授業の導入・実施状況と今後の課題について明らかにする。

1. 調査の実施

本報告では、2008年8月に行った「大学における自校教育授業の実施状況調査」アンケートの結果を基礎とする。アンケートは、全国の国公私立すべての752大学に協力依頼し、373大学より回答を得た（回収率49.6%。うち国立62大学：回収率72%、公立51大学：回収率68%、私立260大学：回収率44%）。

アンケートの設問として、「自校教育授業の実施有無」、「自校教育授業の実施体制」、「自校教育授業の実施目的」、「自校教育授業の内容と方法」、「自校教育授業の類型」、「学生による授業評価」、「同窓会組織との関係」、「自校教育実施にあたっての課題・問題点」、及び「自由記述」を設定した。

調査にあたり、「自校教育」を「大学の理念、目的、沿革、制度、人物、教育・研究等の現況、社会的役割など、自校に関わる特性、現状、課題等を中心的な教育内容、教育題材として実施する授業科目もしくは教育活動」と大枠で定め、その具体的特定は各大学の判断に任せた。むしろ各大学が自校教育をいかにとらえ、授業として具体化しているかも視点とした。

2. 自校教育授業の実施状況

調査した全国752大学のうち、136大学が自校教育授業を「実施している」と回答した（全国大学総数の18%：未回答大学も母数に含む）。33大学が「検討中」と回答した。

回答からは196授業を確認した（国立54授業、公立18授業、私立124授業）。ただし、回答のあった授業のすべてにおいて毎時に自校教育内容を展開しているわけではない。授業計画全体を自学に関わるテーマと内容で構成する「フルパック」型授業は、回答授業中の30%である。むしろ、「フレッシュマン・セミナー」など初年次生のための導入教育科目に自校教育内容を一部織り込んで実施している場合が多い。

3. 自校教育授業の配置と履修対象者

カリキュラム上での授業区分（配置）については、「全学共通教」や「教養教育」での配置が多い。

履修指定は「必修科目」が48%、「選択科目」は41%であった。「必修科目」とする授業は私立大学での比率が高い。ただし、「必修科目」と回答した授業は、初年次生のための導入教育科目に多い。

履修対象者について、回答授業の50%が学士課程1年生に限定している。学士課程全学生の履修を認める授業は34%である。一方、1年生の履修を除外している授業は8%である。

自校教育授業を市民や高校生、保護者にも公開する大学がある。また、自校教育授業を大学職員が聴講したり、職員研修に援用する大学もあった。なお、授業の開講時期は、前期開講が多い。

4. 授業の実施形態 と授業担当者

回答196授業のうち、140授業(71%)が講義形式である。「フルパック」型授業では講義形式の比率がさらに高まる。ただし、「フルパック」型授業においても、大学をテーマにしての学生参画型授業事例や、大学内の博物館を活用する課題探求型授業事例もある。

授業にあたっては、回答授業の82%で「リレー型」等の複数教員体制を採用している。学長、理事長、大学役員、学部長が授業を担当する場合も多く、学外者や卒業生も招聘されている。

こうしたこともふまえ、回答授業の78%において「授業コーディネーター」を配置している。コーディネーターの職務は多岐にわたり、この負担が自校教育授業運営実施上の課題ともなっている。

大学職員が授業の企画運営に参画する場合もある。参画内容については、複数教員体制の補佐・調整の任務を託されていることが多いが、専門職スタッフとしての力量を活かした取り組みもある。

5. 自校教育授業の実施目的

実施目的について、「自学の理念・使命・目的の周知」、「自校史・沿革の理解」が回答上位である。設置別で見ると、国立大学では「自校史・沿革の理解」と「自学の現況の理解」、公立大学では「大学が立地する地域の理解」の回答が多い。私立大学では「自学の理念・使命・目的の周知」が最多で、これに「自校史・沿革の理解」、「大学への帰属意識の涵養」、「愛校心の涵養」が続く。

6. 同窓会の組織的関与

回答授業中の約10%において、授業の企画運営等に同窓会が組織的な関与をしていた。その内容は「授業実践」が最も多く、「授業の企画運営」がこれに続いた。また、同窓会が授業運営費を寄附講座として支援する事例もある。

7. 自校教育の課題

「自校教育授業を実施する上で労力を要した課題」として、「担当教員の選定」、「授業内容の整合性」、「授業目的や到達目標の設定」など、複数教員体制に起因する課題があがってきた。また「到達目標の設定」や「成績評価の基準」などの回答は、授業の「質保証」の課題とも考えられる。

結びに

自校教育授業について、各大学のとらえ方や位置づけは様々で、実施形態も多様である。むしろそうした多様性こそが特色であり、授業としての可能性を持つ。その一方で、授業実施上の課題や質保証の問題も浮かび上がってきた。今後、自校教育授業については、授業内容や方法の「成熟」を進めつつ、授業評価結果や教育成果の検証も含め、授業改善の視点に立った考察も必要であろう。

大学における自校教育授業の実施目的と内容・方法

— 2008年度「大学における自校教育の実施状況調査」をふまえて —

大川 一 毅（岩手大学）

はじめに

自学をテーマとする自校教育を導入実施する大学が増えている。自校教育は「大学のユニバーサル化」に対応した授業科目として、あるいは初年次教育プログラムの一環としても着目されている。2008年12月の中央教育審議会答申では「初年次における教育の配慮」の記載の中で、「大学に期待される取組」として適応教育や自校史の学習を例示した。

これらのことも視野に入れながら、大学における自校教育授業の実施状況、実施目的、教育内容・方法、等の現況について、全国の大学を対象とした調査結果をふまえ報告する。

1. 調査の実施

本報告では、2008年8月に行った「大学における自校教育授業の実施状況調査」アンケートの結果を基礎とする。アンケートは、全国の国公私立すべての752大学に協力依頼し、373大学より回答を得た（回収率49.6%）。アンケートの設問には「自校教育授業の実施有無」、「自校教育授業の実施体制」、「自校教育授業の実施目的」、「自校教育授業の内容と方法」、「自校教育授業の類型」、「学生による授業評価」、「同窓会組織との関係」、「自校教育授業実施にあたっての課題・問題点」、及び「自由記述」を設定した。

2. 自校教育授業の実施状況

調査した全国752大学のうち、136大学が自校教育授業を「実施している」と回答した。これら回答からは196授業を確認した（国立大学54授業、公立大学18授業、私立大学124授業）。ただし、回答にあった授業では、「フレッシュマン・セミナー」など初年次生のための導入教育科目に自校教育内容を一部織り込んで実施している場合も多かった。

授業配置は「必修科目」が48%、「選択科目」は41%であった。「必修」授業は初年次生導入教育科目に多い。履修対象者は、回答授業の53%が学士課程1年生に限定しており、学士課程全学生の履修を認める授業は34%である。授業開講時期は前期開講が多かった。

3. 自校教育授業の実施目的

実施目的について、回答196授業中134授業（68%）が「自学の目的・理念・使命の周知」をあげた。これに「自校史・沿革の理解（108授業：55%）」、「大学への帰属意識の涵養（77授業：39%）」、「学生の自己探求を深める機会の提供（74授業：38%）」、「自学の現況の理解（74授業：38%）」、「大学における学習意欲の促進（71授業：36%）」、「初年次導入教育の一環（67授業：34%）」、「教養・基礎教育の一環（67授業：34%）」が続いた。

国立大学（回答54授業）では「自校史・沿革の理解（28授業：52%）」と「自学の現況の理解（28授業：52%）」、公立大学（回答18授業）では「自学と地域社会の関係（12授業：67%）」の回答が最も多かった。私立大学（回答124授業）では「自学の理念・使命・

目的の周知 (97 授業 : 78%)」が最多で、これに「自学の沿革・歴史 (76 授業 : 61%)」、「大学帰属意識の涵養 (52 授業 : 42%)」、「愛校心の涵養 (51 授業 : 41%)」が続いた。

4. 自校教育で育成しようとする「学士力」

アンケートでは、自校教育授業の教育目標として、中央教育審議会大学分科会が提示した「学士力」の諸項目に該当するものがあるかをたずねた。回答 164 授業中、「社会情勢や自然、文化の理解」の回答が最も多く (106 授業 : 65%)、これに「倫理観 (70 授業 : 43%)」、「論理的思考力 (56 授業 : 34%)」、「課題解決能力 (56 授業 : 34%)」、「チームワーク・リーダーシップ (52 授業 : 32%)」が続いた。

「倫理観」については、自校教育授業が「自学の理念・使命・目的の周知」をふまえ、「養成しようとする人間像」に言及することの反映とも考えられる。

5. 自校教育授業の内容

自校教育授業の内容 (回答 196 授業) として「自学の理念・建学の精神 (133 授業 : 68%)」、「自学の沿革・歴史 (125 授業 : 64%)」が回答率 60%を超え、これに「自学と地域社会の関係 (83 授業 : 43%)」、「自学と関係する人物 (76 授業 : 39%)」、「自学の現状 (69 授業 : 35%)」が続く。授業計画全体を自学に関するテーマで構成する「フルパック」型の授業 (回答 59 授業) でも、「自学の沿革・歴史 (53 授業 : 93%)」、「自学の理念・建学の精神 (45 授業 : 79%)」、「自学と関係する人物 (37 授業 : 63%)」、「自学と地域社会の関係 (35 授業 : 59%)」、「自学の現状 (29 授業 : 49%)」が授業内容の主要な構成要素となっている。

6. 自校教育授業で使用する教材・施設・設備

使用教材として最も多かった回答 (回答 193 授業) は、「授業担当教員作成の資料やレジュメ (126 授業 : 65%)」である。自校教育授業用の冊子や書籍を、教育センターや大学史資料室等で編纂発行している事例もある。授業で使用する施設・設備については (回答 181 授業)、「特になし」の回答が最も多かったが (72 授業 : 40%)、「大学構内の建造物」(37 授業 : 20%)、「図書館 (収蔵コレクションも含む)」(28 授業 : 15%) の活用事例もあった。

7. 自校教育授業での成績評価方法

成績評価の方法 (回答 195 授業) をみると、「出席状況 (144 授業 : 74%)」、「レポート (143 授業 : 73%)」を採用している授業が多い。授業回ごとに担当教員が異なる場合が多い自校教育授業では、各教員が学生の理解度や反応を把握できるよう「毎授業時の感想文、作文、コメントカード」も 70 授業 (36%) で活用されている。これらの成績評価方法の採用比率は、いずれも「試験 (69 授業 : 35%)」の採用比率より高い。

むすびとして

自校教育授業について、各大学の位置づけや実施形態は多様である。むしろ、そのことが自校教育授業の特色や可能性となっている。その一方で、授業運営や「質保証」の課題も上がってきた。今後、自校教育授業については、授業評価結果や教育成果の検証も含め、授業改善の視点に立ちながら、授業内容や方法の考察を進めていくことも必要であろう。

自校教育授業における「到達目標」と「学士力育成」
—実施大学のシラバス記載とアンケート調査結果から—

大川 一毅（岩手大学）

はじめに

初年次教育や全学共通教育として「自校教育」を導入する大学が増えている。大学教育の「質保証」が求められている今日、これら自校教育授業においても具体的な到達目標の設定が重要課題となっている。2008年度に全国の752大学に回答依頼した自校教育実施状況調査アンケートでも、授業実施上の課題として「到達目標の設定」を回答した大学が多かった。

大学における自校教育授業にあつて、「授業実施目的」や「育成しようとする学士力」をどう設定し、「到達目標」として何を求めているのか。本発表では、これらの現況をアンケート調査結果及び授業シラバスから検証報告し、あわせて自校教育授業における「質の保証」についても言及したい。

1. 自校教育授業の類型

2008年実施のアンケートでは、実施目的や授業内容をもとに自校教育授業をいくつか類型化し、各大学の授業がこのいずれに該当するかをたずねた。その結果、196授業回答中で最も多かった類型は「自校理解教育類型（61授業：31%）」であり、これに「初年次教育類型（29授業：15%）」、「大学史（自校史）教育類型（17授業：9%）」が続いた。

これら自校教育授業の主要類型における「授業実施目的」及び「到達目標」について検証してみよう。

2. 類型ごとに見た授業実施目的と到達目標

(1) 自校理解教育類型

自校の理念、教育・研究目的、沿革、現況など、大学における諸様相の総合的な理解を導こうとするのが自校理解教育類型である。

この類型の授業実施目的として、アンケート（回答60授業）で回答率80%を超えた項目は「自学の理念・使命・目的の周知（51授業：85%）」と「自校史・沿革の理解（48授業：80%）」の2つである。これらに次いで「大学への帰属意識の涵養（29授業：48%）」、「愛校心の涵養（27授業：45%）」、「自学の現況の理解（26授業：43%）」などの回答も多かった。この授業類型では、学生が自学の理解を深めながら「大学で学ぶ意味」を見出し、それが大学生活への適応や学習の動機付けにつながり、やがて大学の一員としての自覚も形成されていくという効果も期待していた。

育成しようとする「学士力」について、アンケートでは「社会情勢や自然文化の理解」の項目を回答した比率が50%を超えたが、それ以外の項目は30%以下の回答比率だった。

シラバスに記載された「到達目標」を見るならば『自学の歴史を固有名詞や年代もふくめ他者に口頭または文章で説明できる』など「自学沿革の説明能力」を設定する場合は多

く、また『大学とはいかなるところかを理解する』、『大学で何を学ぶのかを認識する』など「自らの学びの位置を知る」ことを到達目標とする記載も目立った。

(2) 初年次教育類型

この授業類型は、「初年次導入教育」を授業計画全体で展開していくことを主眼とし、その一環として自校教育内容が織り込まれている。それゆえに、授業実施目的についてはアンケート結果（回答 29 授業）でも「初年次導入教育の一環（21 授業：72%）」、「自学の理念・使命・目的の周知（20 授業：69%）」、「学習方法の習得（19 授業：66%）」などの回答率が高かった。また「学生の自己探求を求める機会の提供（17 授業：59%）」、「自学の現況の理解（16 授業：55%）」、「大学における学習意欲の促進（16 授業：55%）」、「教養・基礎教育の一環（16 授業：55%）」などの回答率が 50%を超えた。

育成しようとする「学士力」については、アンケートで提示した「学士力項目」のすべてに対し、各項目均等に 50%前後の比率で選択回答された。

シラバスから自校教育内容に関連した「到達目標」を確認するならば、『大学で何を学ぶことができるのかを理解できる』、『大学で学ぶことの意義付け、人生における位置付け等について考えることができる』、『留学・就職・進学・ボランティア活動などの知識を身につけ、大学での過ごし方や将来のあり方を自ら設計できる』、『様々な学問分野に関心を持ち、自己の将来像を描きながら学習できる』など、「大学における学習指針の形成」や「学習意欲の形成」に関わる目標が設定されている。

(3) 大学史（自校史）教育類型

自学の沿革や歴史的変遷を主題とするのがこの授業類型である。授業の実施目的について、アンケート結果（回答 17 授業）でも「自校史・沿革の理解」の回答率が最も高い（16 授業：94%）。また、「大学への帰属意識の涵養（11 授業：65%）」、「自学の理念・使命・目的の周知（9 授業 53%）」、「愛校心の涵養（8 授業：47%）」、「自学の現況の理解（7 授業：41%）」などの回答率も高くなっている。

育成しようとする「学士力」として、アンケートでは「社会情勢や自然、文化への理解」の回答率が最も高く（59%）、これ以外の項目はすべて 20%未満の回答率だった。

シラバスに提示された「到達目標」には『大学の歴史・沿革について概略を説明できる』といった記載がなにより多い。この他に『大学について広い基礎知識を得ることができる』、『各自の将来像を念頭におきながら、常に自己の学生生活を対象化して考えられる』など大学理解や学生生活設計に関する到達目標があり、『地域や大学に対する誇り・愛着が涵養されることにより、地域に根ざした大学生としての自覚ある行動を身につけることができる』といった大学構成員としてのアイデンティティ形成を到達目標とする授業もあった。

まとめと今後の課題

自校教育授業においても「到達目標」の設定は進んでいる。しかし、「自校教育の質保証」を今後さらに推進するには、授業における到達目標と教育内容の整合性確認、到達目標に応じた指導法の工夫、学習成果検証や成績評価方法の開発、カリキュラム全体の中での自校教育の位置づけの確認など、これら諸事項を相互に関連させながら、あらためて授業の構築や検証に配慮していくことも重要であろう。

平成 23 年 3 月

発行：大 川 一 毅 (岩手大学 評価室)

〒 020-8550 盛岡市上田 3-18- 8

電話 019 - 621 - 6018

kazuki55@iwate-u.ac.jp

印刷：株式会社 白ゆり